

# 柏崎市の遺跡27

—新潟県柏崎市内遺跡 平成28年度試掘調査等報告書—

2017

柏崎市教育委員会

# 柏崎市の遺跡27

— 新潟県柏崎市内遺跡 平成28年度試掘調査等報告書 —

2017

柏崎市教育委員会



# 序

埋蔵文化財保護行政とは、文字どおり遺跡を守ることを目的とし、所在する自治体の責務で行います。遺跡内で工事が計画された場合、保護行政の観点から、まず計画の変更を考えなければなりません。しかしながら、市民の生活向上や安全性などのため、やむを得ず工事が必要となることがあります。その場合、工事で失われる範囲に対し発掘調査が行われます。調査により記録を保存することができますが、必要最小限の面積にとどめ可能な限りそのまま後世に残すべきです。また、事業者の費用負担も最小限に留めることが大切です。このため、保護部局は遺跡の範囲や深さなど事前に把握し、協議資料を整えておかなければなりません。

こうした目的で実施する試掘・確認調査は、柏崎市内遺跡発掘調査事業として国県の補助金を得て実施しています。第27期となる平成29年度は、これまでに6件の調査を実施しています。併せて、平成28年度（第26期）に実施した調査の整理業務も継続して行っています。本書では、平成28年度に実施した計9件の調査等の記録を収録しています。主な成果としては、7つの新たな遺跡を発見しました。工事と埋蔵文化財保護の両立を図るために、協議資料を得ることのできる試掘調査等の重要性は高いといえます。各調査は、小規模なものがほとんどですが、得られた資料の蓄積が、各地域における歴史の理解へつながるものと期待されます。

最後に、埋蔵文化財の保護に御理解と御協力をいただいた各土木工事等の事業主体者及び関係各位、日頃から本事業に格別なる御助力と御配慮をいただいている新潟県教育委員会、そして調査に参加されました調査員・補助員の皆様に対し、深く感謝と御礼を申し上げます。

平成29年12月

柏崎市教育委員会

教育長 本間敏博

# 例　　言

1. 本報告書は、新潟県柏崎市における各種の土木工事等に伴って実施した試掘調査・確認調査等の記録である。
2. 本報告書は、柏崎市教育委員会が主体となり、国・県の補助金を得て平成3年度から実施している「柏崎市内遺跡発掘調査等事業」により作成した。平成29年度は第27年次（第27期）であることから、本報告書は『柏崎市の遺跡27』とした。
3. 第27期で刊行する本報告書は、平成28年度に実施した、合計9件の試掘調査等の報告を所収する。試掘調査等の内訳は、周知の埋蔵文化財包蔵地における確認調査4件、試掘調査5件である。
4. 各調査の現場業務は、主に博物館職員及び埋蔵文化財事務所のスタッフを調査員・調査補助員として実施し、一部を業務委託して実施している。  
整理・報告書作成業務は、埋蔵文化財事務所（柏崎市西山町坂田）において、職員（芸芸員）を中心に行った。
5. 調査によって出土した遺物の注記は、各遺跡・地区等の略称の他、試掘坑名、層序等を併記した。
6. 本事業で出土した遺物並びに調査や整理業務の過程で作成した図面・記録類は、すべて一括して柏崎市教育委員会（埋蔵文化財事務所）が保管・管理している。
7. 本報告書の執筆は、次のとおりの分担執筆とし、編集は平吹が行った。

第II章、第III章、第VI章、第VII章、第IX章……………中島義人  
第X章……………池田孝博  
その他……………平吹　靖

8. 本書掲載の図面類の方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
9. 発掘調査から本書作成に至るまで、それぞれの事業主体者及び関係者等から様々な御協力と御理解を賜った。記して厚く御礼を申し上げる次第である。

有限会社伊原建築設計事務所　　有限会社ひまわりネットワーク　　創価学会　　大成建設株式会社  
柏崎土地改良区　　長嶺地区活性化委員会　　五日市・内方地区活性化委員会　　高田南部地区活性化  
委員会　　新潟県（柏崎地域振興局）　　新潟県教育委員会　　柏崎市

（順不同・敬称略）

# 目 次

I 序 説	1
II 長嶺地区（第1次）	5
III 五日市・内方地区（第1次）	7
IV 箕輪遺跡（第8次）	9
V 剣下川原遺跡（第3次）	13
VI 西岩野遺跡	16
VII 長嶺地区（第2次）	20
VIII 五日市・内方地区（第2次）	27
IX 西山内郷地区（第5次）	39
X 三ッ子沢遺跡（第2次）	41
XI 総 括	44
〈引用・参考文献〉	44

# 図版目次

図版1	長嶺地区（第1次）
図版2	五日市・内方地区（第1次）
図版3	箕輪遺跡（第8次） 1
図版4	箕輪遺跡（第8次） 2
図版5	剣下川原遺跡（第3次） 1
図版6	剣下川原遺跡（第3次） 2
図版7	西岩野遺跡 1
図版8	西岩野遺跡 2
図版9	西岩野遺跡 3
図版10	長嶺地区（第2次） 1
図版11	長嶺地区（第2次） 2
図版12	長嶺地区（第2次） 3
図版13	長嶺地区（第2次） 4
図版14	長嶺地区（第2次） 5
図版15	長嶺地区（第2次） 6
図版16	長嶺地区（第2次） 7
図版17	長嶺地区（第2次） 8
図版18	長嶺地区（第2次） 9
図版19	五日市・内方地区（第2次） 1
図版20	五日市・内方地区（第2次） 2
図版21	五日市・内方地区（第2次） 3
図版22	五日市・内方地区（第2次） 4
図版23	五日市・内方地区（第2次） 5
図版24	五日市・内方地区（第2次） 6
図版25	五日市・内方地区（第2次） 7
図版26	五日市・内方地区（第2次） 8
図版27	五日市・内方地区（第2次） 9
図版28	西山内郷地区（第5次）
図版29	三ッ子沢遺跡（第2次）

## 挿 図 目 次

第23図 五日市・内方地区(第2次)試掘調査 基本層序柱状模式

① / 33

第1図 平成28年度柏崎市埋蔵文化財調査(現場委務) 工程図 / 2

第2図 平成28年度試掘調査等位置図 / 4

第3図 長嶺地区(第1次)試掘調査 トレンチ位置図・土層柱状  
模式図 / 5

第4図 長嶺地区(第1次)試掘調査 出土遺物 / 6

第5図 五日市・内方地区(第1次)試掘調査 位置図 / 7

第6図 五日市・内方地区(第1次)試掘調査 トレンチ位置図・  
土層柱状模式図 / 8

第7図 瓢輪遺跡(第8次)確認調査 対象区位置図 / 10

第8図 瓢輪遺跡(第8次)確認調査 トレンチ配置図 / 11

第9図 瓢輪遺跡(第8次)確認調査 基本層序柱状模式図 / 12

第24図 五日市・内方地区(第2次)試掘調査 基本層序柱状模式

② / 34

第25図 五日市・内方地区(第2次)試掘調査 出土遺物① / 35

第26図 五日市・内方地区(第2次)試掘調査 出土遺物② / 36

第27図 西山内郷地区(第5次)試掘調査 位置図 / 39

第28図 西山内郷地区(第5次)試掘調査 トレンチ位置図・土層  
柱状模式図 / 40

第29図 三ッ子沢遺跡(第2次)確認調査 対象区位置図 / 41

第30図 三ッ子沢遺跡(第2次)確認調査 試掘坑配置図 / 42

第31図 三ッ子沢遺跡(第2次)確認調査 基本層序柱状模式図

/ 43

第10図 刈下川原道路(第3次)確認調査 対象区位置図 / 14

第11図 刈下川原道路(第3次)確認調査 トレンチ配置図 / 15

第12図 刈下川原道路(第3次)確認調査 基本層序柱状模式図 / 15

第13図 西岩野遺跡確認調査 位置図 / 16

第14図 西岩野遺跡確認調査 トレンチ位置図 / 18

## 挿 表 目 次

第1表 柏崎市内遺跡発掘調査等事業調査体制 / 2

第2表 長嶺地区(第2次)試掘・確認調査 トレンチ一覧表 / 26

第3表 五日市・内方地区(第2次)試掘調査 トレンチ一覧表

第4表 五日市・内方地区(第2次)試掘調査 出土遺物観察表

第5表 五日市・内方地区(第2次)試掘調査 対象区位置図 / 28

第6表 五日市・内方地区(第2次)試掘調査 トレンチ配置図 / 29

第7表 五日市・内方地区(第2次)検出遺構見取図 / 32

# I 序 説

## 1 平成28年度 柏崎市の埋蔵文化財業務

柏崎市教育委員会（以下、柏崎市教委とする）では、補助事業として第26期となる平成28年度も国県の補助金を得て緊急目的の試掘調査等を実施し、第27期となる平成29年度（当該年度）に整理作業を継続した。本書には、おもに平成28年度に実施した試掘調査等について調査成果を掲載した。以下では、平成28年度の調査業務について概観する。

**業務概要** 平成28年度、市教委では、文化財保護法第93条の届出21件、第94条の通知17件を受理した（平成27年度、届出17件、通知12件）。また、土木工事等に係る埋蔵文化財の所在確認が51件（平成27年度、81件）、不動産調査に係る所在確認は114件（平成27年度、83件）依頼があった。

実施した調査（現場業務）としては、本発掘調査1件、試掘調査・確認調査9件、工事立会27件である。また、各種調査に伴う整理作業も並行して進めており、6冊の報告書（『柏崎市の遺跡26』・『礎辺I』・『長嶺前田』・『礎辺II』・『中田下川原』・『久保田』）を刊行している〔柏崎市教委2016 b・同2017 a・同2017 b・同2017 c・同2017 d・同2017 e〕。

その他、7月23日～8月28日には、柏崎市立博物館を会場に、平成28年度夏季企画展「石の考古学」を開催した。展示内容としては、石器や石製品、石造物などを紹介し、主に考古学の視点から、石と人の関わりとその歴史について知ることをテーマとした。約570点の資料を展示し、約10,632名の来場があった。関連催事として8月6日に勾玉づくりを行った。親子での参加が目立ち26名の参加があった。

**試掘調査・確認調査** 各種の開発事業等について、施工区域内における遺跡の有無等を確認するための試掘調査、範囲・性格・内容等の概要までを把握するための確認調査を実施した。平成28年度に実施した全9件の試掘調査・確認調査を原因事業別にまとめると、県道拡幅工事1件（西岩野遺跡）、県営ば場整備事業5件（長嶺地区第1次、五日市・内方地区第1次、長嶺地区第2次、五日市・内方地区第2次、西山内郷地区第5次）、その他民間等事業3件（箕輪遺跡第8次、剣下川原遺跡第3次、三ッ子沢遺跡第2次）となる。なお、平成27年度に実施した試掘調査・確認調査の件数は8件、平成26年度の実施件数が9件であり、柏崎市における調査件数は、近年、横ばい状態となる。ただし、県営ば場整備事業に係る調査面積は約80haにもおよび、実調査面積や調査日数、調査経費の占める割合は増加傾向とある。

**工事立会** 調査対象範囲が狭小な場合や、工事による遺跡への影響が軽微である場合などにおいて実施した。平成28年度に実施した27件の工事立会を原因事業別にみると、県道関連工事2件（山崎遺跡、上条城跡）、県営ば場整備事業6件（前掛り遺跡、丸山遺跡、不退寺遺跡、沢田遺跡、下南下遺跡、伊毛新田遺跡）、市道関連工事4件（新屋敷遺跡、山王前遺跡、沢田遺跡、城塚遺跡）、その他民間工事15件（丘江遺跡、藤井城跡2件、箕輪遺跡8件、角田遺跡、三ッ子沢遺跡、裏浜遺跡、赤沢遺跡）となる。民間工事は住宅建築に係るもののが大半であり、文化財保護法の届出とともに増加傾向にある。

**本発掘調査** 現場業務としては、記録保存のための調査として、角田遺跡において1件実施している（市道拡幅工事範囲）。本発掘調査に伴う報告書は業務概要とのおり4冊を刊行することができた。

道跡名・地区名	所在地	調査原因	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	対象面積	現状	備考
<b>本年度調査</b>																	
内田遺跡	細	市道改良工事													270		
<b>既往調査</b>																	
長嶺地区（第1次）	西山町長嶺	熱曾ため池整備	■												800	II	
五日市地区（第1次）	西山町五日市	熱曾ため池整備	■												2,800	III	
箕輪遺跡（第8次）	平田1丁目	民間工事	■												581	IV	
西下川原遺跡（第3次）	細	熱曾改良工事	■												367	V	
西岩野遺跡	山本	熱曾改良工事	■												680	VI	
長瀬地区（第2次）	西山町長瀬	熱曾注溝整備	■												290,000	VII	
五日市地区（第2次）	西山町五日市	熱曾注溝整備	■												500,000	VIII	
上山田地区	西山町上山田	熱曾注溝整備	■												70,000	IX	
三ヶ子沢跡（第2次）	久米	集落公園造成	■												300	X	
<b>工事立会</b>																	
新保駁道跡	上条	市道改良工事	■	■													
新保り遺跡	新保	熱曾注溝整備	■	■													
大輪遺跡①②③④⑤⑥⑦⑧	平田1丁目	民間工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
大山遺跡	塙	熱曾注溝整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
不道寺遺跡	下田尻	熱曾注溝整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
庄北	平田3丁目	民間工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
藤井城跡①②	藤井	民間工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
山王前遺跡	宮平	市道改良工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
内田遺跡①	細	民間工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
三ヶ子沢跡	久米	民間工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
内田遺跡②	藤崎	熱曾注溝整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
武井遺跡②	藤崎	市道整備建設	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
下南下	南下	熱曾注溝整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
東尻遺跡	東尻町	民間工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
山崎遺跡	山崎2丁目	県融資需給建設	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
城塙遺跡	城塙	市道改良工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
上条城跡	上条	馬歩道整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
伊毛新田遺跡	西山町伊毛	熱曾注溝整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
多沢遺跡	赤坂町	民間工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
<i>(年度：a)</i>																	
<b>第1図 平成28年度柏崎市埋蔵文化財調査（現場業務）工程図</b>																	

年度／業務	平成28年度 現場業務・整理業務		平成29年度 整理業務
調査主体	柏崎市教育委員会 教育長 木間敏博		
所 管	博物館 埋蔵文化財係		
総 括	猪俣哲夫（教育部長） 田村光一（館長）		
監 理	多田利行（館長代理兼係長）	小池久明（館長代理兼係長）	
庶 務	重住知夏（非常勤職員）		
調査担当	平次 靖（主任・学芸員） 中島義人（主任・学芸員）		
調査員	池田孝博（主査・学芸員） 阪田友子（非常勤職員） 徳間香代子（非常勤職員） 池田朝子（非常勤職員）	池田孝博（主査・学芸員） 阪田友子（非常勤職員～平成29年6月） 徳間香代子（非常勤職員） 池田朝子（非常勤職員） 白井かおり（非常勤職員 平成29年7月～）	
調査・整理 補助員	安澤和子、池田文江、加藤章恵、白川智恵、山岸サチ子、吉浦啓子		

第1表 柏崎市内遺跡発掘調査等事業調査体制

## 2 調査体制

平成28年度の現場業務から平成29年度の報告書刊行に至るまでの調査体制は、第1表のとおりである。

## 3 柏崎平野と試掘調査等の位置

**柏崎平野概観** 新潟県の中央部は中越地方と呼ばれている。中越は、標高1,500m級以上の連山が続く東側と、河川や海岸に沿って発達した段丘・平野がみられる西側に区分されるが【小林ほか2008】、柏崎平野は西側の一部である。柏崎平野は、鯖石川と鵜川を主要河川として形成された臨海沖積平野であり、各河川は個々に独立した水系を持っている。そして、信濃川水系の越後平野や関川水系による頸城平野とは、丘陵や山塊による分水嶺によって隔離されており、ひとつの独立した平野を形成している。

柏崎平野を取り巻く丘陵・山塊は、東頸城丘陵の一部である。柏崎平野一帯の丘陵地形は、北流する鵜川・鯖石川によって西部・中央部・北～東部に3分され、それぞれ米山・黒姫山・八石山の刈羽三山を頂点とする。西部は、米山を頂点とした傾斜の強い山塊であり、現在も隆起を続けているとされている。これら山塊・丘陵地形の広がりは海岸にまで達し、米山海岸と称される国定公園の景勝地を形成する。米山海岸の景観は、沿岸部に低位・中位・高位の各段丘による断崖が顕著であり、沖積地は少なく、海辺は漂石海岸で砂浜もほとんどみられないことが特徴となっている。中央部は、黒姫山を頂点に北へ緩やかに高度を下げ、沖積地に接する一帯には広い中位段丘を形成するとともに、その北側には湿地性の強い沖積地が広がっている。北～東部は、北東方向の背斜軸に沿って、西山丘陵・曾地丘陵・八石山丘陵が北から規則的に並び、向斜軸に沿って別山川・長島川といった鯖石川の支流が東西に流れ出る。

平野の地形は、中・上部更新統～完新統からなる段丘、多くが地下に埋没した上部更新統からなる古（旧期）砂丘のほか、更新統の最上部～完新統からなる河道・旧河道・自然堤防・後背湿地・新砂丘などに区分される【柏崎平野団体研究グループ1979】。日本海に洗われる北西部は海岸に沿って荒浜砂丘・柏崎砂丘が横たわり、現在では柏崎の市街地がこれを覆っている。平野部をなす沖積地は、砂丘後背地として湿地性が強く、鵜川・鯖石川の蛇行により、各所に縦筋の自然堤防が形成されている。なお、柏崎平野には、柏崎市のほかに刈羽郡西山町・同郡刈羽村・同郡高柳町が所在したが、平成17年5月に西山町・高柳町が柏崎市に合併したため、現在は別山川流域の一部に刈羽村域がある以外は、柏崎市域が大半を占めている状況である。

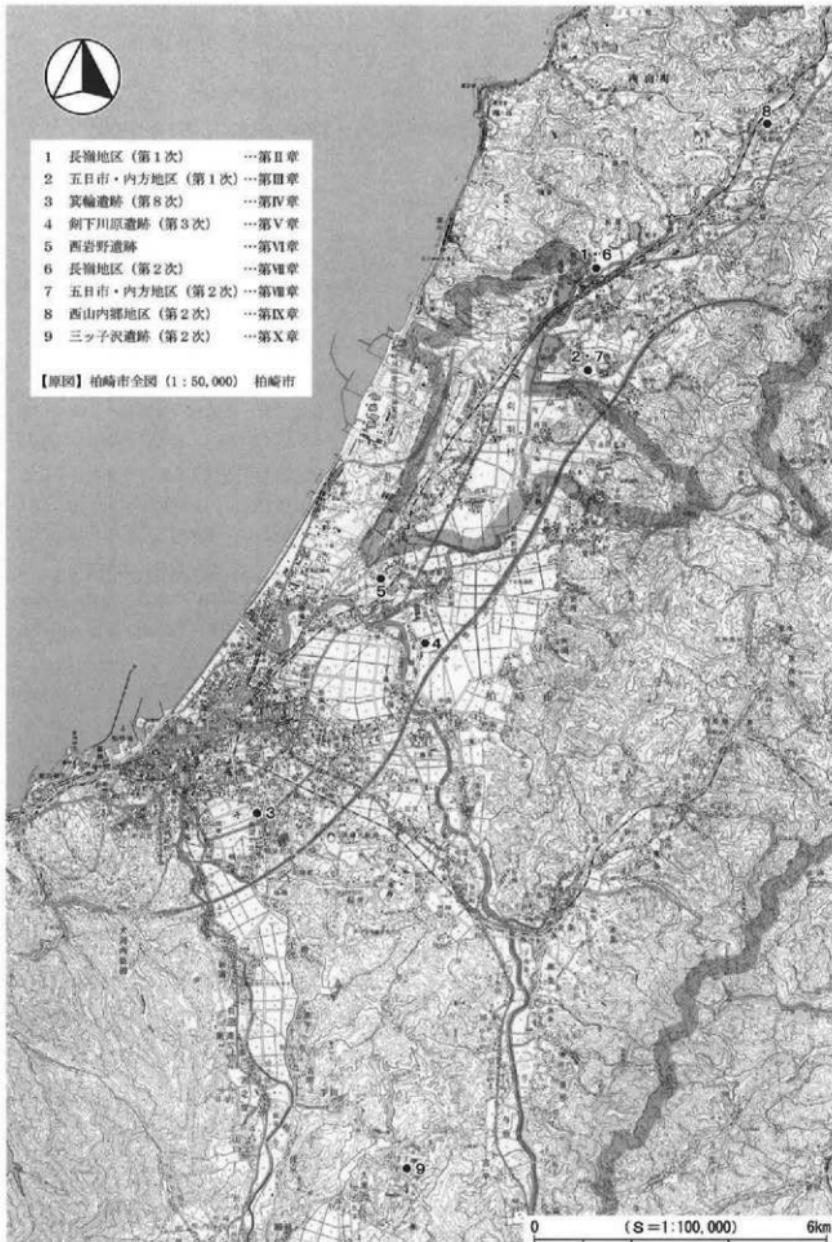
柏崎北部では、西山町・刈羽村を流れる別山川が沖積地を形成している。鯖石川の最大の支流となる別山川は、西山町内における上中流部では幅の狭い沖積地を作りだし、下流部となる刈羽村域では急激に幅を広げて柏崎平野の北端部を形成する。

**平成28年度試掘調査等の位置** 平成28年度に実施した試掘・確認調査の9件について本書で報告している。これらの調査位置を河川の流域別にみると、鵜川中流域～下流域1件（箕輪遺跡第8次）、鯖石川中～下流域2件（剣下川原遺跡第3次、西岩野遺跡）、別山川上～中流域5件（西山内郷地区第2次、長嶺地区第1次、同地区第2次、五日市・内方地区第1次、同地区第2次）となる。その他、黒姫山系丘陵1件（三ッ子沢遺跡第2次）という内訳である。全体的には西山町を縦断する別山川流域の調査が多く、水田地帯となる沖積地での調査が主体となる。それぞれの位置や環境については、各章を参照されたい。



- |                 |         |
|-----------------|---------|
| 1 長瀬地区（第1次）     | …第II章   |
| 2 五日市・内方地区（第1次） | …第III章  |
| 3 箕輪遺跡（第8次）     | …第IV章   |
| 4 剣下川原遺跡（第3次）   | …第V章    |
| 5 西岩野遺跡         | …第VI章   |
| 6 長瀬地区（第2次）     | …第VII章  |
| 7 五日市・内方地区（第2次） | …第VIII章 |
| 8 西山内部地区（第2次）   | …第IX章   |
| 9 三ッ子沢遺跡（第2次）   | …第X章    |

【原図】柏崎市全図 (1 : 50,000) 柏崎市



第2図 平成 28年度試掘調査等位置図

## II 長嶺地区（第1次）

— 経営体育成基盤整備事業長嶺地区に伴う第1次試掘調査 —

### 1 調査に至る経緯

長嶺地区は柏崎市西山町の南西部に位置し、南を流れる別山川と北西側の西山丘陵に挟まれた冲積地に水田地帯が広がる。ここで新潟県が事業主体の経営育成基盤整備事業長嶺地区が計画された。事業の中核はほ場整備である。市教育委員会は事業を担当する新潟県柏崎地域振興局農業振興部と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。事業予定地では長嶺前田遺跡が昭和化されているが、範囲に不明瞭なところがあった。また、未知の遺跡が存在する可能性もあることから、事前に試掘・確認調査を行い、遺跡の分布状況を明らかにすることとした。調査対象範囲は事業予定地の全域で、調査時期は平成28年度の春より後とした。ただし、揚水機場建設予定地については、早期の調査を要望されたため、第1次調査として同年度の田植え前に行うこととなった。

平成28年4月8日付け厚第502号で文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告書を新潟県教育長へを行い、4月13日に試掘調査を実施した。



第3図 長嶺地区（第1次）試掘調査 レンチ位置図・土層柱状模式図 (S = 1 : 40)

## 2 調査の概要

### 1) 調査の方法

調査対象である揚水機場建設予定地は、長嶺地区西端付近の水田で、面積は約800m<sup>2</sup>である。別山川右岸の畔に位置し、東側には市立二田小学校がある。耕作への支障を考慮して調査トレンチは区画内のはば中央の1カ所とした。トレンチの掘削には法面バケットを装着した0.15m<sup>3</sup>級のバックホウを用いた。調査トレンチは幅1.9m、長さ4.0m、面積7.6m<sup>2</sup>となり、調査対象地に占める割合は0.95%である。

### 2) 基本層序

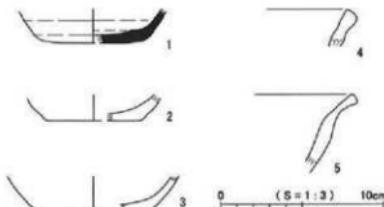
I層は灰黄褐色の耕作土である。II層は灰色粘土層、III層は暗灰色粘土層、IV層は灰色粘土が混じる黃灰色粘土層である。V層は黒褐色粘土層で細かい炭化物が少量混じる。遺物包含層で、土師器と須恵器が出土した。VI層は灰白色粘土層の地山相当層である。精査したが、遺構は見つからなかった。VI層をさらに掘り下げるに青灰色粘土層になる。

### 3) 出土遺物

V層で出土した遺物は、土師器26点、須恵器1点である。土師器は摩耗した小破片が多いが、無台碗2点と鍋2点を確認できる。無台碗はいずれも底部の破片で、器表が摩耗しているため調整は不明である。鍋は口縁部破片で、これも器面の調整は摩耗している。口縁部が大きく外反し、口縁端部の断面は方形となる。須恵器は無台杯の底部破片で、底部外面のヘラ切り痕を丁寧にナデ消す。焼成は良好である。いずれも9世紀代のものとみられる。その他に、厚さ1cm程度の焼土塊が出土した。

## 3 調査のまとめ

今回の調査では遺物が一定量出土したが、遺構は確認できなかった。試掘トレンチの規模に対して、出土した遺物の量は比較的多いと思われる。今回は田植え前に調査せざるを得なく、耕作に支障が生じたため試掘トレンチを増やすことができず、遺跡の詳細は明らかにできなかった。遺構が見られず、ここに集落が営まれていたのか、その他の理由で遺物が流れ込んできたのかは不明である。しかし、一定量の遺物が出土したため、今回調査を行った水田を新発見の長嶺川田遺跡として新潟県教育委員会へ報告した。事業実施前に追加の調査を行い、遺跡の様相を確認することとした。



第4図 長嶺地区（第1次）試掘調査 出土遺物

### III 五日市・内方地区（第1次）

- 経営体育成基盤整備事業五日市・内方地区に伴う第1次試掘調査 -

#### 1 調査に至る経緯

五日市・内方地区は柏崎市西山町の南部に位置し、南に流れる妙法寺川を境として刈羽郡刈羽村に接する。地区のほぼ中央に農業用ため池の大池があり、これを独立した小丘陵が「コ」の字状に囲んでいる。この小丘陵上には野崎遺跡があり、縄文時代後期を中心に、弥生時代後期や古代の遺物が出土している。大池と丘陵の周囲には水田地帯が広がる。

この五日市・内方地区で新潟県が事業主体の整備事業が計画され、経営体育成基盤整備事業五日市・内方地区として実施することになった。これを受け、市教育委員会は事業を担当する新潟県柏崎地域振興局農業振興部と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。事業予定地の周辺では先述の野崎遺跡や畠田遺跡、宮ノ前遺跡が見つかっているが、工事予定の範囲内に遺跡は存在しなかった。しかし、未周知の遺跡が存在する可能性があることから、事前に試掘調査を行うことになった。調査対象範囲は事業予定地の全域で、調査時期は平成28年度の種刈り後とした。ただし、長嶺地区と同様に揚水機場建設予定地については早期の調査を要望されたため、同年度の田植え前に行うこととなった。

平成28年4月8日付け博第503号で文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を新潟県教育長へ行い、4月13日に試掘調査を実施した。

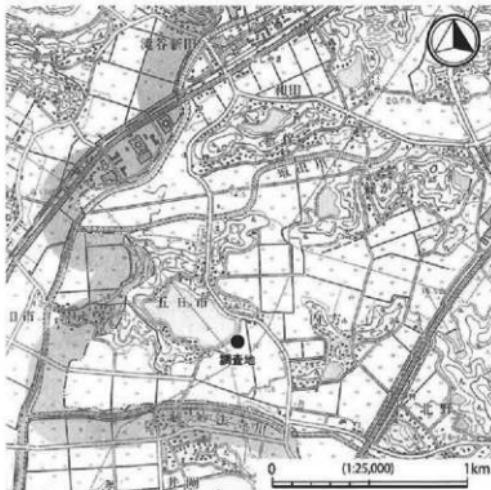
#### 2 調査の概要

##### 1) 調査の方法

調査対象となる揚水機場建設予定地は大池の南東側に隣接する2区画の水田で、面積は約2,800 m<sup>2</sup>である。耕作への支障を考慮して調査トレンチは1カ所とした。トレンチの掘削には法面バケットを装着した0.15 m<sup>3</sup>級のバックホウを用いた。調査トレンチは幅1.7 m、長さ2.3 m、面積3.91 m<sup>2</sup>であり、調査対象地に占める割合は0.13 %である。

##### 2) 基本層序

I層は灰黄褐色の耕作土である。II層は灰色粘土層、III層は暗灰色粘土層、



第5図 五日市・内方地区（第1次）試掘調査 位置図

IV層は青灰色砂混じりの灰色粘土層、V層は青灰色粘土混じりの灰色粘土層である。VI層は、黒色腐植土層と腐植物混じりの青灰色粘土層が薄く交互に堆積するものをまとめた。VI層は腐植物が多量に混じる灰色粘土層で、30cm以上の堆積を確認した。一部で深掘りをしたが、基底部になると思われる灰白色や青灰色の粘土層は確認できなかった。遺構や遺物はいずれの層でも出土していない。

### 3 調査のまとめ

今回の調査では、遺構、遺物ともに確認されず、遺跡は存在しなかった。現在は護岸により調査地は隔てられているが、それ以前は大池周辺の湿地帯の様相を呈していたと考えられる。



## IV 箕輪遺跡（第8次）

- 宅地造成工事に係る第8次確認調査 -

### 1 調査に至る経緯

箕輪遺跡は柏崎市街地から南方へ約1kmの距離に位置し、柏崎市大字枇杷島から半田地内に渡る広範囲な遺跡と推定されている。地形的には、鶴川の支流である源田川・横山川との間に挟まれた沖積地に相当する。遺跡の現況は西側が水田地帯であり、東側は中位段丘の縁辺に接し宅地化が進んでいる。本遺跡の立地する鶴川下流域の沖積地は低地であり、標高は約2~4mとなる。周囲よりも低い低地であることから、過去、鯖石川が鶴川まで流れ込み、当該地一帯が鏡ヶ沖と称される湖沼であったという伝承が残っている。

遺跡は昭和57年に発見されており、当初は遺物の散布状況から遺跡範囲が推定され、東西約350m、南北約500mにもおよぶ遺跡範囲が推定されていた。その後、柏崎市教育委員会では諸開発に伴い計7回の試掘・確認調査が実施されている。民間開発の多い東側での調査が多く、古代の遺物・遺構が検出されている。一方、国道8号柏崎バイパス建設に伴い、新潟県教育委員会による調査が遺跡を横断する範囲で実施されている。平成7年度に法線内の試掘・確認調査が実施され、平成8年~12年度に本發掘調査が実施されている。約590mにもおよぶ延長範囲から、弥生~古墳時代、平安時代、中世の遺物・遺構が検出されている。平安時代の「駅家村」と記された木簡や漆塗證などの貴重な遺物も発見されており、官衙に関わりのある遺跡と推定されている。

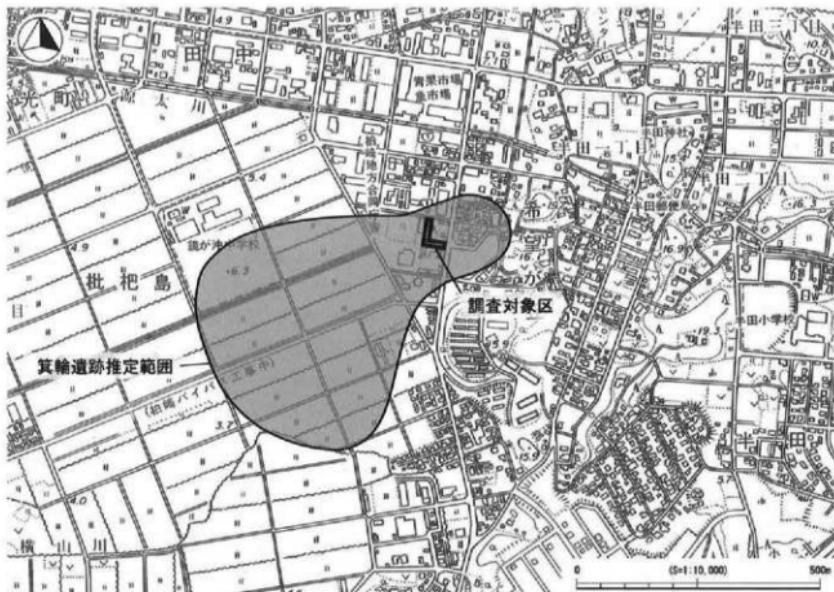
第8次確認調査の対象工事は民間宅地造成であり、平成27年10月に事業主体者と協議を開始した。文化財保護法第93条に基づく届出は、平成28年3月9日付けで事業主体者から提出された。工事概要は、宅地部分は概ね現状のまとなるが、道路（私道）建設部分を対象に確認調査を実施する必要があると判断された。市教育委員会は3月14日付け博第653号の2で県教育委員会に意見を付して進呈した。その後、県教育委員会から3月18日付け教文第1326号で、市教育委員会が確認調査を実施するよう通知があった。

確認調査の実施にあたっては、平成28年4月20日付け博第529号で文化財保護法第99条に基づく発掘調査の報告を提出し、4月27日に確認調査を実施した。終了報告は5月10日付け博第520号で県教育委員会に提出している。なお、平成27年6月には南側に隣接する宅地に対し第7次確認調査を実施しており【柏崎市教委2016b】、今回の確認調査は第8次となる。

### 2 調査の概要

#### 1) 調査の目的と方法

確認調査の目的は、当該事業により掘削工が生じる範囲内における遺跡の広がりなどを把握することである。調査区現況は駐車場跡地であり、過去に盛土整地がなされていた。ただし、遺跡の正確な深度については不明確であり、調査で事前に把握する必要があった。当該事業における掘削工事は、概ね私道建設範囲に限定されるため、調査対象はひとまずこの範囲に限定した。



第7図 箕輪遺跡（第8次）確認調査 対象区位置図

試掘トレンチ発掘は大型バックホウ（0.7m<sup>3</sup>）を使用した。対象範囲内の任意の位置3ヶ所に試掘トレンチを設定した。調査対象区の面積は約581m<sup>2</sup>ある。盛土は砂であり崩落が懸念されるため、トレンチ内へ侵入しての人力による遺構確認や分層作業は行わないものとした。発掘した3つのトレンチの合計面積は約32.3m<sup>2</sup>であり、調査対象面積に対する発掘面積の比率（発掘率）は約5.6%となる。

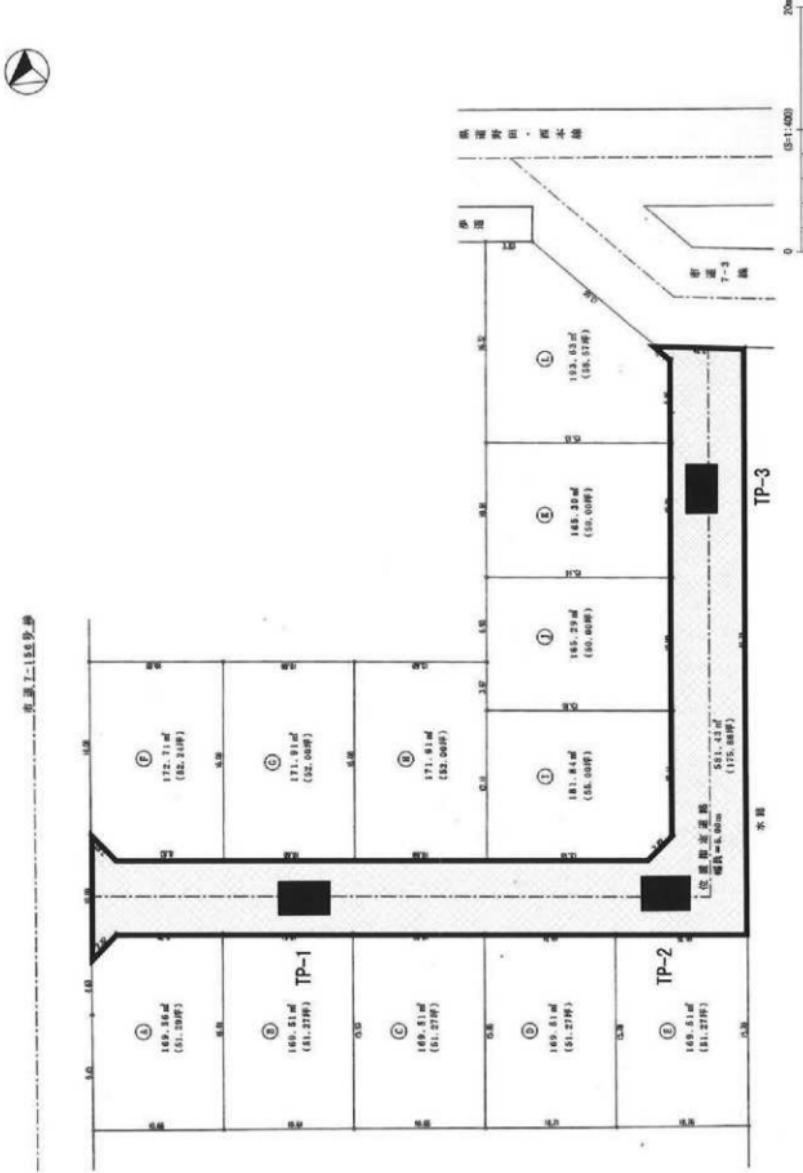
## 2) 調査の経過と試掘トレンチの概要

試掘調査は、平成28年4月27日の1日間で実施した。調査員は担当職員を含む5名となる。天候は晴れであった。調査対象は、L形の道路建設範囲である。この範囲は事前に事業主体者の測量により明示されており、範囲内に試掘トレンチ3ヶ所を設定した（TP-1～3）。盛土が砂であり、湧水と崩落が激しいため、試掘トレンチ内の侵入は行わず、基本層序の標高は目測によるものとした。ただし、調査地点付近に座標値をもつ基準点が存在するため、地表面の標高測量はこれを利用している。

**TP-1** 調査対象区の北側に設定した。トレンチの大きさは、幅約2.7m、長さ約4.1mとなる。砂による盛土の堆積が厚く、深度約1.1mまで堆積していた。盛土以下には腐植物を含む暗灰色粘土が堆積しており、かつての水田耕作土と判断された。深度約1.3mで含まない青灰色粘土が検出された。炭化物等を含まず地山と判断された。湧水と壁の崩落により、トレンチ内への侵入が不可能であり、重機の掘削直後に遺構・遺物の確認を実施したが、本トレンチでは確認されなかった。

**TP-2** TP-1の南側約25mに位置する。トレンチの大きさは、幅約2.8m、長さ約4.0mである。堆積状況はTP-1と類似するものであり、深度約1.0mで暗灰色粘土が検出された。その直下にはやや明色の灰色

第8図 芸輪進路(第8次)確認調査 トレーニング図



粘土が堆積していた。青灰色粘土は深度約1.3mで検出された。遺構・遺物は発見されなかった。

**TP-3** TP-2の東側約29mに位置する。トレンチの大きさは、幅約2.5m、長さ約4.0mである。堆積状況はTP-1・2と類似するものであり、深度約0.9mで暗灰色粘土、深度約1.1mで灰色粘土が検出された。暗灰色粘土の掘削中に近世陶磁器1点、灰色粘土の掘削中に土師器1点が出土した。青灰色粘土の上面で遺構を確認したが、発見することはできなかった。

### 3) 基本層序

確認調査で検出された土層は、概ね4層に分類される。

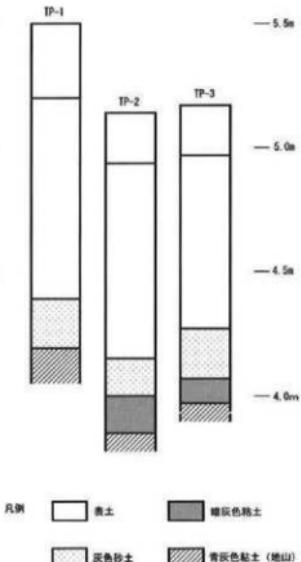
第Ⅰ層は現表土であり、近年の造成で盛土された碎石および砂である。全体に深度約1mまでおよんでいた。第Ⅱ層は暗灰色粘土であり、腐植物を含み旧水田に係る層と考えられる。第Ⅲ層は灰色粘土である。微細な炭化物を含み、TP-3から土師器が出土している。遺物包含層ととらえられる。第Ⅳ層は青灰色を呈する粘土であり、炭化物等は含まず沖積地における地山と考えられる。本層の上面で遺構の有無を確認した。検出標高は3.8～4.2mとなる。

### 4) 出土遺物（図版4-h）

遺物は土師器がTP-3の包含層内から1点出土した。また、TP-3の旧水田耕作土から壺と推定される近世陶磁器片が1点発見されている。何れも小片であり、器形が推定できないため図化は割愛した。

## 3 調査のまとめ

調査対象区内から僅かながら遺物が出土しており、遺跡の範囲内と考えられる。ただし、遺構は検出されなかった。南側に隣接する第7次確認調査の対象区でも遺構は検出されておらず、遺構の空白部分と推定される。国道8号柏崎バイパス事業に伴い新潟県教育委員会が実施した平成7年度の試掘調査範囲でも、近接する南側の延長約200mに渡り遺物・遺構が未検出であった。そして、平成8・9年度に実施した本発掘調査区（A区、B・C区の西端）では遺構密度が極めて低い状況となる〔新潟県教委2015〕。こうした調査結果の蓄積から、今回の調査対象区付近が居住域に適さない立地であったと推定される。当遺跡周辺は近年小規模開発が連続しており、宅地化が急速に進んでいる。遺跡の主体部分は未だ不明確な状況にあり、今後も各種調査を継続的に行うことで、遺跡の実態が明らかになることが期待される。



第9図 箕輪遺跡（第8次）確認調査  
基本層序柱状模式図（S=1/20）

## V 剣下川原遺跡（第3次）

- 宅地造成工事に係る第3次確認調査 -

### 1 調査に至る経緯

剣下川原遺跡は柏崎市街地から北東へ約4.5kmの距離となる鰐地区に位置する。地形的には鰐石川中流域右岸に所在する。遺跡は古墳時代～平安時代の遺跡とされているが、大規模な開発等に伴う調査は実施されておらず、実態は不明である。平成12年度に第1次確認調査が実施されており、古代の遺物包含層が確認されている【柏崎市教委2002】。平成23年度に第2次確認調査が実施されており、遺物・遺構は発見されていない【柏崎市教委2013】。

今回実施した調査は民間宅地造成工事に伴うもので、確認調査としては第3次となる。平成28年4月14日に事業主体者との協議を行い、確認調査により遺跡の広がり等を事前に把握する必要があると判断された。造成地内には市道建設も計画されており、遺跡が確認された場合は、本発掘調査が必要になる場合が想定された。

文化財保護法第93条に基づく届出は、平成28年4月18日付けで事業主体者から提出された。市教育委員会は4月20日付け博第506号の2で県教育委員会に確認調査が必要な旨の意見を付して進達した。その後、県教育委員会から4月26日付け教文第139号で、市教育委員会が確認調査を実施するよう通知があった。その後、調査の実施にあたり、平成28年5月10日付け博第522号で文化財保護法第99条に基づく発掘調査の報告を提出し、5月12日に確認調査を実施した。終了報告は5月18日付け博第529号で県教育委員会に提出している。

### 2 調査の概要

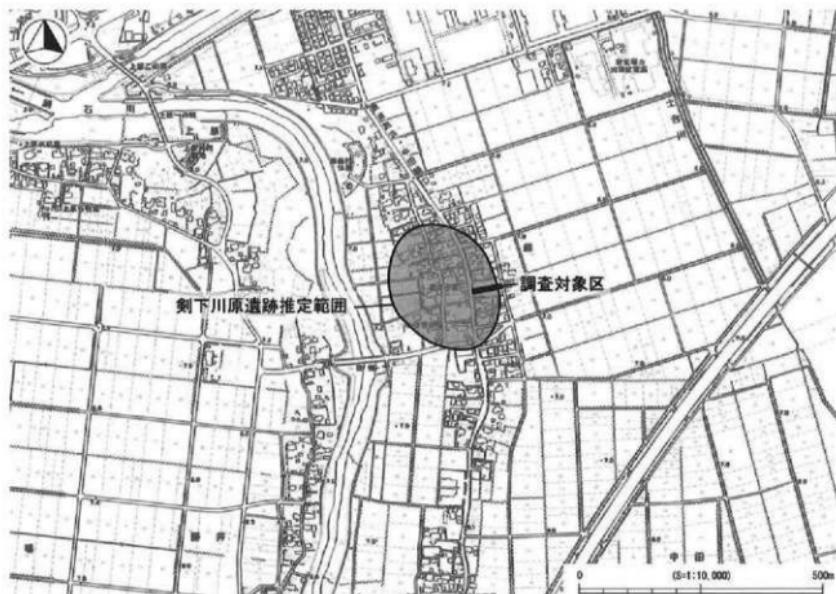
#### 1) 調査の目的と方法

確認調査の目的は、宅地造成範囲内における遺跡の広がりなどを確認することである。調査区は以前から宅地化されており、本来の地形はうかがえない状況であった。標高は75m前後となる。調査対象範囲は、ひとまず掘削工事が生じる道路建設予定地とした。

試掘トレンチの発掘はバックホウ（0.25m<sup>3</sup>）を使用し、対象範囲内の任意の位置3ヶ所に設定した。調査対象区の面積は約367m<sup>2</sup>ある。発掘した3つのトレンチの合計面積は約17.1m<sup>2</sup>であり、調査対象面積に対する発掘面積の比率（発掘率）は約4.7%となる。

#### 2) 調査の経過と試掘坑の概要

試掘調査は、平成28年5月12日の1日間で実施した。調査員は担当職員を含む5名となる。天候は晴れであった。調査対象は、延長約60m、幅約6mの道路建設範囲である。この範囲は事前に事業主体者により明示されており、範囲内に試掘トレンチ3ヶ所を設定した（TP-1～3）。



第10図 剣下川原遺跡（第3次）確認調査 対象区位置図

**TP-1** 調査対象区の西側に設定した。トレンチの大きさは、幅約20m、長さ約27mとなる。現表土は宅地化された際の盛土であり、約50cmの堆積がみられた。その下に旧表土と沖積層の灰白色粘土が確認された。深度約90cmで青灰色粘土が検出された。上面はやや酸化色となる。炭化物等を含まず、当該地の地山と判断された。遺構・遺物は発見されなかった。

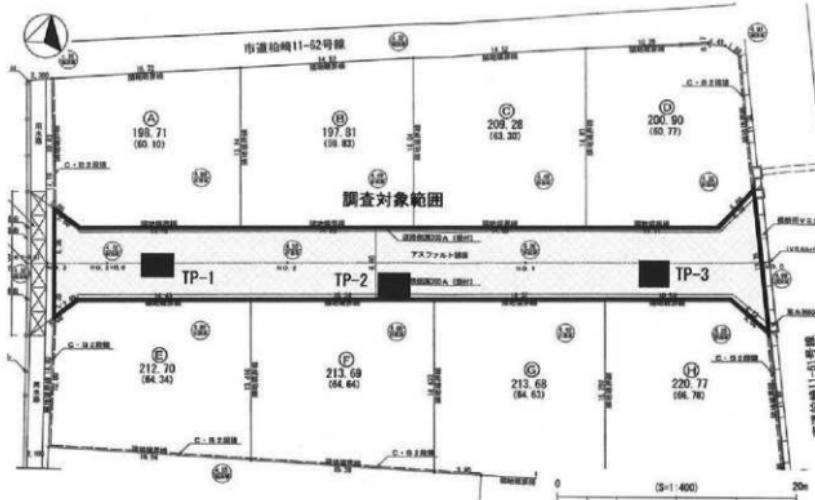
**TP-2** 調査区の中央、TP-1の東側約17mに位置する。トレンチの大きさは、幅約22m、長さ約27m。土層堆積はTP-1と酷似しており、深度約80cmで地山が検出された。遺構・遺物とともに未検出である。

**TP-3** 調査区東側、TP-2の東側約19mに位置する。トレンチの大きさは、幅約2.2m、長さ約2.6mである。現況は休耕田であり、TP-1・2の標高よりも僅かに低い地点となる。約30cmの盛土の下に旧耕作土がみられ、灰色粘土が確認された。炭化物を含みやや暗色で水田に係る土層と考えられる。深度約80cmで還元化の強い青灰色粘土が確認された。遺構・遺物は検出されなかった。

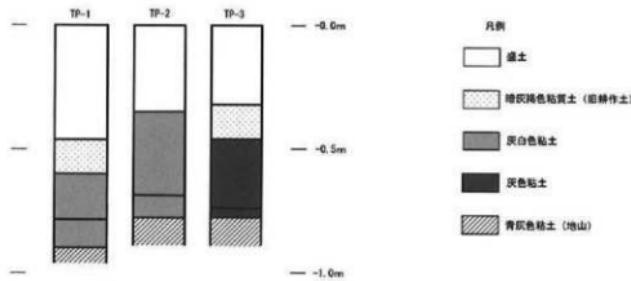
### 3) 基本層序

確認調査で検出された土層は概ね5層に分類される。

第Ⅰ層は現表土であり、近年の宅地造成で盛土されたものである。第Ⅱ層は暗灰褐色粘質土であり、旧表土となる。TP-3では水田耕作土となる。第Ⅲ層は灰白色粘土であり、炭化物を僅かに含む。調査区付近の冲積地にみられる自然堆積層と考えられる。第Ⅳ層は灰色粘土である。炭化物を含み暗色を呈し、休耕田となるTP-3で検出された。第Ⅴ層は青灰色粘土である。粘性・縮りが強く炭化物等の混入がみられず、地山と判断される。上面はやや酸化色を示し黄褐色となる。本層の上面で遺構確認を実施している。



第11図 剣下川原遺跡（第3次）確認調査 トレンチ配置図



第12図 剣下川原遺跡（第3次）確認調査 基本層序柱状模式図 (S = 1 : 20)

### 3 調査のまとめ

今回の調査対象区は遺跡推定範囲の東側に位置するものであるが、範囲内から遺物・遺構は発見されず、遺跡の存在は確認されなかった。平成12年度に実施した第2次確認調査では、遺跡推定範囲の南端部で遺構・遺物が発見されている。その際は、古代の遺物を含む黒灰色粘土の堆積が確認されているが、今回は類似した土層はみられなかった。このことから、当該調査区が遺物・遺構の空白部分と想定される。当遺跡に係る確認調査は何れも調査面積が限られ、内容を把握するには至っていない。今後も小規模な調査を継続し、遺跡の実態が明らかとなる機会が待たれる。

## VI 西岩野遺跡

- 一般県道黒部柏崎線（山本拡幅）道路改築事業に伴う確認調査 -

### 1 調査に至る経緯

西岩野遺跡は、柏崎平野北側の荒浜砂丘から東側に突き出た中位段丘上に所在する。昭和58年に新潟県教育委員会の遺跡詳細分布調査により発見された。昭和61年に一般県道荒浜安田線道路改良事業に伴って一部で本発掘調査を行い、主に弥生時代後期の遺構や遺物が見つかった〔柏崎市教委1987〕。平成26年度に、今回の原因事業である一般県道黒部柏崎線道路改良工事に伴い西岩野遺跡隣接地の試掘調査を行い、遺跡の範囲が広がることがわかった〔柏崎市教委2016a〕。その後、事業主体者と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行ったが遺跡の現状保存は困難なため、記録保存のための本発掘調査を行うこととなった。今回の調査は本発掘調査にかかる経費を積算するための確認調査であり、平成29年度の調査予定範囲の約880m<sup>2</sup>を対象に行った。

平成28年9月1日付け博第569号で文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を新潟県教育長へ提出し、調査は平成28年9月7日から8日にかけて行った。

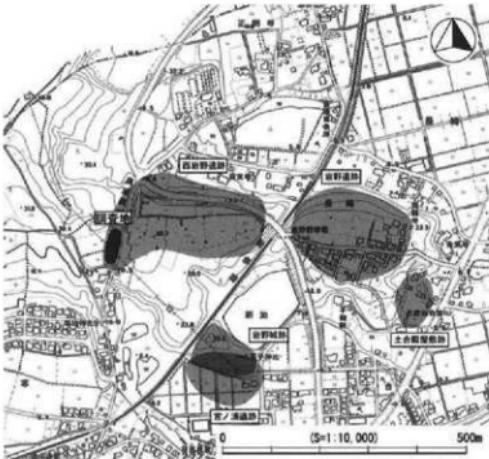
### 2 調査の概要

#### 1) 調査の方法

今回の調査対象は現県道西側の台地上の南北73m、東西12mの範囲で、現況は畑である。造成の際に上部の砂層は削平され、平坦面が広がっている。ここに南北に長いトレンチを4か所設定した。トレンチの掘削には0.07m<sup>2</sup>級のバックホウを用いた。バックホウで遺構検出面まで掘り下げ、人力で遺構検出を行った。その後、土層の堆積状況を確認し、遺構の検出状況と合わせて記録を作成した。掘削土量を把握するため、大型のものを中心に一部の遺構を掘削した。

#### 2) 基本層序

I層は表土と新砂丘砂層である。畑



第13図 西岩野遺跡確認調査 位置図

を造成する際に砂丘砂層の上部は削平されているが、現状で厚さ0.5m以上は残っている。II層は擾拌された漸移層である。III層は黒褐色土層である。土師器が出土しており、上層の遺物包含層とした。IV層は赤褐色土層で、V層の黒色土層の風化帯である。IV層上面から掘りこまれる遺構があり、上層遺構検出面とした。V層からも遺物が出土しており、下層の遺物包含層とした。VI層は粘質の明褐色土層で、古砂丘が風化したものである。下層の遺構検出面である。

### 3) トレンチの概要と出土遺物

**T P 1** 対象地の北部に設定した。VI層までの深度は1.3mから1.0mである。遺構はピット6基を検出し、うち1基を半段した。断面U字形で、深さは約20cm、覆土は暗褐色土である。III層から土器1点、V層から土器3点が出土した。いずれもごく小さな破片で、摩耗が著しく調整は不明である。

**T P 2** 幅0.8m、長さ9.8mのトレンチである。トレンチ北部で大型の溝を検出したため、トレンチ内で完掘した。IV層上面から掘りこまれ、幅1.8m、深さ0.6m、底面は平坦で断面形は逆台形になる。概ね東西方向に延びている。覆土はしまりが良い黒褐色土である。覆土内から遺物は出土しなかった。その他にピット6基と溝2条を検出した。溝はVI層を掘りこむもので、幅25cmほど、東西方向に向く。トレンチ内から遺物は出土しなかった。

**T P 3** 幅0.7m、長さ9.9mのトレンチである。溝1基、ピット6基を検出した。溝はVI層を掘りこむ。幅2.1m、深さ0.8mで、断面は半円形に近い。東西方向に続いている。覆土は暗褐色土で、土師質の土器片が1点出土した。厚さ4mmほどと薄手で、外面にハケメがある。この他にもIII層とV層から土器片が出土したが、いずれも小さな破片で、器面が摩耗しているものが多い。外面を磨いたものが1点ある。

**T P 4** TP 2とTP 3の間に設定した、幅0.8m、長さ3.1mのトレンチである。ピット3基、土坑2基を検出した。出土遺物はトレンチの規模に対してやや多く、IV層とV層から土器片が14点出土した。薄くハケメが残る壺の体部破片がある。

## 3 調査のまとめ

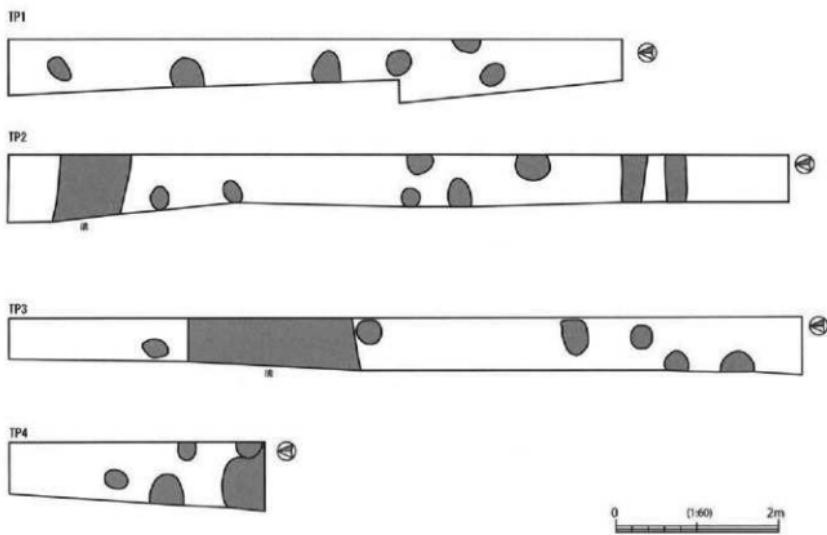
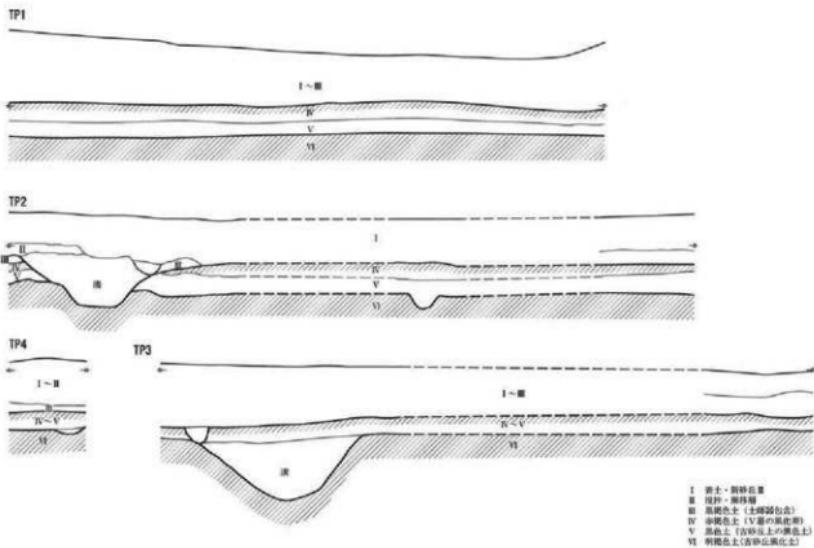
今回の調査は本発掘調査の経費積算のためのデータを収集することが目的のため、トレンチをやや大きく設定した。その結果、前回の試掘調査では見つけられなかった大型の溝2基を検出することができた。これらの溝はそれぞれ掘りこまれる面が異なっている。昭和61年に本発掘調査を行った調査区は、今回の範囲から約300m離れている。この調査でも溝が見つかっており、掘り込み面はIV層からとVI層からのものの2種類が確認されている。IV層を掘る溝の覆土からは珠洲が出土しており、中世以降のものと判断されている。VI層を掘る溝からは時期を特定できる遺物の出土状況を確認できなかった。周辺の遺構の時期から弥生時代後期後葉に近い時期のものと想定されている。

出土した遺物はごく少なく、摩耗した小破片が多いため、時期を特定するには至らなかった。最も狭いTP 4で遺物が多く出土しており、遺物の分布に粗密がある。周辺の遺構の分布の偏りや、遺構の性格を反映しているものと考えられよう。

今後の本発掘調査により、溝の時期や性格、集落の様相等、西岩野の台地上に展開した遺跡の状況が明らかになっていくだろう。



トレンチ位置図 第14図 西岩野遺跡確認調査



第15図 西岩野遺跡確認調査 土層断面図・トレンチ平面図

## VII 長嶺地区（第2次）

-経営体育成基盤整備事業長嶺地区に伴う第2次試掘・確認調査-

### 1 調査に至る経緯

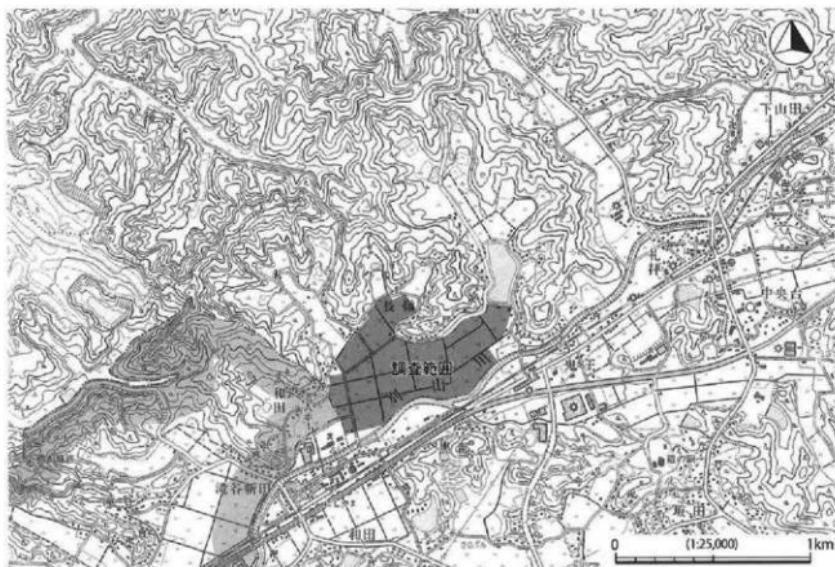
平成28年4月に行った用排水機場建設予定地における第1次試掘調査に続き、は場整備事業予定地の全域を対象に第2次試掘・確認調査を平成28年10月に行った。

平成28年10月13日付け博第583号で文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を新潟県教育長へ行い、18日に試掘調査に着手した。

### 2 調査の概要

#### 1) 調査の目的と方法

原因事業の工事範囲全域が調査対象であり、面積は約288,000m<sup>2</sup>である。事業予定地内では、長嶺前田遺跡が見つかっており、県道改良工事に伴い一部で本発掘調査を実施している[柏崎市教委2017b]。しかし、この調査では対象範囲が法線内にとどまっており、遺跡全体の範囲は把握しきれていない。今回の調査で



第16図 長嶺地区（第2次）試掘・確認調査 位置図

は、長嶺前田遺跡の範囲を絞り込むことが一つの目的であり、さらに他の遺跡が存在するかを確認することも必要である。また、遺跡が存在した場合には、包含層や遺構面までの深度、遺構密度や遺物の出土量を把握することも目的である。

調査には0.25m級のバックホウを用い、法面バケットを装着して掘削した。掘削後は遺構面の精査、土層堆積状況の確認を行い、写真と図面の記録を作成した。トレンチの設定は任意に行ったが、水田区画の2から3枚に1カ所程度とした。トレンチの大きさは、幅はバケット幅の約1.8mとし、長さは3m前後を目途とした。

## 2) 基本層序

長嶺前田遺跡の本発掘調査では、古代から中世の遺構面、古墳時代後期の遺構面、古墳時代前期の遺構面を検出していた。今回はこの調査成果を基に層位を確認したが、消失している部分も多かった。確認した土層は大きく7層に分けて理解した。I層は表土及び耕作土、II層は現在の水田底土の灰色粘土層である。III層は灰色や暗灰色の粘土層である。IV層は黒褐色もしくは暗灰色の粘土層で、古代から中世の遺物包含層に相当する。V層は灰色や淡黄色の粘土層で、古代から中世の遺構検出面に相当する。VI層は、腐植物が主体、もしくは腐植物が多く混じる粘土層である。VII層はやや明るい暗灰色粘土層で、古墳時代の遺物包含層に相当する。VIII層は青灰色の粘土層、または砂混じり粘土層で、古墳時代の遺構検出面に相当する。

## 3) 試掘調査の成果

調査したトレンチは総数で70か所である。トレンチの面積の合計は420.96m<sup>2</sup>で、調査対象地全体の0.15%である。以下では遺跡範囲に係るトレンチを中心に記述する。

**長嶺前田遺跡** 周知の遺跡範囲周辺に設定したTP 1～TP 6では遺構、遺物ともに確認できなかった。TP 7はII層直下にV層があり、包含層相当層はすでに削平されていた。ここにピット4基があり、II層からだが無台碗とみられる土器の小破片が1点出土した。今回の調査結果により、長嶺前田遺跡の西側については範囲をおおむね確定することができたと考えられる。本発掘調査の範囲では、特に古墳時代前期の土器が集中して出土したが、住居は認められなかった。遺跡の中心は東側の尾根根付近であると見込まれる。しかし、この範囲には県道が通り、その周囲には住宅が立ち並んでおり詳細を把握しがたい状況となっている。

**長嶺江添遺跡** TP 20～22・43・44・46・48で遺構や遺物を確認した。これにより、東西250m、南北は最大で150mの範囲を周知化した新発見の遺跡である。これらの全てのトレンチでIV層が約20cmの厚さで堆積する。遺構検出面はV層もしくは埴層である。検出した遺構には、ピット、土坑、溝がある。TP 46の土坑は、トレンチ南側の大部分を占める大型の落ち込みとなっている。遺物は、TP 44とTP 46で特に多く出土した。土質質のものは摩耗して器形不明のものが多いが、無台碗があることを確認できる。TP 48では須恵器の壺が出土した。

**長嶺川田北遺跡** TP 36・37・70で遺構や遺物を確認した。これにより、東西150m、南北190mの範囲を周知化した新発見の遺跡である。TP 36では大型の土坑2基がある。1基を途中まで掘り下げたが底面までは至らなかった。井戸の可能性がある。TP 37ではIV層を確認できないがV層で多くの遺構を検出した。ピットが多く、中型の土坑とみられるものもある。TP 70でも多くのピットと中型の土坑を検出した。遺構はやや多いが出土遺物は少なく、TP 37で土器4点が出土しただけである。いずれも摩耗した小破片である。

**長嶺江添の塚** 事前の分布調査の際に平面方形で約1mの高まりを確認していた。塚の上には板碑が2基

あり、1基は立てて据えられており、もう1基は倒れていた。建てられた方には「慶應二 山田氏 妙高山」、倒れた方には「米山薬師」の文字が刻まれている。周囲に設定したトレンチでは遺構、遺物とともに出土しなかった。

**長嶺川田遺跡** 第1次調査で遺物がまとまって出土した長嶺川田遺跡の広がりを確認するために、周辺にトレンチを設定して調査した。結果としては、TP 31・32・33のいずれも遺構、遺物とともに検出できなかった。TP 31とTP 32では遺物包含層となるIV層とV層は消失しており、TP 33は河川改修に伴うとみられる客土が厚く堆積していた。遺跡の中心は西側の二田小学校敷地内の方へ広がると想定される。その他の範囲 北側の尾根周辺のトレンチでは、腐植物を主体とするVI層が厚く堆積していた。県道改良工事に伴う長嶺前田遺跡の確認調査でも、遺跡北側のトレンチで同様の堆積が確認できていた。また、長嶺川田遺跡の北西側の谷地でもVI層が厚く堆積している。丘陵裾に湿地帯が広がっていた時期があったと見られる。地盤が緩く、遺跡が営まれた様相は認められなかった。

### 3 調査のまとめ

長嶺地区では昭和30年代には場整備が行われており、微地形や古い水田区画はわからなくなっている。また、表面で採集された遺物も大きく移動しているものが多いことから、地上での観察により遺跡を把握することが困難となっていた。今回、大規模な場整備事業に伴って広範に試掘調査を行うことができたことは、遺跡の分布を把握するために良い機会となった。調査結果としては、長嶺前田遺跡の範囲を絞り込むことができ、2ヵ所で新たに遺跡を発見した。

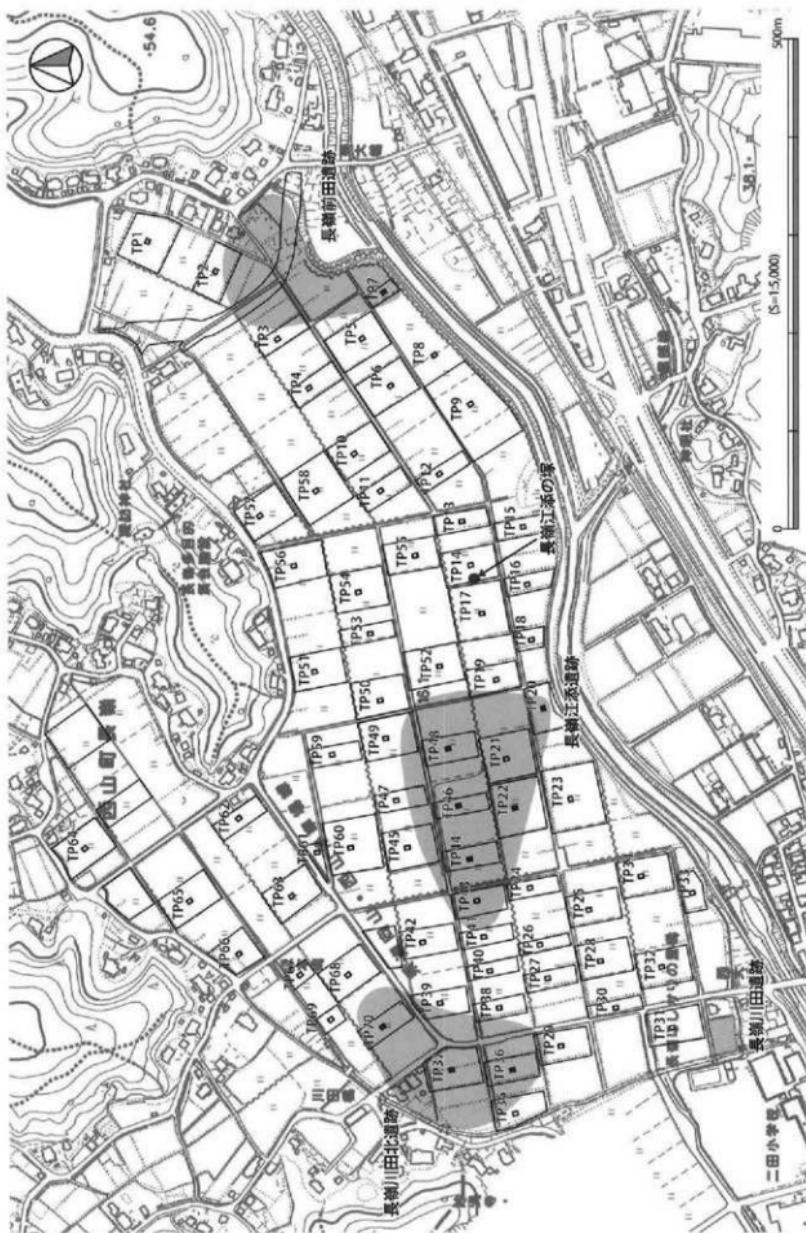
長嶺前田遺跡は、県道改良事業に伴う分布調査により発見したもので[柏崎市教委2008]、法線内における確認調査により徐々に遺跡範囲が絞りこまれてきた[柏崎市教委2012他]。今回の調査では、周知された範囲の北側と西側にトレンチを設定することで、遺跡範囲を確認することができた。以前の調査結果と合わせると、北側の湿地帯と南を流れる別山川に挟まれた微高地に集落が営まれていたことがわかった。東側は住宅と道路により地下の状況を確認できないが、丘陵裾へ向かって集落が広がっているものと想定できる。特に、本发掘調査では出土量が少なかった古代から中世の集落の中心が未調査の範囲で展開していたものと思われる。今後も機会を捉えて状況の把握に努めていきたい。

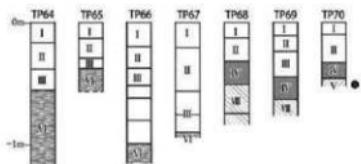
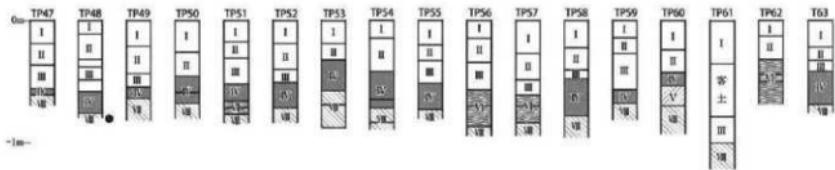
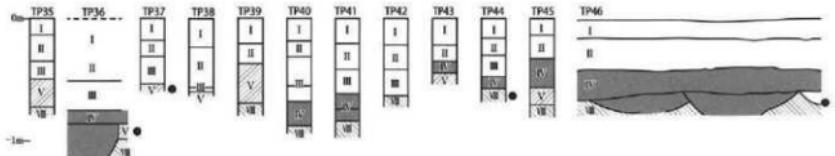
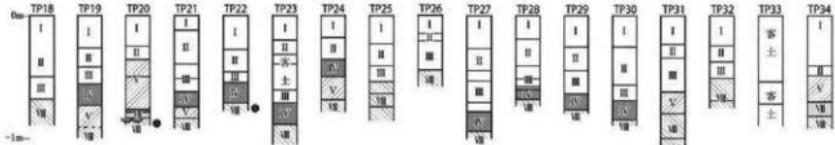
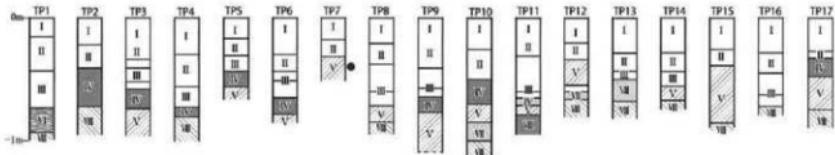
長嶺江添遺跡と長嶺川田北遺跡は今回の調査で新たに発見された。長嶺江添遺跡は9世紀代の遺物が多く出土した。沖積地のほぼ中央部に位置し、南側は別山川に接している。ピットがまとまって見つかっており、集落が営まれたと考えられる。

長嶺川田北遺跡でも遺構が多く見つかっているが、出土遺物は摩耗した土器の小破片4点と少なく、時期は特定できなかった。ピットの他に井戸とみられるものもあり、ここにも集落が営まれていたと考えられる。長嶺江添遺跡とは100mと離れておらず、時代を異にする考えられる。

近年、旧西山町地域である別山川上流域では大規模な場整備事業が続いている。これに伴って多くの遺跡が見つかっている。この地域の地形的な特徴として、南北に走る丘陵が東西に近接しており、それに挟まれた別山川に狭い平地が点在していることが挙げられる。そのため可耕地は限られているが、別山川が縦貫していることと、丘陵から流出する沢からの水が農業用水を広く供給できたのだろう。さらに、古代においては三崎郡衙から古志郡衙にいたる官道がこの地を通過していたと想定されている。この別山川上流域の中でも平地が比較的広く確保でき、主要交通路に近い長嶺地区は、様々な時代に遺跡が営まれたのであろう。

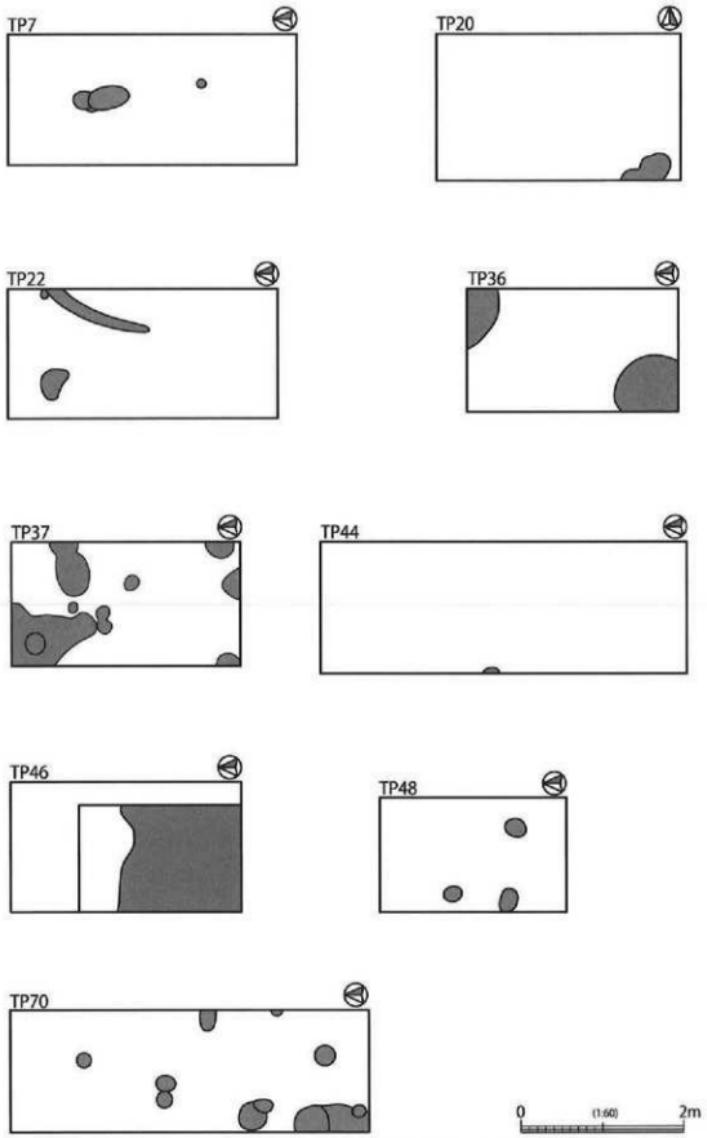
第17図 長嶺地区(第2次)試掘・確認調査 トレーン位置図





- I 表土・耕作土
- II 灰色粘土・炭土
- III 灰色～暗灰色粘土（自然堆積層）
- IV 暗灰～黑褐色粘土（古代・中世包含層）
- V 灰白～淡黄色粘土（古代・中世地山）
- VI 腐植物層・腐植物混じり粘土層
- VII 暗灰色粘土層（古墳時代包含層）
- VIII 青灰色粘土・砂混じり粘土層（古墳時代地山）
- は遺構を検出した層。

第18図 長嶺地区（第2次）試掘・確認調査 土層柱状模式図 (S = 1 : 40)



第19図 長嶺地区（第2次）試掘・確認調査 トレンチ平面図

TP	幅(m)	長(m)	面積(m <sup>2</sup> )	深(m)	主要土層	遺構	遺物	遺跡
1	3.8	1.6	6.08	1.00	腐植土		土師器1	
2	3.8	1.6	6.08	0.96				
3	3.7	1.6	5.92	0.96	IV			
4	3.3	1.6	5.28	1.01	VII			
5	4.3	1.6	6.88	0.67	IV		陶器I(II)	
6	3.8	1.6	6.08	0.86	IV			
7	3.9	1.6	6.24	0.51		ビット4	土師器1	長嶺前田遺跡
8	4.7	1.6	7.52	0.95				
9	4.1	1.6	6.56	0.90	IV			
10	3.8	1.6	6.08	1.14	IV・VII			
11	3.7	1.6	5.92	0.95	VII			
12	3.3	1.6	5.28	0.80	VII			
13	4.5	1.6	7.20	0.82	VII			
14	3.6	1.6	5.76	0.75				
15	3.7	1.6	5.92	0.90			磁器I(I)	
16	3.4	1.6	5.44	0.73	VII			
17	3.7	1.6	5.92	0.90	IV・VII			
18	3.9	1.6	6.24	0.90	VII			
19	4.3	1.6	6.88	0.87	IV・VII			
20	3	1.6	4.80	0.84	VII	ビット2		
21	4.1	1.6	6.56	0.92	IV			長嶺江添遺跡
22	3.3	1.6	5.28	0.78	VII	溝1・ビット2	土師器鱗片	長嶺江添遺跡
23	4.2	1.6	6.72	1.12	VII			
24	3.7	1.6	5.92	0.79	IV		土師器1	
25	3.7	1.6	5.92	0.86				
26	4.1	1.6	6.56	0.58				
27	4	1.6	6.40	1.01	VII			
28	3.8	1.6	6.08	0.74	VII			
29	3.7	1.6	5.92	0.80	VII			
30	3.5	1.6	5.60	0.90	VII			
31	3.6	1.6	5.76	1.07				
32	3.4	1.6	5.44	0.75				
33	3.8	1.6	6.08	0.90	客土			
34	3.8	1.6	6.08	0.92	VII			
35	3.9	1.6	6.24	0.79				
36	3.8	1.6	6.08	1.06	IV	土坑2		長嶺川田北遺跡
37	2.8	1.6	4.48	0.53		土坑3・ビット8	土師器4	長嶺川田北遺跡
38	3.1	1.6	4.96	0.83			土師器1(I)	
39	3.5	1.6	5.60	0.80				
40	3.4	1.6	5.44	0.95	VII			
41	3.9	1.6	6.24	0.98	VII			
42	3.6	1.6	5.76	0.73			須恵器無台杯(I)	
43	3.4	1.6	5.44	0.51	IV		土師器13	長嶺江添遺跡
44	5.1	1.6	8.16	0.69	VII	ビット1	土師器多	長嶺江添遺跡
45	3.9	1.6	6.24	0.81	IV			
46	2.8	1.6	4.48	0.80	VII	土坑1	土師器多	長嶺江添遺跡
47	4.3	1.6	6.88	0.70	VII			
48	3.5	1.6	5.60	0.80	VII	ビット3	須恵器・土師器	長嶺江添遺跡
49	4	1.6	6.40	0.82	VII			
50	4.1	1.6	6.56	0.80	VII		土師器1	
51	3.7	1.6	5.92	0.77	IV・腐植土			
52	3.9	1.6	6.24	0.74	VII			
53	4.2	1.6	6.72	0.88	VII		土師器1	
54	3.7	1.6	5.92	0.90	VII			
55	3.7	1.6	5.92	0.81	VII			
56	3.8	1.6	6.08	0.95	腐植土		須恵器1・土師器2	
57	3.8	1.6	6.08	0.95	腐植土		陶器(I)・土師器4(IV)	
58	4.1	1.6	6.56	0.96	VII			
59	4.2	1.6	6.72	0.81	VII		磁器1(表採)	
60	3.8	1.6	6.08	0.93	IV		須恵器(II)	
61	3.9	1.6	6.24	1.21				
62	4.3	1.6	6.88	0.68	腐植土			
63	4.2	1.6	6.72	0.75	VII			
64	3.5	1.6	5.60	0.70	腐植土			
65	3.8	1.6	6.08	0.46	腐植土		土師器1(II)	
66	2.6	1.6	4.16	1.15	腐植土			
67	4.1	1.6	6.56	0.95	腐植土			
68	2.7	1.6	4.32	0.84	VII			
69	2.6	1.6	4.16	0.77	VII			
70	4.4	1.6	7.04	0.52	IV	土坑3・ビット8		長嶺川田北遺跡

※遺物圖の括弧内ローマ数字は出土した層位。

第2表 長嶺地区(第2次)試掘調査 トレンチ一覧表

## VIII 五日市・内方地区（第2次）

- 経営体育成基盤整備事業五日市・内方地区に係る試掘調査 -

### 1 調査に至る経緯

五日市・内方地区は柏崎市西山町五日市・内方地内に所在する。柏崎市街地からは北東へ約11kmの位置となる。地形的には別山川水系の坂田川と妙法寺川の間に形成された沖積地に立地しており、周囲の標高は13mから15mを測る。柏崎平野北部となる別山川流域には独立した中位段丘が点在しており、五日市・内方地区的集落は、それぞれ低丘陵を中心として形成されている。五日市集落が位置する低丘陵には縄文時代の野崎遺跡が知られており、内方集落前原の沖積地には古墳時代の畠田遺跡が所在する。

試掘調査の原因事業は、経営体育成基盤整備事業五日市・内方地区である。新潟県柏崎地域振興局農業振興部が事業主体者であり、平成28年度に事業採択を受け、平成29年度以降に設計、施工を計画するものである。事業面積は約50haと広範囲におよび、主に面整備と用排水工事が計画されている。隣接する北野地区は先行して県営ほ場整備事業が実施されており、平成9年に実施した分帯調査で畠田遺跡が新発見され、平成10年に発掘調査が実施されている（西山町教委2001）。当該事業に関する道路調査の協議は平成26年11月に開始している。その際に、平成28年度秋に試掘調査を実施することで協議が進められた。TPP政策のため事業主体者による早期実施も検討されたが、地権者との打合せにより当初どおりの期間に実施することとまとまった。先行して、遺物の散布状況を把握するため、平成28年4月に現地踏査を実施した。1日間でい、主に1地点で古代の遺物がまとまった量が採取されていた。

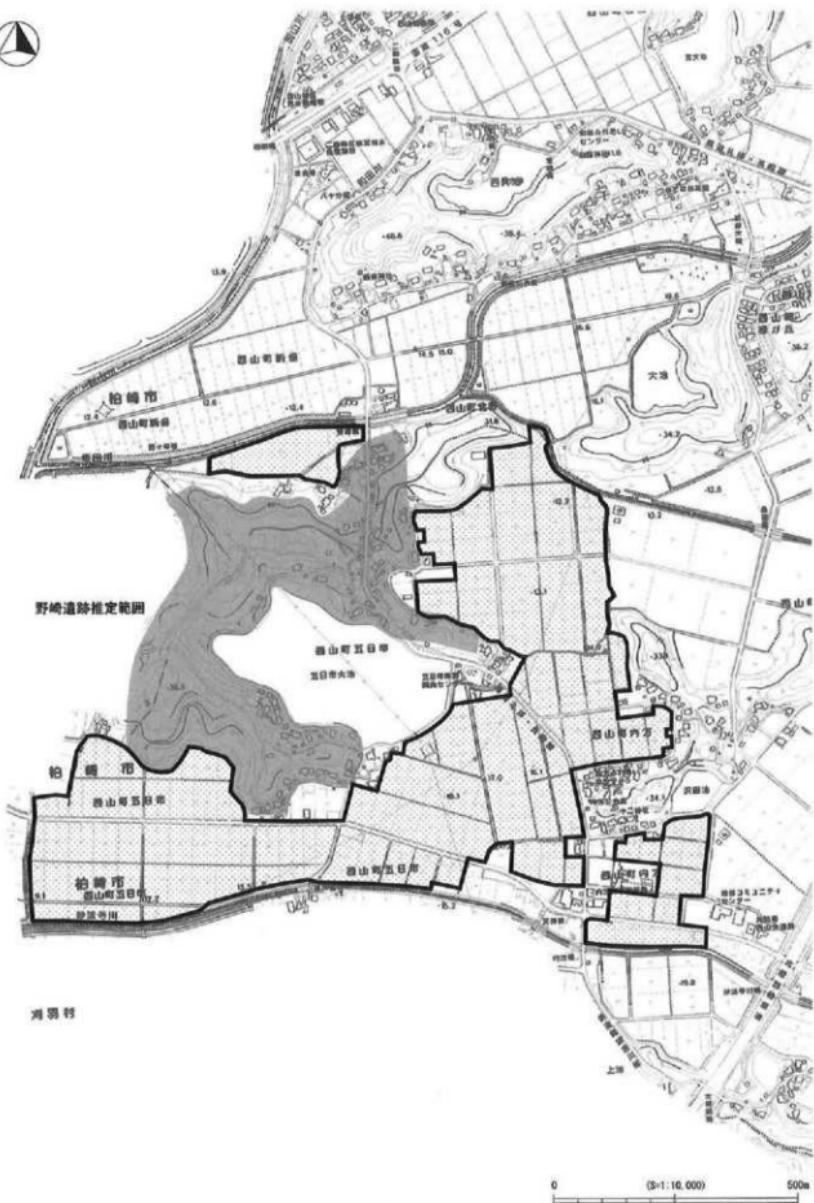
試掘対象範囲が広大であるため、調査期間は2ヵ年を要すると想定された。事前に2度に渡る五日市・内方地区活性化委員会の役員会で調査方法の説明を行い、復旧方法などを確認したうえで試掘調査を開始している。文化財保護法の手綱きとして、平成28年10月13日付け傳第582号で、新潟県教育長宛に文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を行い、同月20日から試掘調査を開始した。

### 2 調査の概要

#### 1) 調査の目的と方法

試掘調査の目的は、隣接する野崎遺跡および畠田遺跡の広がりと、未開知遺跡の有無を確認することである。調査対象範囲は事業区域全域となり、対象面積は約50haとなる。試掘調査では、道路の範囲や深度を記録し、協議資料となる遺跡データを作りを主たる目的とした。

試掘坑の発掘は、バッカホウ（0.25m<sup>3</sup>、0.15m<sup>3</sup>）を使用した。調査は支援業務委託を利用して実施し、バッカホウや作業員は支援内容に含んだ。記録作業は土層深度計測や遺物検出状況の図化、写真撮影などを行った。調査区は大半が水田となるが、来年も耕作を予定しており、作付け時に農耕機の運行に支障が無いよう、人念に廻戻しを行うこととした。なお、田打ち後の水田は調査効率が下がるため、事前の地元との調整により、調査前の田打ちを行わない協力を得た。なお、調査にあたっては、地元の五



第20図 五日市・内方地区（第2次）試掘調査 対象区位置図



第21図 五日市・内方地区(第2次) 試掘調査 レンチ配置図

日市・内方地区活性化委員会から事前に発掘承諾書の提出を受けている。

## 2) 調査の経過と試掘坑の概要

### 調査の経過

試掘調査は、平成28年10月20日～11月9日までの延14日間で実施した。調査員は担当職員を含む延べ68名（市博物館職員）となる。当初1班で調査を進めていたが、後半では2班で併行して実施した。試掘坑は計94か所を発掘し、概ね県道を境に2つに分け、西側をTP-1～63、東側TP-B-1～31とした。調査対象区はそのほとんどが水田となり稲刈り直後の状態であった。原則として翌年も耕作が予定されているため、重機の移動や掘削、復旧に時間が必要であった。また、調査後にも荒れた農道の復旧作業を実施する必要があった。農道から水田に出入りする際は、コンクリート製の用水路を跨ぐ必要があり、破損防止のために敷設板を用いるなど考慮した。

発掘面積は94ヶ所のトレンチを合わせると約487m<sup>2</sup>となる。調査対象区域の面積は約50haとなり、発掘面積の比率（発掘率）は、約0.1%となる。

### 発見された遺跡と試掘坑の概要

今回の試掘調査では4つの遺跡が新たに発見された。また、畠田遺跡の推定範囲が調査区内におよぶことが明らかとなった。遺跡周辺の試掘坑の概要について以下に記述する。各試掘坑の詳細については、一覧表（第3表）を参照されたい。

**畠田遺跡** 調査対象区の南東に隣接する。平成9年に発見された遺跡で、平成10年には西山町教育委員会により県営は場整備事業に係る発掘調査が実施されている。調査面積約2,100m<sup>2</sup>から、古墳時代後期の遺物と集落の一部が発見されている。

今回の試掘調査では、TP-57から遺物・造構が検出されている。これより西側では遺跡の痕跡はみられず、畠田遺跡の西端部分を確認するものとなった。遺物は古墳時代のものが主体となる。遺跡南側を流れる妙法寺川付近にも試掘坑を設定したが、旧河川跡を確認しただけであった。

**五日市前田遺跡** 調査対象区の北端に位置する小規模なは場整備範囲から新発見された。北方には坂田川が隣接し、五日市集落の立地する低丘陵の裾部に立地するものとなる。TP-B-30の1ヶ所から造構が検出されており、推定範囲は東西約80m×南北約80mとなる。表土直下に造構確認面となる第Ⅶ層が確認され、水田耕作により遺物包含層は失われていると判断される。試掘坑内から遺物は出土していない。このため、造構の年代は不明であるが、他のトレンチの造構覆土と比較し、古代・中世のものと推定される。

**番ヶ表遺跡** 調査対象区東側から発見され、沖積地の中央部に位置する。TP-B-11の1ヶ所から造構が発見されている。推定範囲は東西約80m、南北約80mと小規模なものとなる。表土直下から造構が発見されており、遺物包含層、遺物は検出されていない。このため、遺跡の時期は不明となる。ただし、他のトレンチの造構覆土と比較し、古代・中世と推定される。

**城ヶ崎遺跡** 調査対象区南部から発見され、沖積地の中央部に位置する。造構・遺物が検出された試掘坑はTP-4・8・9・18の4ヶ所となる。遺跡推定範囲は東西約90m、南北約170mとなる。全体的に深度約70cm以下と深い位置から遺跡が検出されていることは特徴的である。遺物はTP-8で比較的多く出土している。古代の土器・須恵器が主体となり、その時期の集落跡と考えられる。

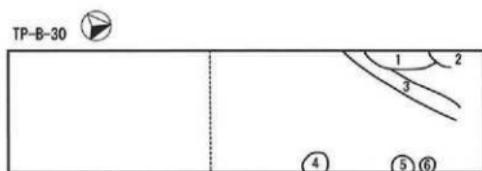
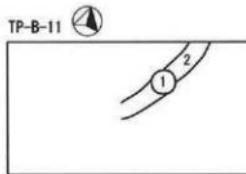
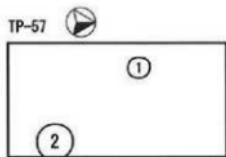
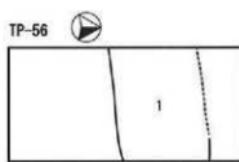
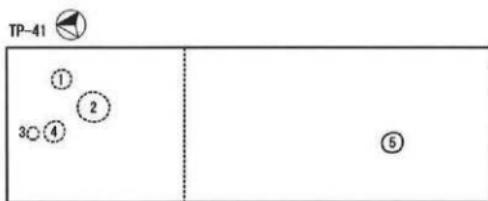
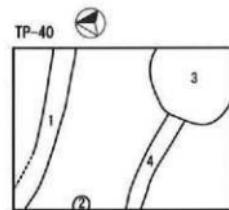
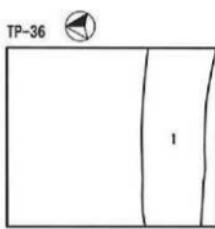
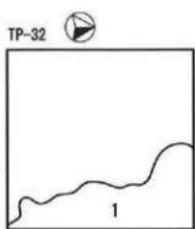
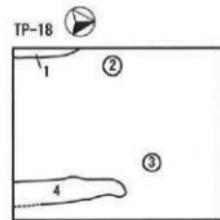
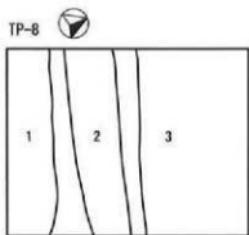
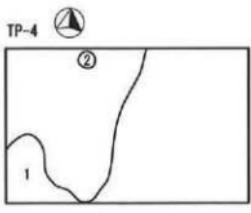
現地踏査時は遺跡範囲周辺での遺物の採取量は多くなかった。これは遺跡の深度が深く、表面に散布しなかったためと考えられる。

トレンチ No.	土 層	包含層 深度 (cm)	確認層 深度 (cm)	造構	遺物 (個数)	掲載遺物 No.	トレンチ No.	土 層	包含層 深度 (cm)	確認層 深度 (cm)	造構	遺物 (個数)	掲載遺物 No.	
1	I・II・III・IV・V	113					46	I・II・III・IV・VI	69					
2	I・II・III・IV・V	102					47	I・II・III・IV・VI	83				10	
3	I・II・III・IV						48	I・II・III・IV・VI	75					
4	I・II・III・IV・VI	69	76	有	5	20	49	I・II・III・IV・VI	89			1	53	
5	I・II・III・IV・VI	92	102				50	壁崩落の為、記録なし。						
6	I・II・III・VI		72		1		51	I・II・IV・V・VI	84	70		12		
7	I・II・III・IV・V・VI	82	106				52	I・II・IV・VI	61			2		
8	I・II・III・IV・V・VI	106	120	有	110	11+12+14~16+18+19+25+36	53	I・II・IV・V・VI	87	75	6	33		
9	I・II・III・IV・V・VI	107	113		1		54	I・II・IV・V・VI	68					
10	I・II・III・IV・V・VI	73	109		1		55	I・II・IV・VI	60		4	29		
11	I・II・IV・V・VI	70	89				56	I・II・IV・V・VI	47	有	105	28+47		
12	I・II・III・IV・V	125					57	I・II・IV・V・VI	100	135	有	17	38	
13	I・II・III・IV・V・VI	77	81				58	壁崩落の為、記録なし。TP-57と類似。						
14	I・II・III・IV・VI		76				59	I・II・IV・V	110			2	55	
15	I・II・III・IV・VI		84		1		60	I・II・III・IV・V・VI	86	109		1		
16	I・II・VI		33				61	I・II・III・IV・V・VI	100	112		7		
17	I・II・III・IV・V・VI	96	107				62	2・冲積層						
18	I・II・III・IV・V・VI	112	129	有	66	23	63	I・底土・II・VI	85					
19	I・II・III・IV・V・VI	93	102		7	24	64	I・II・III・VI	62					
20	I・II・III・IV・V・VI	89	105		1		65	B-2	I・II・III・VI	45				
21	I・II・III・IV・VI		75				66	B-3	I・II・III・VI	63	82			
22	I・II・III・IV・VI		65				67	B-4	I・II・III・V・VI	64	67			
23	I・II・III・IV・VI		94				68	B-5	I・II・V・VI	46	80			
24	I・II・IV・V・VI	72	83				69	B-6	I・II・III・V・VI	59	81		2	
25	I・II・III・V・VI		140				70	B-7	I・II・V・VI	26	43			
26	I・II・III・V・VI		85				71	B-8	I・II・III・V・VI	61	69			
27	I・II・III・IV・V・VI	63	75		2		72	B-9	I・II・III・V・VI	56	63			
28	I・II・III・V		76				73	B-10	I・II・III・V・VI	62	89			
							74	B-11	I・II・VI	44	有			
							75	B-12	I・II・V・VI	38	49			
29	I・II・III・IV・V	102			13	50	76	B-13	I・II・III・V・VI	61	74			
30	I・II・III・IV				7		77	B-14	I・II・VI	68				
31	I・II・IV				21		78	B-15	I・II・III・VI	76	104	1		
32	I・II・IV・VI		73	有	253	1・4・5・7・8・10+41+43+48	79	B-16	I・II・III・V・VI	79	123	1		
33	I・II・III・IV・V・VI	61	77		66	22+54	80	B-17	I・II・V・VI	26	73			
34	I・II・III・IV・V・VI	82	94				81	B-18	壁崩落の為、記録なし。					
35	I・II・III・IV・V・VI	82	107		9		82	B-19	壁崩落の為、記録なし。					
36	I・II・III・IV・VI		69	有	11	44	83	B-20	I・II・III・IV		135	1		
37	I・II・VI				7	52	84	B-21	I・II・V・VI	36	68	9		
38	I・II・III・IV・V・VI	80	94		8	21	85	B-22	I・II・III・V・VI	50	57			
39	I・II・III・IV・V・VI	70	81		5		86	B-23	I・II・VI			1		
40	I・II・V・VI	36	55	有	81	3+13+17+26+27+31+32+34+35+37	87	B-24	I・II・V・VI	25	53			
41	I・II・III・IV・V・VI	102	125	有	6	2+6+9	88	B-25	I・II・III・V・VI	77	98			
42	I・II・III・IV・V・VI	100	107				89	B-26	I・II・VI	56		2		
43	I・II・III・IV・V・VI	76	85		1		90	B-27	I・II・III・V・VI	60	81			
45	I・II・III・V・VI		78				91	B-28	I・II・VI		59			
							92	B-29	I・II・VI	20	有			
							93	B-30	I・II・VI					
							94	B-31	I・II・V・VI	65		2		

第3表 五日市・内方(第2次) 試掘調査 トレンチ一覧表

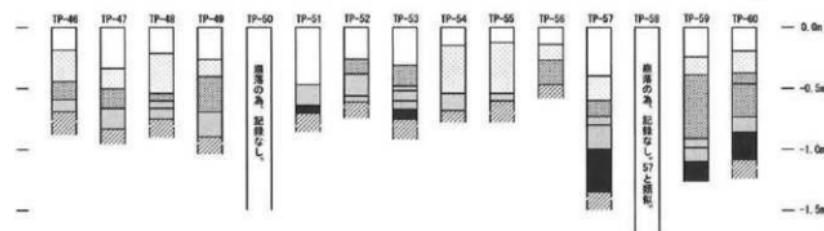
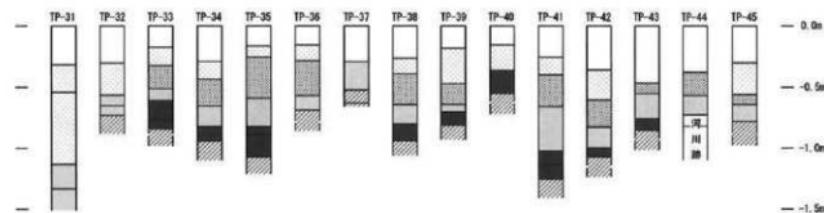
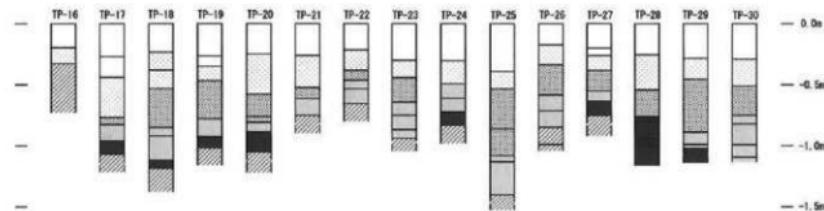
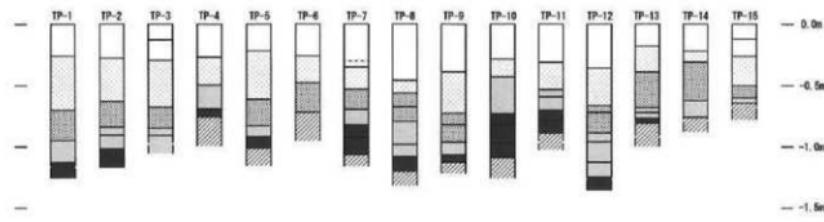
大割遺跡 調査対象区の南西部、野崎遺跡が立地する低丘陵に接する沖積地に位置する。6つの試掘坑となるTP-28・32・36・40・41・56で遺物・造構が確認されており、東西約180m、南北約210mの広範囲が推定される。とくに低丘陵に隣接するTP-32での遺物量は多く、約250点となる。丘陵裾に位置するTP-32では、遺物包含層は水田耕作に伴い失われており、床土(第2層)からの出土が大半となる。近現代の遺物も混入しているため、遺跡の所属時期については留意が必要となる。TP-28・41でも多くの遺物が出土しており、TP-41では深度約102cmではほぼ完形の小型壺が出土した(第25図9、図版27-9)。主体時期は古代であるが、弥生時代～古墳時代、中世の遺物も出土している。

現地踏査の際、付近一帯で古代～中世の遺物が多く採集されていた。このため、付近に未周知遺跡が所在する可能性を考えられたが、試掘調査により実際に遺跡が広がることが証明された。弥生時代～古墳時代の遺物も出土し、複数の時期に生活が営まれた遺跡と判断される。

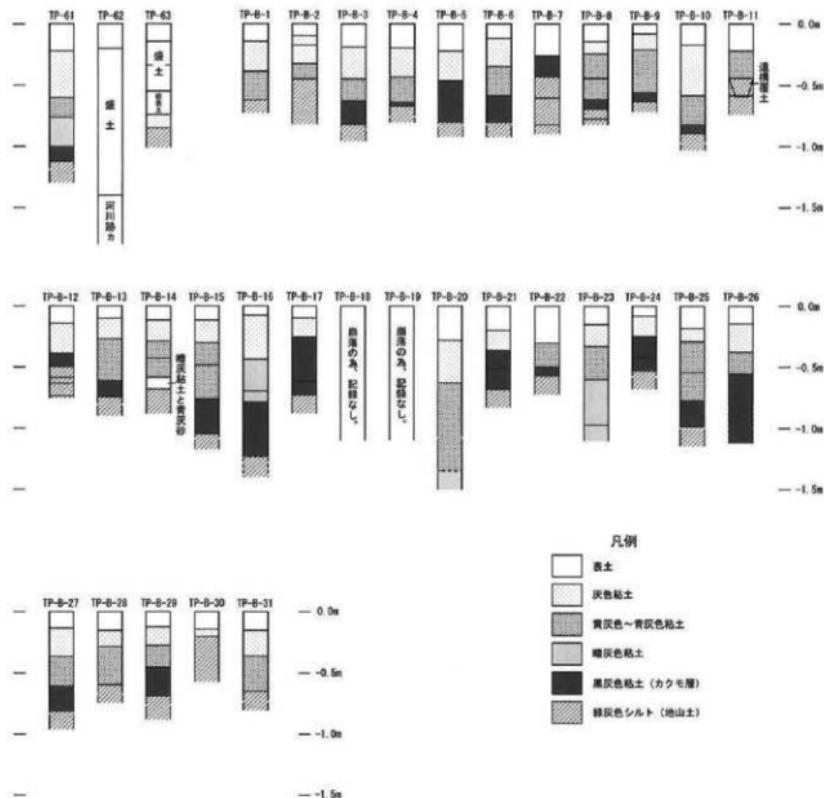


第22図 五日市・内方地区(第2次) 試掘調査 検出遺構見取図 (S = 1 : 60)

方位は概略



第23図 五日市・内方地区（第2次）試掘調査 基本層序柱状模式図（S = 1 : 40）①

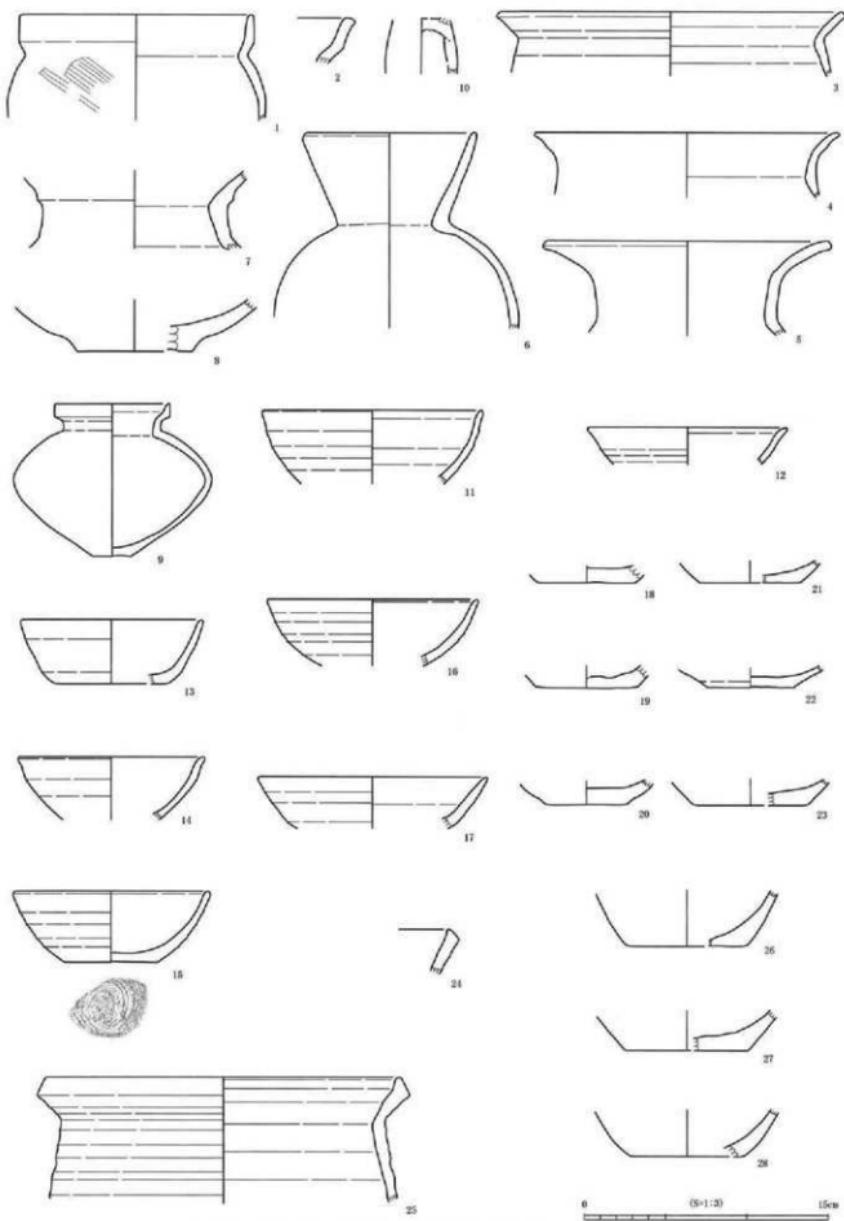


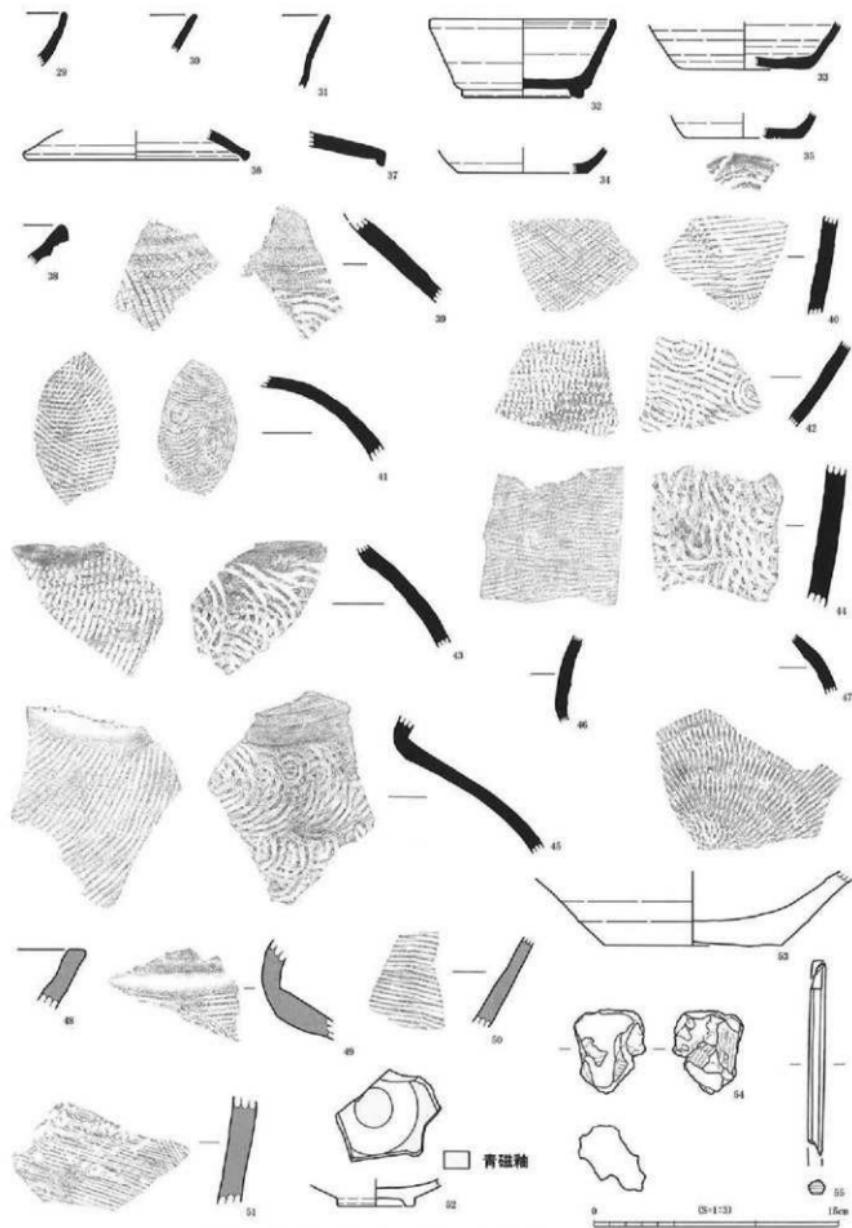
第24図 五日市・内方地区(第2次) 試掘調査 基本層序柱状模式図 (S = 1 : 40) ②

### 3) 基本層序

確認調査で検出された土層は概ね6層に分類される。

第Ⅰ層は表土であり、水田・畑の耕作土となる。第Ⅱ層は灰色粘土であり、耕作土よりも暗色となる水田床土となる。層が薄い地点では第Ⅰ層との分離は行っていない。第Ⅲ層は黄灰色～青灰色粘土である。炭化物や腐植物を微量に含む。第Ⅳ層は暗灰色粘土である。青灰色粘土と腐植物が互層となる特徴をもち、湿地性の強い環境を示すと考えられる。第Ⅴ層は黒灰色粘土である。腐植土が主体であり、古墳時代～古代の遺物を含む場合があり、遺物包含層ととらえられる。検出深度が深い地点では、粘性・締りに乏しいカクモ層となる。第Ⅵ層は黄灰色～緑灰色シルトであり、炭化物等を含まない。調査区周辺に堆積する地山土と判断される。本層上部で遺構確認を実施している。





第26図 五日市・内方地区（第2次）試掘調査 出土遺物②

#### 4) 出土遺物

試掘調査で出土した遺物は、約1,020点となる。弥生時代～近世の時期となるが、古代が主体的で、弥生時代～古墳時代、中世・近世が定量含まれる。小片が多くを占め、図化・掲載可能な遺物は55点にとどまる（第25、26図、図版26、27）。以下に概要と特筆される遺物のみを記述し、個別の詳細については観察表（第4表）を参照されたい。

##### a. 土器・陶磁器（1～53）

**弥生時代～古墳時代（1～10）** 1～10は弥生時代後期から古墳時代前期頃の土器である。5、6、9は残存率が比較的高いが、それ以外は小破片である。6は長頸壺であり下半を欠く。表面に一次焼成による炭化・酸化が明瞭に残る。7は二重口縁の壺の頸部である。9は小型の壺であり、受け口状の口縁をもつ。器面は平滑に磨かれ、櫛目等は施されていない。TP-41の遺物包含層（深度約102cm）から出土した（出土状況写真：図版25-z）。10は高環もしくは器台の脚部であり、中間部分がやや膨らむ特徴をもつ。外面には粗粒が抜けたような痕跡がみられる。当該時期の土器の胎土は何れも砂粒が多く含む特徴がある。

**古代（11～47）** 土師器と須恵器がみられる。11～28は土師器であり無台碗が多い（1～15）。29～47は須恵器であり、29～35が杯、36・37は杯蓋となる。32は残存率の高い有台杯で、形態の特徴から9世紀～10世紀前葉頃の時期ととらえられる。39～47は壺もしくは壺の破片資料である。

**中世（48～51）** 珠洲焼4点を図化している。48は擂鉢であり、14世紀末～15世紀前半頃の時期（第V期）が想定される。49～51は壺もしくは壺である。

**近世（52・53）** 52・53は近世陶磁器である。52は唐津焼の皿であり、内面に青磁釉が施される。見込みは蛇の目釉剥ぎが施される。17世紀後半～18世紀前半の時期ととらえられる。53は無釉の擂鉢である。捕り目は密に施され、胎土は褐色である。

##### b. その他（54・55）

54は古代の製錬に伴う炉壁とみられ、細かい空洞が目立ち比重は小さい。表面に木炭痕が観察される。55は細長い棒状の木製品で、箸と考えられる。表面は刃物によるケズリがみられる。

### 3 調査のまとめ

今回の試掘調査は、調査対象区内における畠田遺跡の広がりや、未周知遺跡の有無を把握する目的で実施したものである。現地踏査で遺物が多く採集されていた地点もあり、未周知遺跡の存在する可能性は高いと考えられた。94ヶ所に試掘トレンチを発掘し、計4つの遺跡を新たに発見した。五日市前田遺跡、番ヶ表遺跡は小規模な遺跡となり具体的な時期は不明であるが、城ヶ崎遺跡、大割遺跡は複数の試掘坑からは遺物・遺構が検出され、集落跡と推定される。全体的に深い深度から遺跡が確認されており、腐植土を主体とする遺物包含層が多くみられた。このことから、五日市・内方地区では、かつて低地での生活が行われていたことを示すものと考えられる。一方、畠田遺跡の範囲は調査対象範囲にも及ぶことが明らかとなり、遺跡範囲は西側に延長することとなった。別山川中流域の沖積地には弥生時代以降の生活の痕跡が各地で確認されている。今後も沖積地における試掘調査の実施が見込まれ、低地での生活史が明らかとなっていくことが期待される。

No.	試験番号	種別	被覆	口径	底径	高さ (mm)	底成	色 滴	地 土	備 考	
1 A	TP-32	古式土師器	裏	14.4		(6.5)	良	にぶい褐	(7.5)R(3)	φ3mm以下の砂粒多量に含む。	
2 A	TP-41	古式土師器	裏			(2.0)	良	灰白	(10)R(2)	φ3mm以下の砂粒多量に含む。	
3 A	TP-40	古式土師器	裏	21.1		(4.0)	良	にぶい黄褐色	(10)R(3)	φ2mm以下の白色・灰色砂粒含む。	
4 A	TP-32	古式土師器	裏	19.0		(4.0)	不良	灰灰	(2.5)I(1)	φ3mm以下の砂粒多量に含む。	
5 A	TP-32	古式土師器	裏	17.9		(5.0)	良	にぶい棕	(7.5)R(4)	φ3mm以下の砂粒多量に含む。	
6 A	TP-41	古式土師器	裏	10.7		(11.5)	良	明赤褐	(5)R(6)	φ3mm以下の砂粒多量に含む。粘土含む。	
7 A	TP-32	古式土師器	裏			(4.0)	不良	棕	(5)R(4)	φ2mm以下の白色・灰褐色含む。	
8 A	TP-32	古式土師器	裏・壺	7.0	(3.2)	2.4	良	浅黄	(2.5)T(3)	φ3mm以下の砂粒多量に含む。	
9 A	TP-41	古式土師器	裏	7.1		(3.5)	良	浅黄褐	(10)R(4)	φ1mm以下の砂粒多量に含む。	
10 A	TP-32	古式土師器	高杯			(3.5)	良	浅黄褐	(10)R(4)	φ1mm以下の砂粒多量に含む。	
11 A	TP-8	土師器	被	13.6		(4.5)	良	にぶい黄褐色	(10)R(3)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
12 A	TP-8	土師器	被	12.4		(2.0)	良	浅黄褐	(7.5)R(2)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
13 A	TP-40	土師器	被	11.2	7.0	3.9	良	棕	(5)R(7)	φ2mm以下の白色・灰褐色含む。	
14 A	TP-8	土師器	被	11.0		(3.0)	良	浅黄褐	(10)R(3)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
15 A	TP-8	土師器	被	12.2	5.6	4.4	良	浅黄	(2.5)T(4)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
16 A	TP-8	土師器	被	13.0		(4.1)	良	にぶい黄褐色	(10)R(3)	φ2mm以下の白色・灰褐色含む。	
17 A	TP-40	土師器	被	14.2		(3.2)	良	浅黄褐	(7.5)R(6)	φ2mm以下の白色・灰褐色含む。	
18 A	TP-8	土師器	被			(6.0)	良	浅黄褐	(10)R(3)	φ2mm以下の白色・灰褐色含む。	
19 A	TP-8	土師器	被			(6.4)	良	にぶい黄褐色	(10)R(3)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
20 A	TP-4	土師器	被			(5.0)	(1.5)	不良	浅黄褐	(7.5)R(6)	φ2mm以下の白色・灰褐色含む。
21 A	TP-32	土師器	被			(6.4)	(1.4)	不良	棕	(2.5)R(5)	φ2mm以下の白色・灰褐色含む。
22 A	TP-33	土師器	被			(5.4)	(1.8)	不良	棕	(5)R(7)	φ2mm以下の白色・灰褐色粘土含む。
23 A	TP-18	土師器	被			(7.0)	(1.8)	良	棕	(5)R(7)	φ2mm以下の白色・灰褐色含む。
24 A	TP-18	土師器	裏			(2.7)	良	浅黄	(2.5)T(3)	φ3mm以下の砂粒多量に含む。	
25 A	TP-8	土師器	長縫	21.7		(7.7)	良	にぶい黄褐色	(10)R(4)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
26 A	TP-40	土師器	小縫	7.4	(3.4)	不良	にぶい黄褐色	(10)R(3)	φ2mm以下の白色・灰褐色含む。		
27 A	TP-40	土師器	小縫	7.4	(2.5)	良	にぶい棕	(7.5)R(3)	φ2mm以下の白色・灰褐色含む。		
28 A	TP-56	土師器	小縫	7.0	(3.0)	良	浅黄褐	(10)R(4)	φ2mm以下の白色・灰褐色含む。		
29 A	TP-55	便器	糞			(3.2)	良	灰	(5)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
30 A	TP-28	便器	糞			(2.0)	良	内面:灰白 外面:灰黄	(2.5)T(1) (2.5)T(4)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
31 A	TP-40	便器	糞			(3.0)	良	灰	(5)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
32 A	TP-40	便器	有台糞	11.5	7.4	4.8	良	内面:灰白 外面:灰	(N)T/2 (N)S/2	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
33 A	TP-56	便器	糞	9.2	(2.0)	良	灰		(10)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
34 A	TP-40	便器	糞	8.0	(1.8)	良	灰白		(5)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
35 A	TP-40	便器	糞	7.2	(1.8)	良	灰		(10)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
36 A	TP-8	便器	糞蓋	14.0		(1.8)	良	灰	(N)S/2	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
37 A	TP-40	便器	糞蓋			(2.0)	良	灰	(5)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
38 A	TP-57	便器	裏			(2.4)	良	内面:灰 外面:暗灰	(5)S(1) (N)S/2	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
39 A	TP-28	便器	裏			(5.1)	良	内面:にぶい褐 外面:にぶい黄褐色	(7.5)R(3) (10)R(2)	φ2mm以下の白色・灰色砂粒含む。	
40 A	TP-28	便器	裏			(8.0)	良	内面:灰白 外面:青灰	(N)T/2 (2.5)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
41 A	TP-32	便器	裏			(5.1)	良	内面:灰白 外面:灰	(N)B/2 (N)S/2	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
42 A	TP-28	便器	裏・壺			(5.0)	良	内面:灰 外面:暗灰	(N)B/2 (10)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
43 A	TP-32	便器	裏			(8.0)	良	内面:灰白 外面:暗灰	(N)B/2 (10)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
44 A	TP-36	便器	裏・壺			(8.7)	良	灰	(5)S(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
45 A	TP-28	便器	裏			(8.5)	良	灰 褐色	(2.5)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
46 A	TP-28	便器	裏			(5.0)	良	褐色	(7.5)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
47 A	TP-56	便器	裏・壺			(3.6)	良	内面:深灰 外面:暗灰	(N)T/2 (2.5)S(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
48 A	TP-32	便器	糞			(3.7)	良	灰 褐色	(2.5)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
49 A	TP-28	糞	裏			(6.2)	良	灰白	(2.5)T(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
50 B	TP-29	糞	裏・壺			(6.2)	良	灰 褐色	(2.5)R(1)	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
51 A	TP-28	糞	裏・壺			(6.7)	良	灰	(N)S/2	φ1mm以下の白色砂粒含む。	
52 A	TP-37	器物	裏			(4.7)	良	動土:灰白 鉛:灰 外:青灰	(2.5)T(2) (5)B(5)/1		
53 A	TP-49	器物	鐵絲			(11.0)	(4.6)	良	にぶい赤	(7.5)R(4)	
54 A	TP-33	鐵錠	長さ:5.2 幅:4.5 厚:3.3								
55 A	TP-59	木製品	裏	長さ:(11.8)	幅:0.9	厚:0.8					

第4表 五日市・内方地区（第2次）試掘調査 出土遺物観察表

## IX 西山内郷地区（第5次）

- 中山間地域総合整備事業西山内郷地区に係る試掘調査 -

### 1 調査に至る経緯

西山内郷地区は柏崎平野の北東部、別山川の最上流部の地域名称である。曾地丘陵と西山丘陵に挟まれた谷底状の平地を別山川が南南西に向かって流れ、その両岸の河岸段丘や丘陵に入り込む樹枝状の谷に水田が展開している。ここで新潟県が事業主体となるは場整備を中心とした、中山間地域総合整備事業が計画された。市教委は事業主体者との協議を経て、平成22年度から4次にわたる試掘調査を行い、事業予定地で遺跡の分布を確認した。今回は、追加では場整備を行うこととなった範囲での遺跡の有無の確認を事業主体者から依頼され、試掘調査を実施することとなった。

平成28年10月13日付け博第584号で文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を新潟県教育長へ行い、10月31日に試掘調査を実施した。

### 2 調査の概要

#### 1) 調査の目的と方法

今回の調査の対象となったのは別山川左岸に位置する水田で、東側から伸びる曾地丘陵の支尾根の裾部である。現況で4区画の水田であり、合計面積は約7,000m<sup>2</sup>である。ここに4か所のトレンチをバックホウで掘り下げ、遺構や遺物の有無を確認することとした。トレンチの合計面積は17.33m<sup>2</sup>で、対象地に占める割合は0.25%である。

#### 2) 基本層序と試掘坑の概要

基本層序は、大きく4層に分けて理解した。I層は水田耕作土で、II層は盛土層である。III層は自然堆積の灰色粘土層で、炭化物が少量混じる。IV層を地山層とし、青灰色粘土と黄灰色粘土が混じるIV-1層と、青灰色の砂が混じるシルト層のIV-2層に細分した。

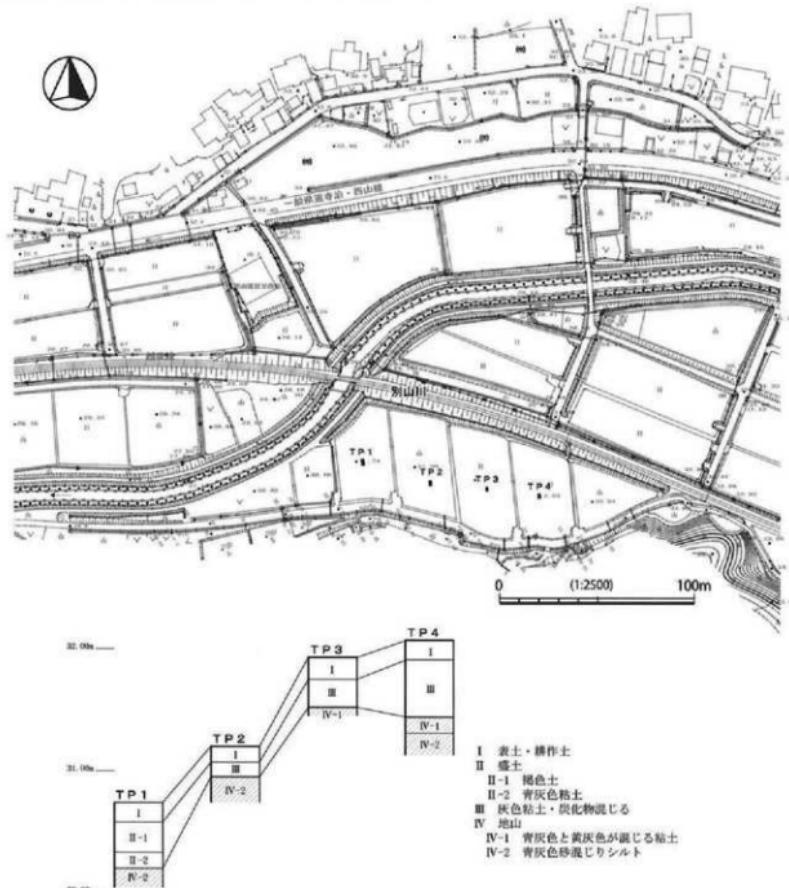
T P 1は表土下に盛土がされ、その下位にIV-2層がある。他に比べて田面が低いが、さらに低地だったものを造成して水田化したものと見られる。T P 2からTP 4では、I層、III層、IV層が堆積する。田面が高いTP 3とTP 4ではIV-1層を確認できる。いずれの試掘坑でも、遺構、遺物は出土しなかった。



第27図 西山内郷地区（第5次）試掘調査 位置図

### 3 調査のまとめ

今回の調査範囲に遺跡は存在しなかった。別山川流域には古代北陸道が通っていたと想定される。当該事業に係る一連の試掘調査で、当時の交通路の一端でも明らかとなるのはと期待した。しかし、結果としては道路に関する遺構は検出されず、また集落遺跡も思っていたほどは残されていなかった。これまでの調査対象地は別山川沿いの低地部分が主だったため、氾濫原で遺跡が営まれにくかったと考えられる。丘陵裾の微高地等に遺跡が分布していることが想定できる。



第28図 西山内郷地区（第5次）試掘調査 トレンチ位置図・土層柱状模式図 (S = 1 : 40)

## X 三ッ子沢遺跡（第2次）

- 墓地公園造成工事に伴う第2次確認調査 -

### 1 調査に至る経緯

三ッ子沢遺跡は柏崎市大字久米地内に所在する。柏崎市の中心市街地から南南東へ約9.5kmに位置し、鶴川と鶴石川に挟まれた別保盆地の北部で、芋川右岸の鶴石川寄りの段丘状地形にある。この遺跡では平成3年11月にゴルフ場建設に係る確認調査を実施し、石臼炉をもつ竪穴住居跡1軒・縄文土器数片（いざれも深鉢）・打製石斧1点が発見されたため、縄文集落（中期後半）の存在が確実となった〔柏崎市教委1992〕。今回の確認調査は、第2次となる。

**調査の原因と工事立会に至る経緯** このたび第2次確認調査を実施することになった原因是、墓地公園造成工事（以下、「原因工事」とする）である。ゴルフ場跡地を再造造成して約22haの墓地とするもので（事業面積は約66ha）、当該事業計画地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である三ッ子沢遺跡（一部）と長峯の塚が所在しており、平成27年7月から協議を開始した。長峯の塚では、現状保存が極めて困難であり広大な計画地内に未周知遺跡が所在する可能性もあることから同年9月に試掘調査（第1次）を実施し、同年12月には塚と特定するための確認調査（第2次）を実施した。いずれの発掘調査でも遺跡の痕跡は確認されていない〔柏崎市教委2016b〕。



三ッ子沢遺跡については、当時の協議によって現状保存が可能であり土木工事等による影響もほとんどないと考えられており発掘調査等は不要と判断していた。そのため、事業主体者から原因工事に伴う既存建物解体に伴い平成28年3月15日付けで文化財保護法第93条の届出が提出された際も工事立会の意見を付して同月17日付け博第658号の2で柏崎市教育委員会（以下、市教委）から新潟県教育委員会（以下、県教委）へ副申した。県教委からは同月24日付け教文第1342号で市教委が工事立会を実施する旨の通知があり、同年10月に工事立会を実施した。

現地では下草刈りが終わっていたため工事立会とあわせて遺跡の西側を踏査したが、地形観察と表面採取からは新たな遺跡が存在する可能性は低く、この工事立会と踏査をもって埋蔵文化財調査を終了としていた。

第29図 三ッ子沢遺跡（第2次）確認調査 対象区位置図

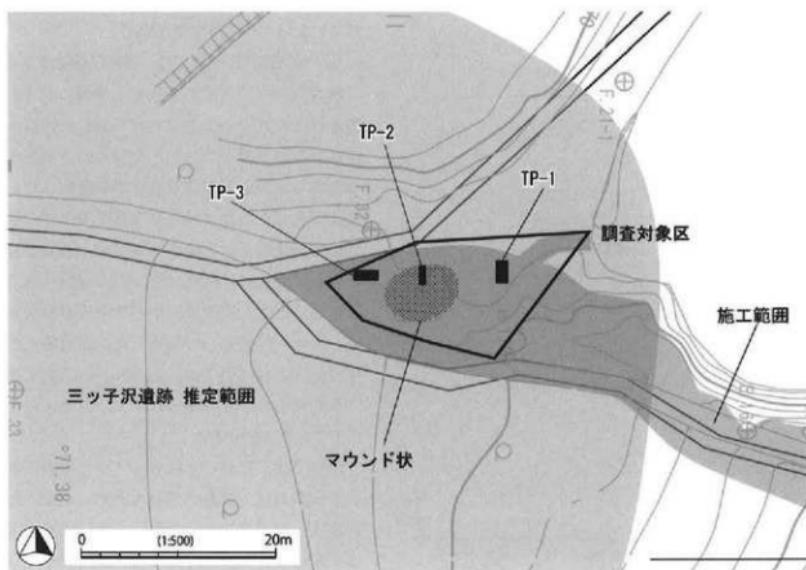
**確認調査に至る経緯** しかし、平成28年11月、原因工事に伴い遺跡範囲内で上水道引込の管理道路建設が急きょ計画されたことにより状況は一変した。現地確認の結果、管理道路建設予定の近くでは三ッ子沢遺跡の第1次調査で石器炉をもつ堅穴住居跡が発見されていたため建設工事範囲に遺跡の広がりが想定されること・増圧ポンプ室建築位置付近にある塚状のマウンド（幅約3m・高さ約1m）に人为的な遺構の可能性もあることから、確認調査の必要があると判断した。

現地は山間部で冬期間は積雪が見込まれるため年内に実施できるよう調整し、事業主体者からは平成28年12月7日付けで文化財保護法第93条の届出が提出された。市教委は博第613号の2で確認調査の実施が必要な旨で副申し、県教委から同月12日付け教文第1065号でその旨の通知があった。市教委は同日付け博第615号で文化財保護法第99条に基づく発掘調査の報告を県教委へ提出し、同月14日に確認調査を実施した。

## 2 調 査

### 1) 調査の目的と方法

確認調査は、三ッ子沢遺跡の広がりと範囲内にあるマウンドが人工の塚であるか否かを確認することが目的である。平成28年12月14日の1日間、調査担当を含む調査員・調査補助員4名で実施し、遺跡内の管理道路とポンプ室建築範囲を調査対象区として任意の位置に試掘坑を設定し、重機（バックホウ 0.15m<sup>3</sup>級 平爪）を使用して掘削した。各試掘坑では記録作業を終えた段階ですぐに埋め戻した。



第30図 三ッ子沢遺跡（第2次）確認調査 試掘坑配置図

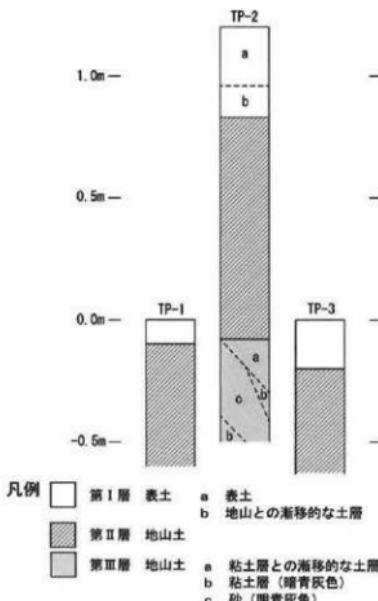
調査対象区は全体的に緩やかに傾斜するが、その一部の平坦地に試掘坑を3ヶ所設定し、そのうち1ヶ所を塚状マウンドに設けた。東側から着手し、試掘坑の名称は調査順に「TP-1」「TP-2」「TP-3」とした。3ヶ所の合計面積は約6.6m<sup>2</sup>で、調査対象区域は約300m<sup>2</sup>のため発掘率は約22%となる。

## 2) 基本層序

各試掘坑で確認した土層は堆積状況から第Ⅰ～Ⅲ層に分類した。第Ⅰ層は表土で、腐葉土が多くを占める10～20cmの自然堆積層である。第Ⅱ層はその直下に検出された黄褐色の地山層で、大小の礫が多数混じっている。第Ⅰ・Ⅱ層は3ヶ所の試掘坑で確認されたが、第Ⅲ層は塚状マウンドに設けたTP-2にだけ検出された土層で、暗青灰色の粘土層に明青灰色の砂が挟まれるように傾斜堆積しており第Ⅱ層とは分けた。

## 3) 試掘坑の概要

調査の結果、いずれの試掘坑からも遺物・遺構は発見されなかった。TP-1・TP-3では、第Ⅰ層と第Ⅱ層が検出された。TP-2は大木が根を張った不自然に残存する塚状マウンドの一部に設け、高さ約120cmのマウンドを構成する土層に第Ⅰ～Ⅲ層を確認した。土層の大部分を第Ⅱ層が占め、その下には第Ⅲ層が続いている。この堆積状況からは、TP-1からTP-3を設けた平坦地がかつては周囲と連続する傾斜地であったことを読み取れた。TP-1とTP-3は傾斜地を平坦に整地した際に切土された痕跡であり、TP-2のマウンド部分は整地する際に何かしらの理由で切土されず部分的に残ったものだと考えられる。塚状のマウンドについては、マウンド部分の土層には地表面上に自然堆積層だけが確認され遺物包含層はないため、人為的な構築物の可能性は極めて低いと判断した。



第31図 三ッ子沢遺跡（第2次）確認調査  
基本層序柱状模式図 (S = 1 : 20)

## 3 調査のまとめ

今回の確認調査では遺跡の広がりを確認できなかったが、マウンド部分が人為的に構築されたものではないことを明らかにできた。

三ッ子沢遺跡は、第1次調査によって縄文集落の存在が確実となったが集落の規模はわからず、当時の遺物・遺構検出状況からは西方向に遺構が分布する可能性が高いとされた〔柏崎市教委1992〕。今回の調査対象区は遺跡推定範囲の北西部に位置するため遺跡の西方向への広がりを確かめる機会だったが、遺構は発見されず広がりは確認できなかった。しかし、土層の堆積状況から試掘坑周辺は平坦に整地する際に切土されていたことが判明し、切土された範囲に遺跡が存在していた可能性も否定できない。集落の規模を把握するには、より広範囲で調査する必要があり、今後の調査成果によるところが大きい。

## XVII 総括

第27期となった平成29年度の柏崎市内遺跡発掘調査事業では、当該年度の試掘調査・確認調査の現場業務のほかに、平成28年度に実施した9件の調査について整理業務を継続し、報告書として本書を作成した。報告書に掲載した計9件の調査の内訳は、試掘調査5件、確認調査4件である。

試掘調査では、長嶺地区第1次（第Ⅱ章）で長嶺川田遺跡の1遺跡が新発見された。長嶺地区第2次（第Ⅳ章）では長嶺川田北遺跡、長嶺江添遺跡の2遺跡が新発見された。そして、五日市・内方地区第2次（第Ⅳ章）では、五日市前田遺跡、番ヶヶ遺跡、城ヶ崎遺跡、大割遺跡の4遺跡が新発見され、畠田遺跡の範囲が拡大した。その他、五日市・内方地区第1次（第Ⅲ章）、西山内郷地区第2次（第Ⅸ章）では、遺物・遺構ともに発見されなかった。

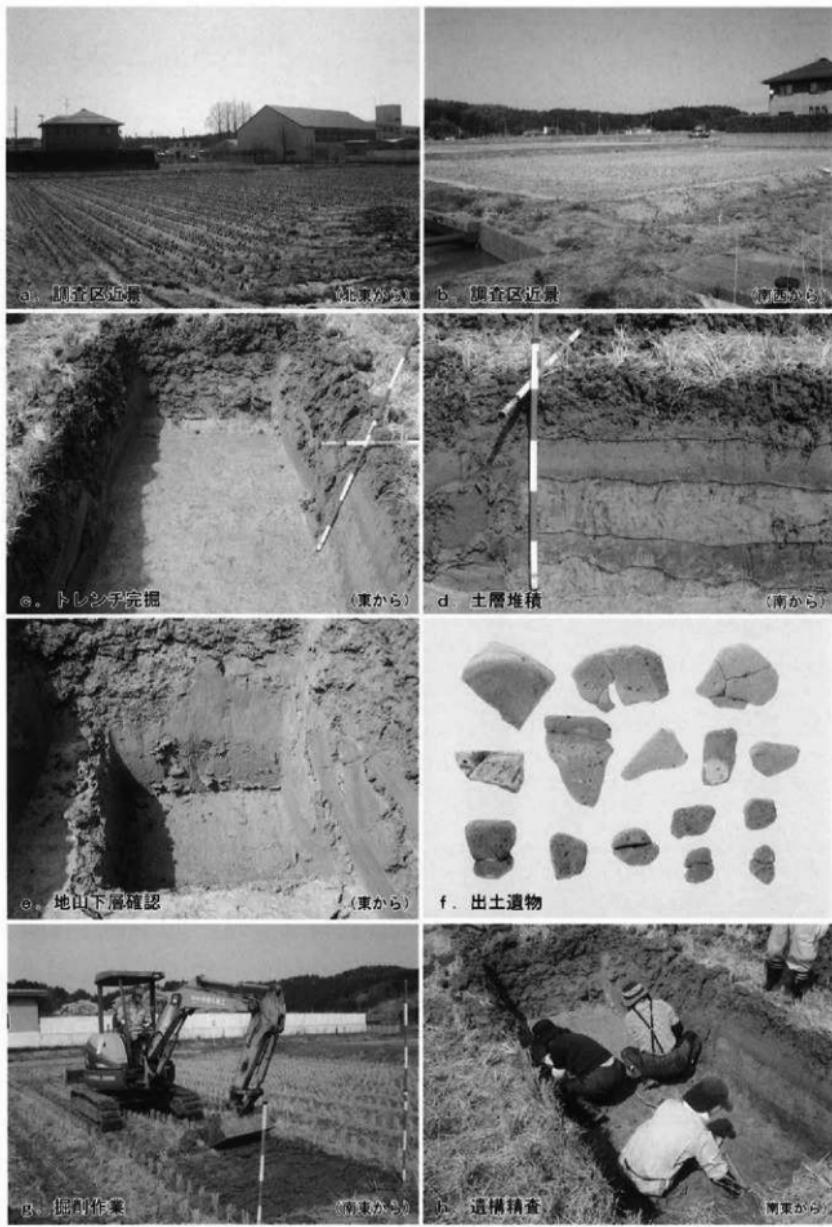
確認調査では、箕輪遺跡第8次（第Ⅳ章）で遺物のみが発見された。西岩野遺跡（第Ⅵ章）では遺物・遺構が発見された。大型の溝跡が検出されており注目される。一方、剣下川原遺跡第3次（第Ⅴ章）、三ッ子沢遺跡第2次（第Ⅹ章）では、遺跡推定範囲内または外縁部の調査であるが、遺物・遺構は発見されなかつた。

以上の成果は、各調査は限られた範囲で実施されたものであるが、記録資料の蓄積は柏崎市の歴史を理解するための足掛かりとなるものである。埋蔵文化財保護行政の基本ともいえる、試掘調査・確認調査等で得られる成果は、埋蔵文化財の保護に欠かせないものである。本事業が果たす役割は大きいといえよう。

### ◀ 引用・参考文献 ▶

- 柏崎市教育委員会 1987『埋蔵文化財発掘調査報告書 試掘調査報告 吉井水上I遺跡 戸口遺跡』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第8号)
- 柏崎市教育委員会 1992『柏崎市の遺跡I』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第16集)
- 柏崎市教育委員会 2002『柏崎市の遺跡X I』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第39集)
- 柏崎市教育委員会 2008『柏崎市の遺跡X VII』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第54集)
- 柏崎市教育委員会 2012『柏崎市の遺跡21』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第66集)
- 柏崎市教育委員会 2013『柏崎市の遺跡22』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第71集)
- 柏崎市教育委員会 2016 a『柏崎市の遺跡25』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第83集)
- 柏崎市教育委員会 2016 b『柏崎市の遺跡26』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第84集)
- 柏崎市教育委員会 2017 a『磯辺I』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第85集)
- 柏崎市教育委員会 2017 b『長嶺前田』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第86集)
- 柏崎市教育委員会 2017 c『磯辺II』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第87集)
- 柏崎市教育委員会 2017 d『中田下川原』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第88集)
- 柏崎市教育委員会 2017 e『久保田』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第89集)
- 柏崎平野団体研究グループ 1979『柏崎平野の第四系』『柏崎市史資料集 地質編』柏崎市史編さん委員会編
- 小林雄進・坂川健勝・久保田喜裕・神蔵勝明・渡辺秀男・渡辺文雄 2008『中越地方西部の地形と地質』地学団体研究会新潟支部中越地震調査団体編『柏崎・刈羽をおそった地震の被害と基盤-2007年新潟県中越沖地震-』(地団研專報57号) 地学団体研究会
- 新潟県教育委員会・他 2002『実験遺跡I 一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書I』新潟県埋蔵文化財調査報告書第109集
- 新潟県教育委員会・他 2015『箕輪遺跡II 一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書IX』新潟県埋蔵文化財調査報告書第254集
- 西山町教育委員会 2001『畠田遺跡発掘調査報告書』(西山町文化財調査報告書 第5集)

## II 長嶺地区（第1次）



図版 2

III 五日市・内方地区（第 1 次）





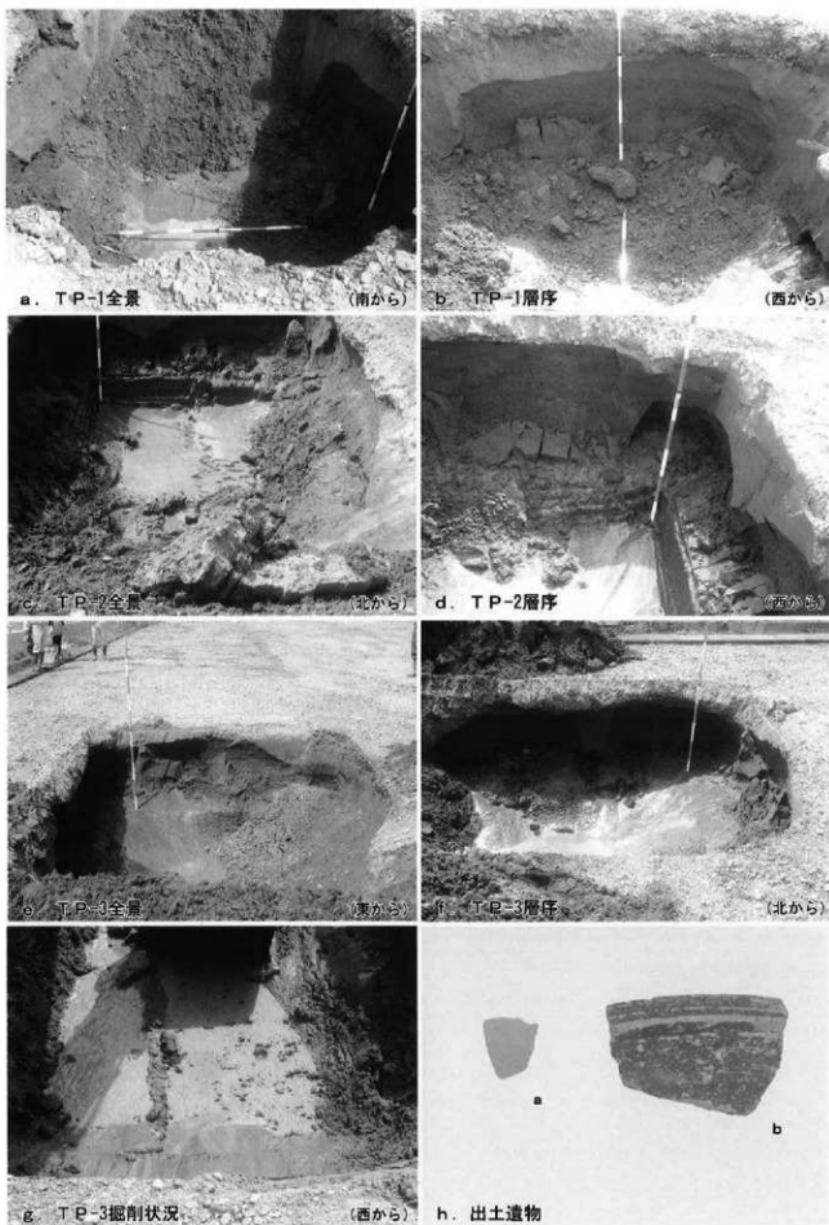
a. 調査区近景

(南西から)



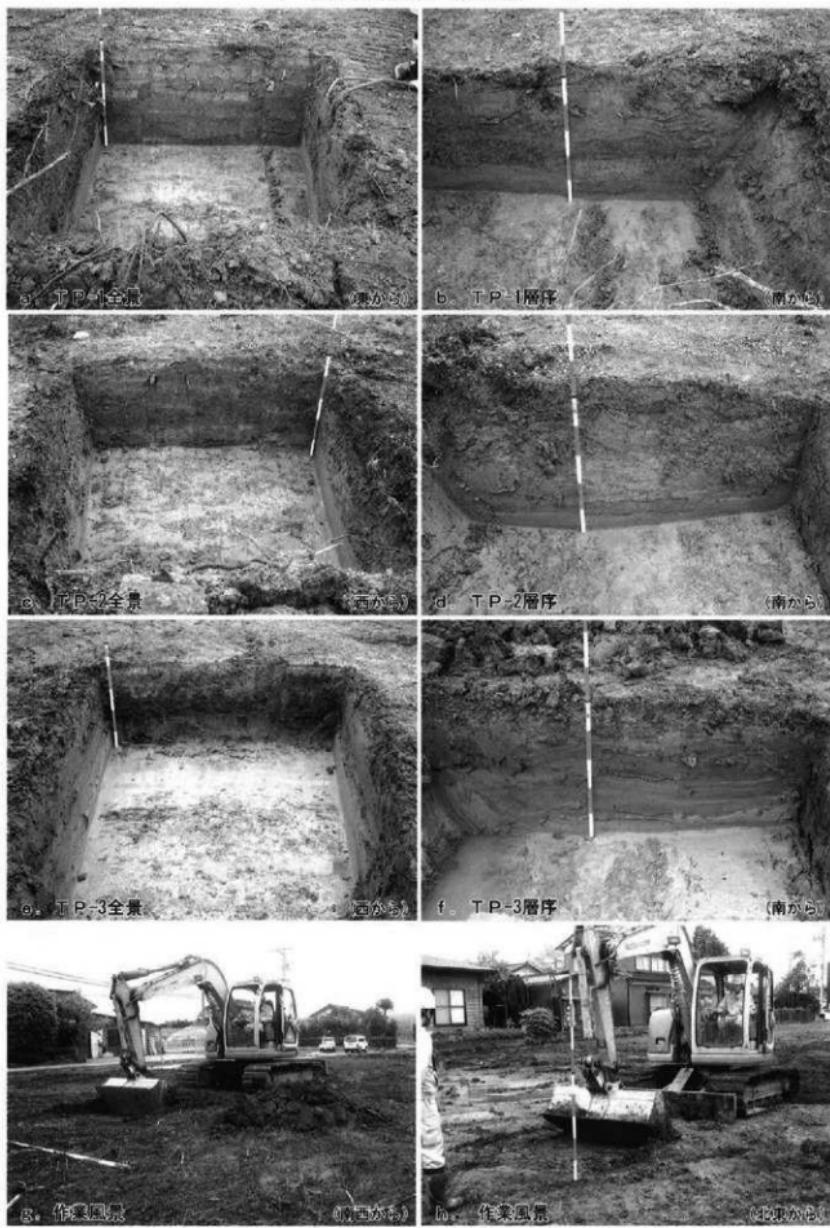
b. 調査区近景

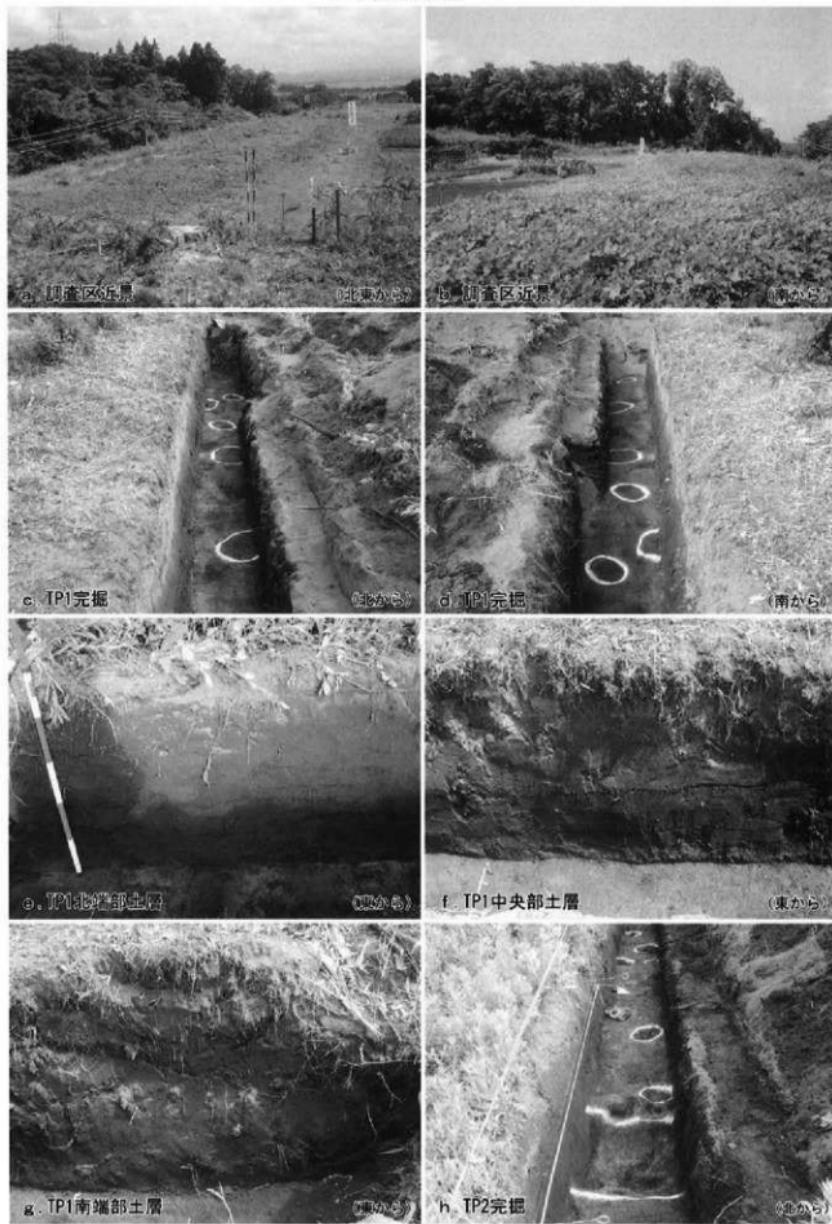
(南東から)



## V 剣下川原遺跡（第3次） 1

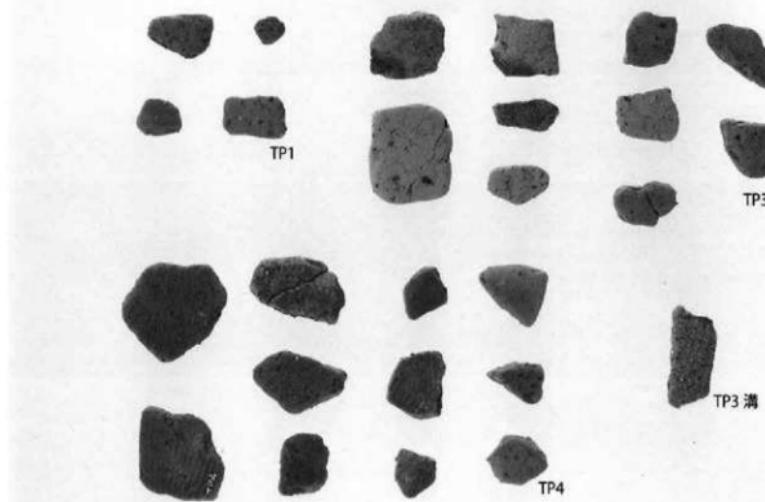
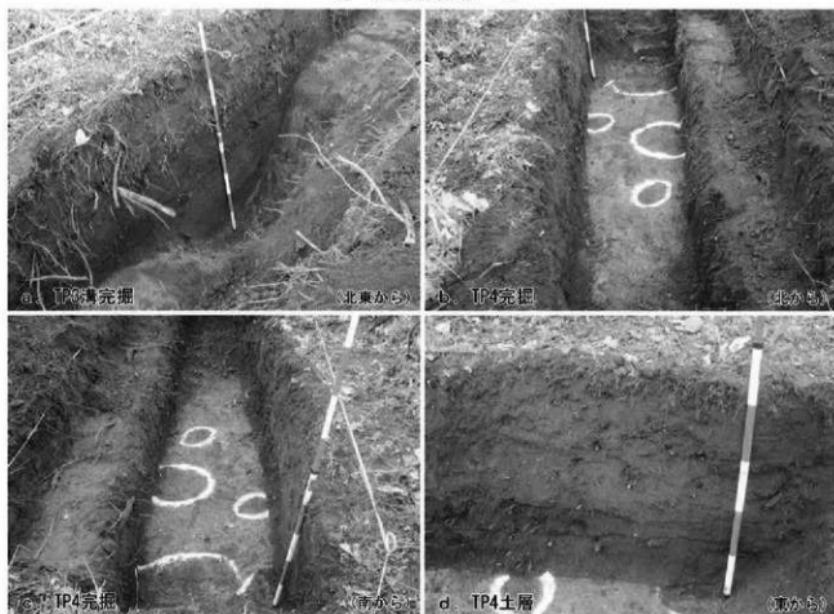


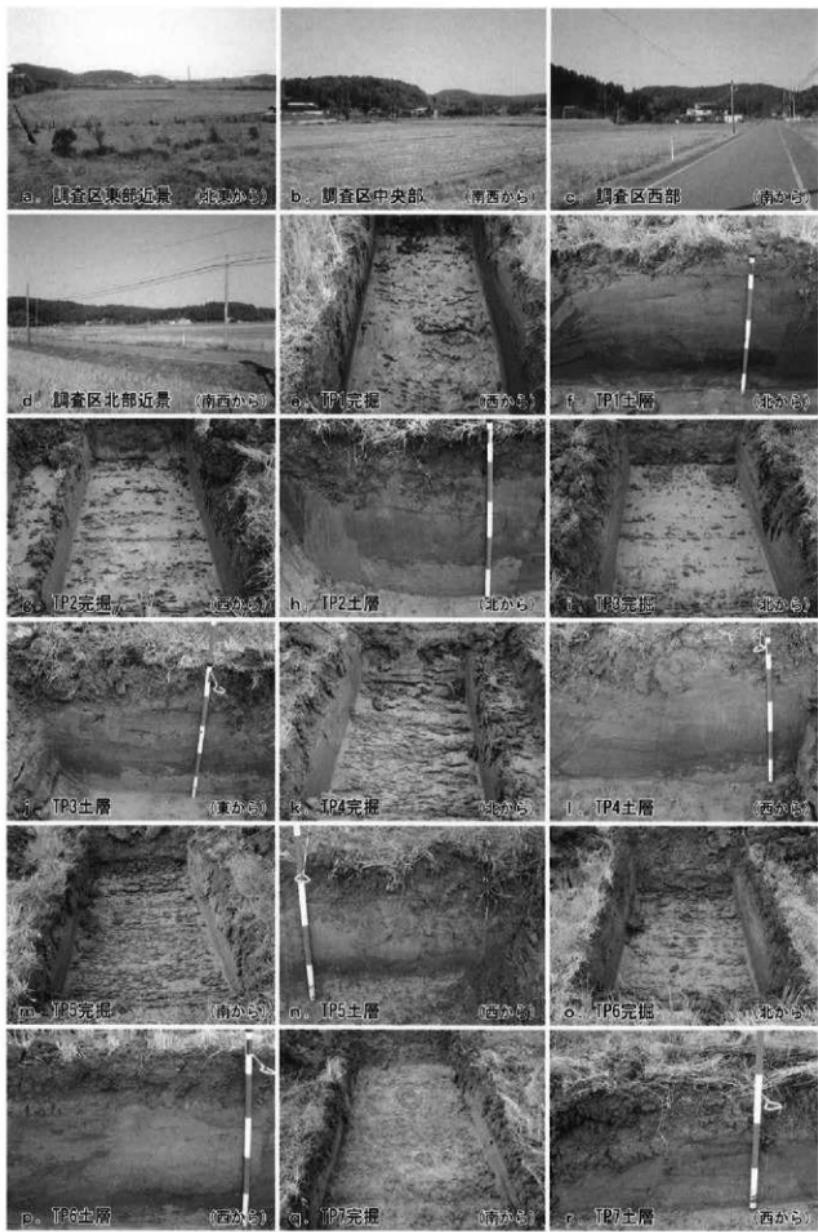




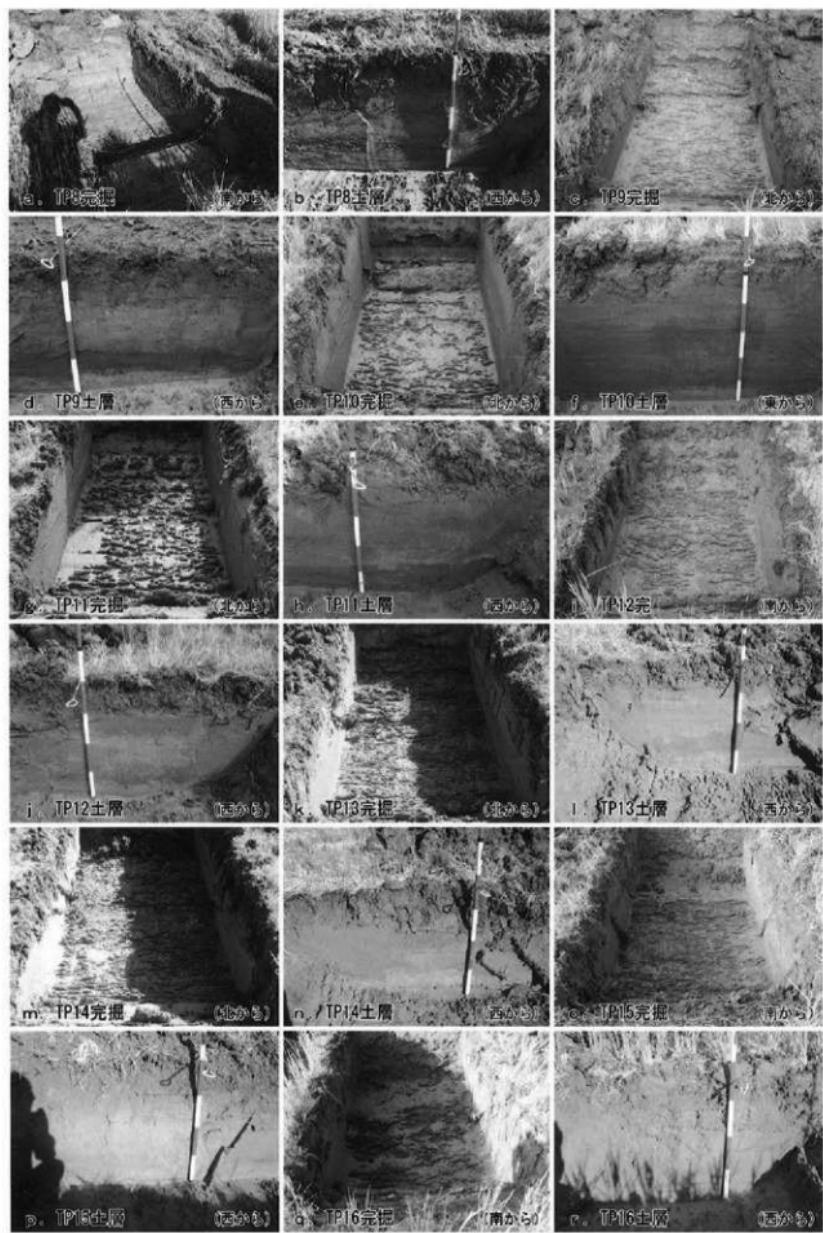


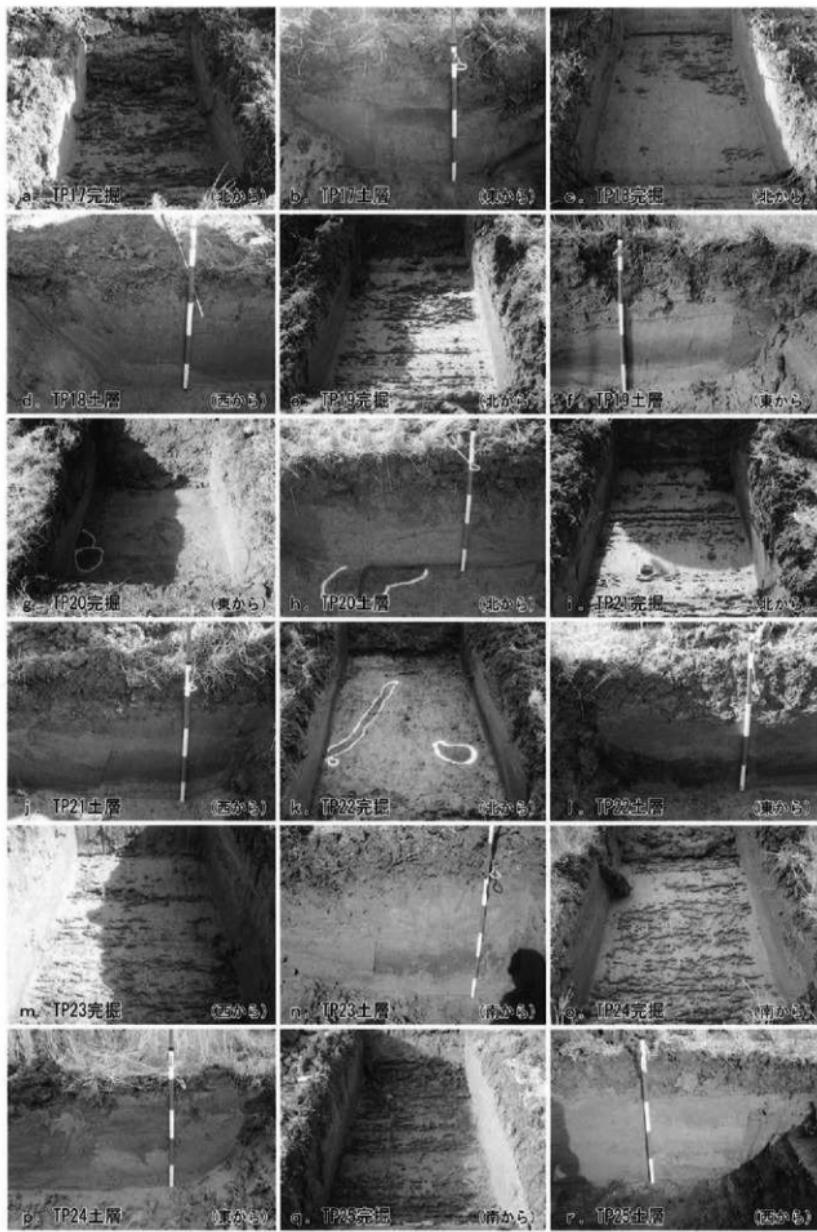
## VI 西岩野遺跡 3

**e. 出土遺物**

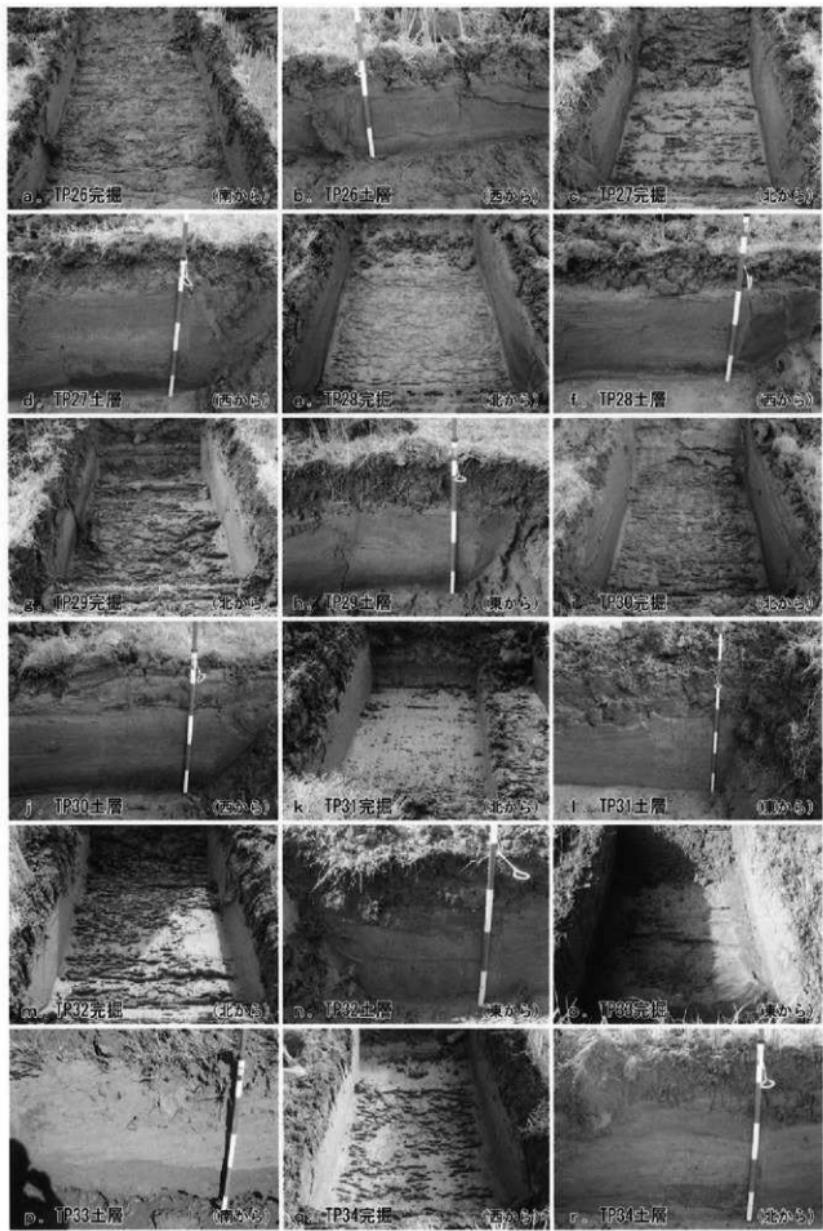


## VII 長嶺地区（第2次）2



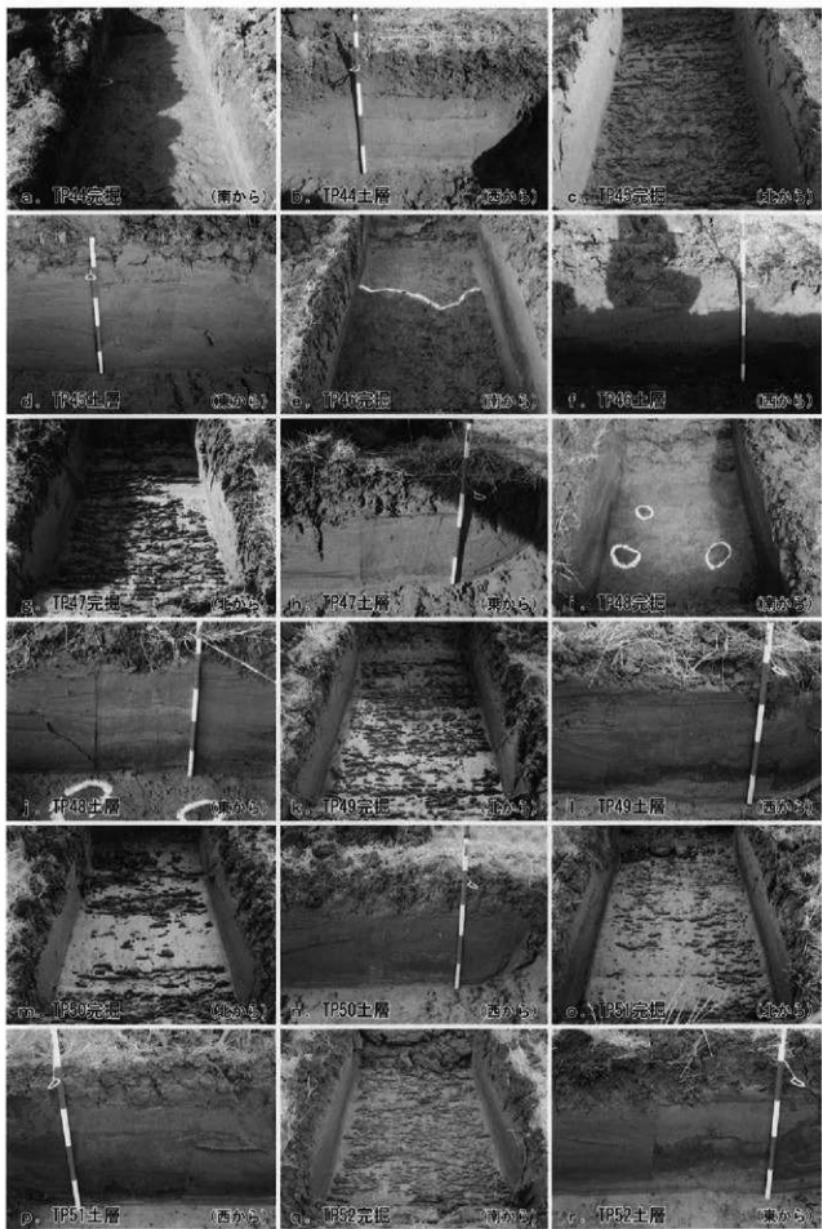


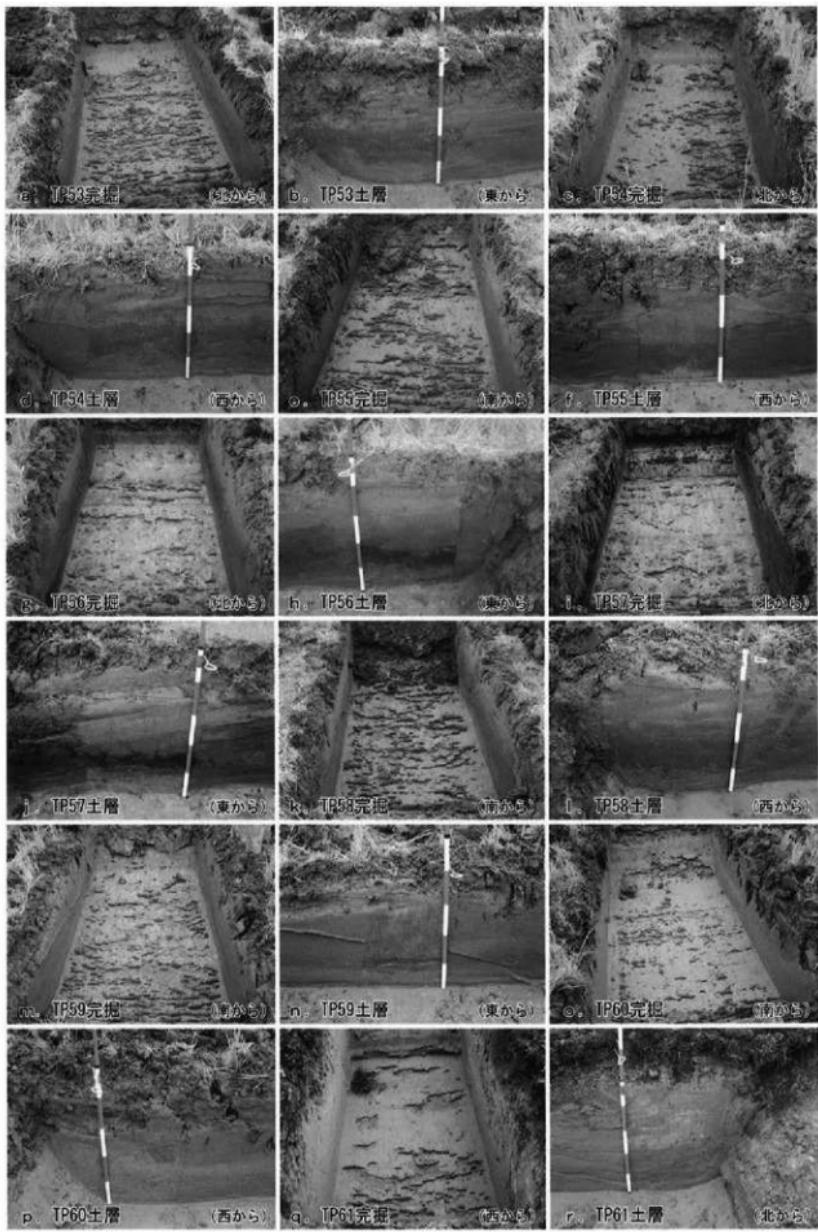
## VII 長嶺地区（第2次）4



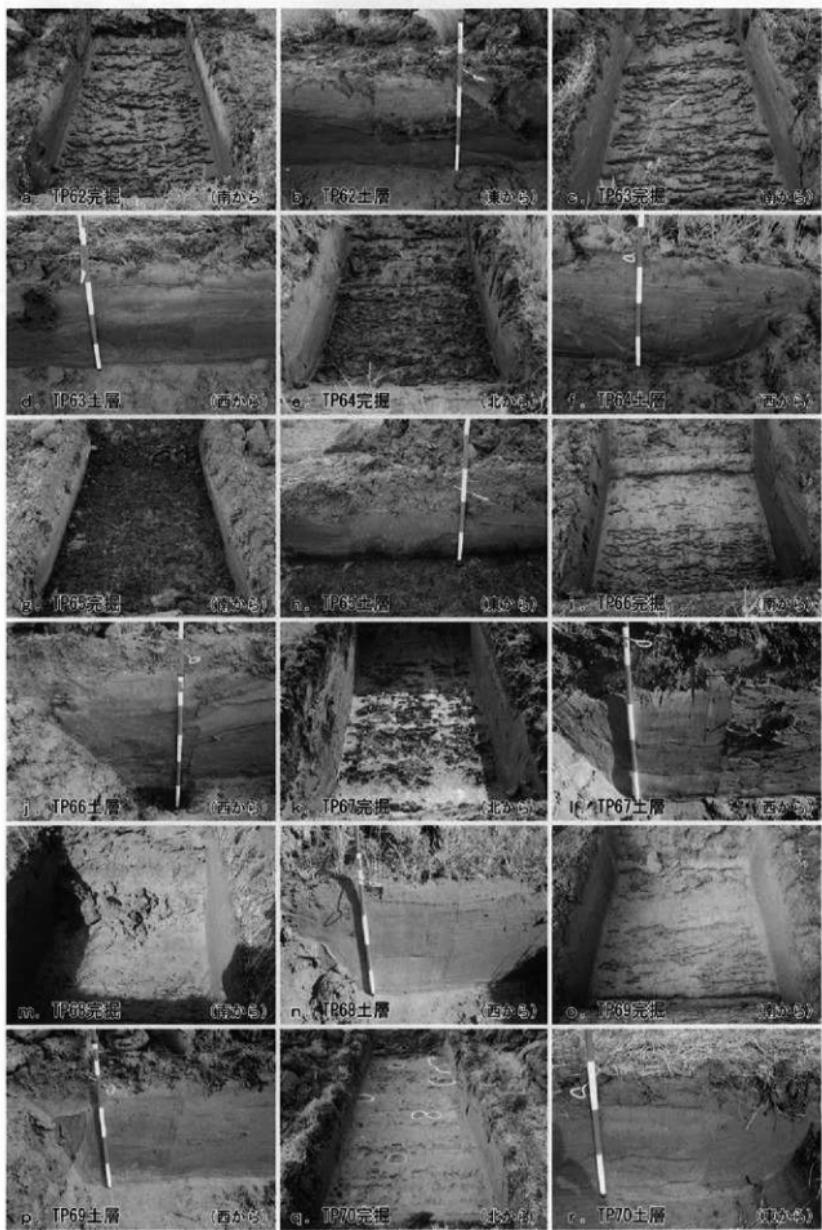


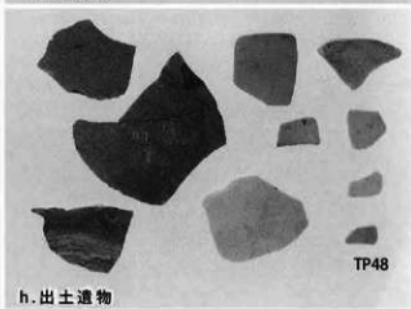
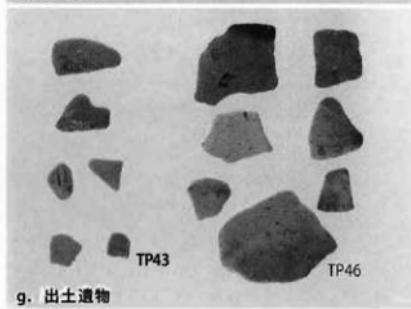
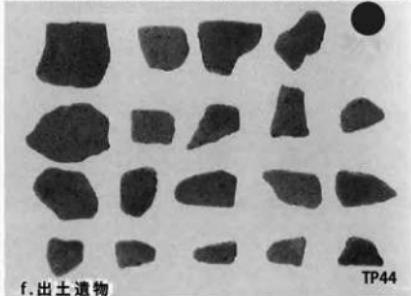
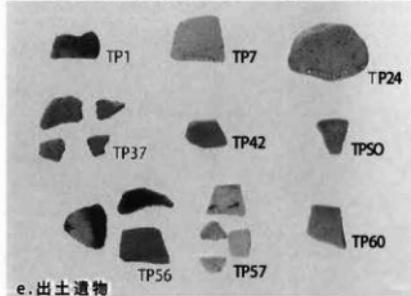
## VII 長嶺地区（第2次）6





## VII 長嶺地区（第2次）8

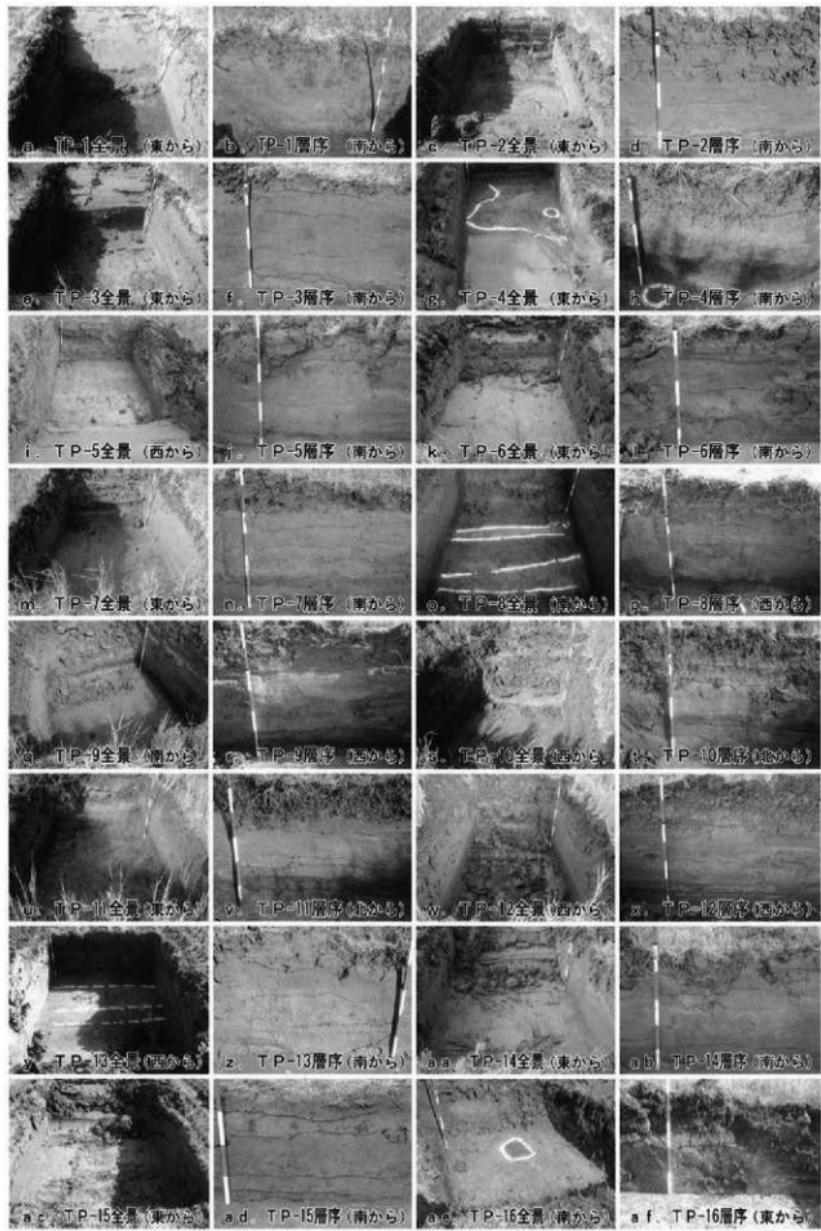




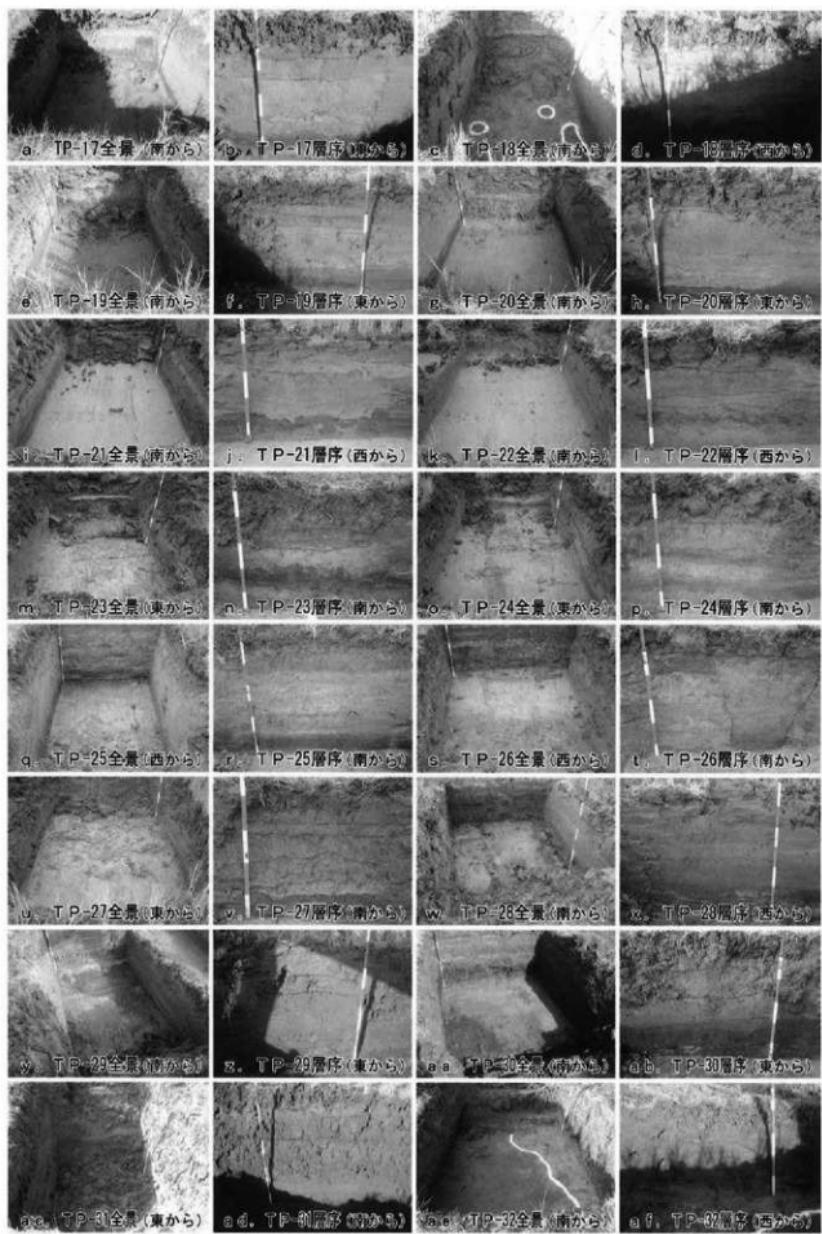
## VII 五日市・内方地区（第2次） 1

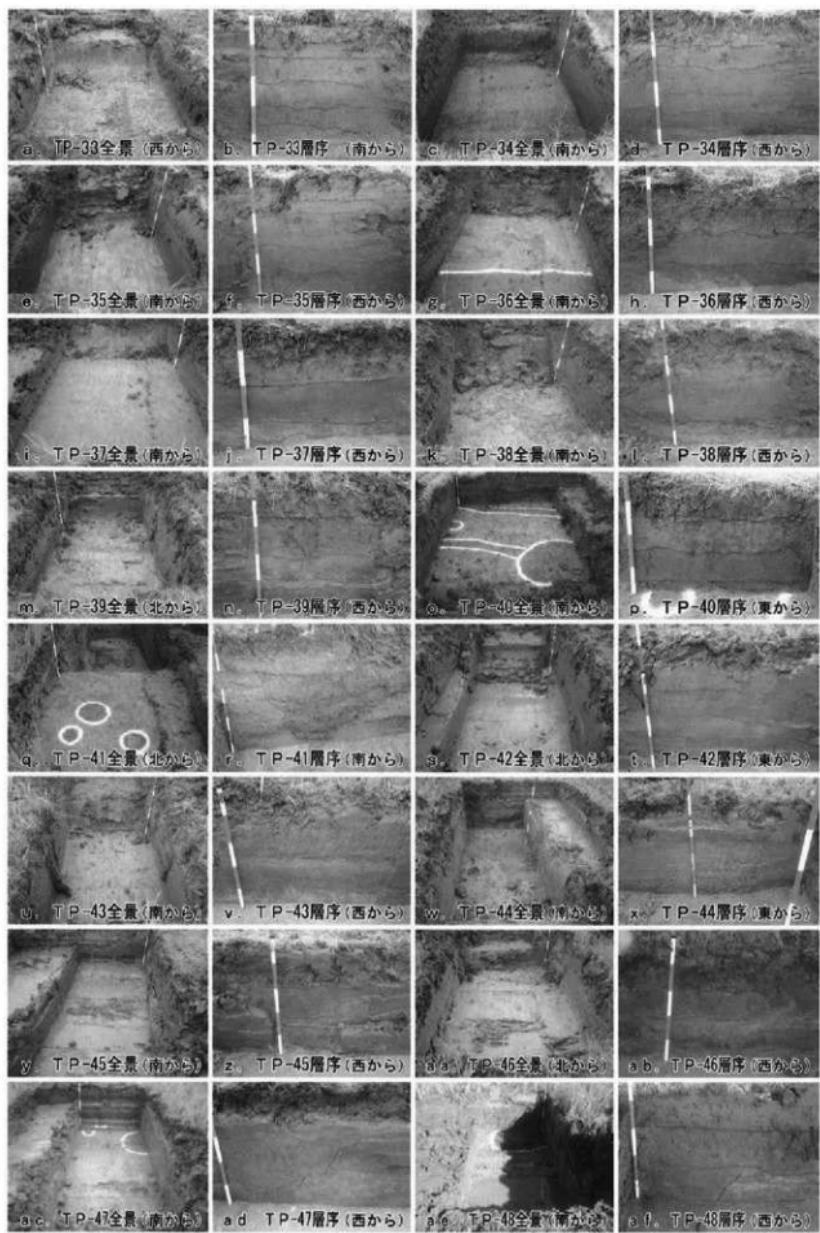


## VII 五日市・内方地区（第2次）2

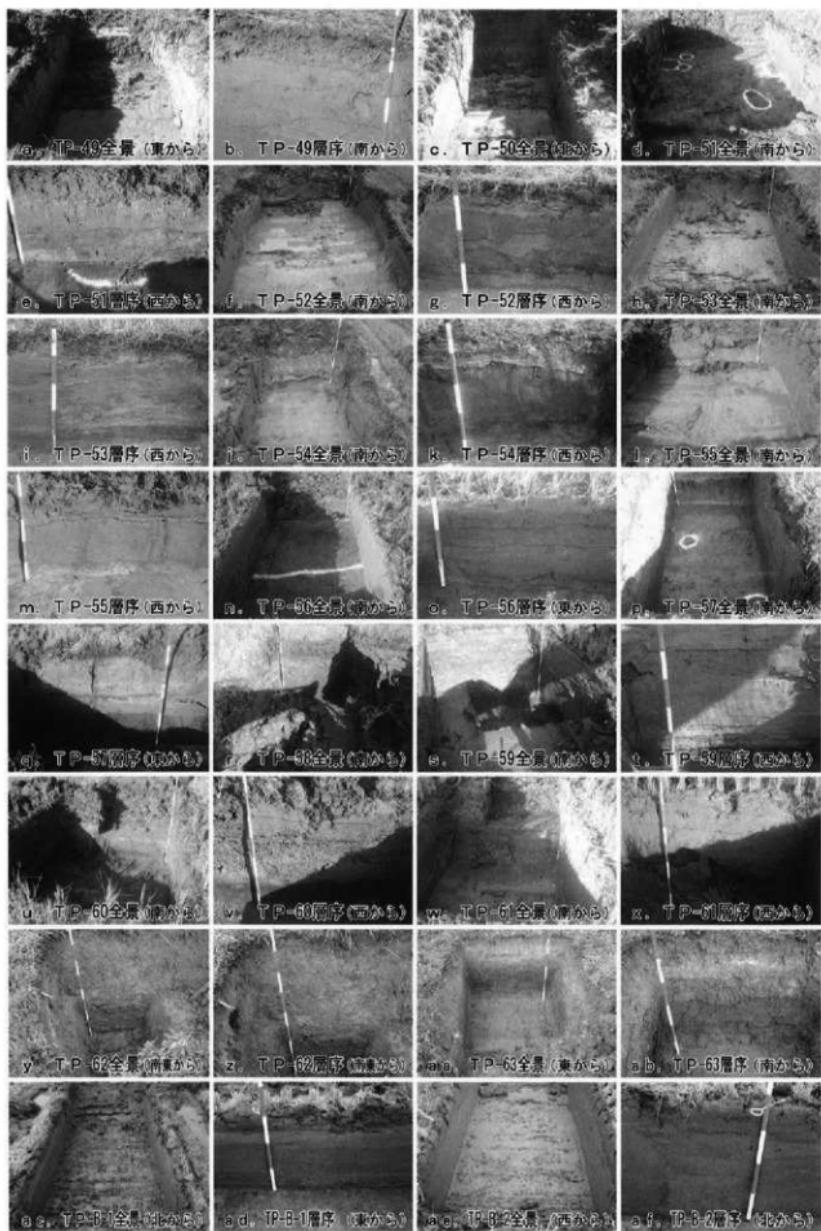


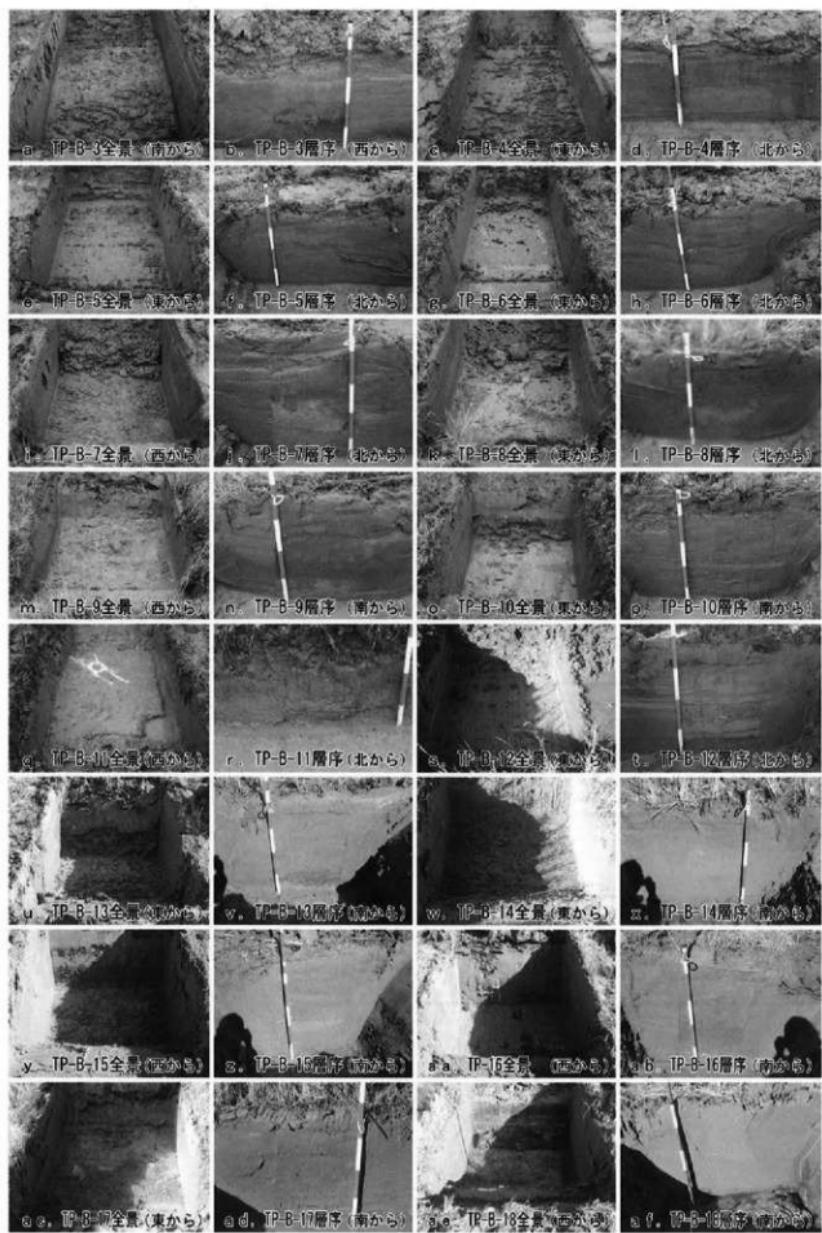
## VII 五日市・内方地区（第2次）3

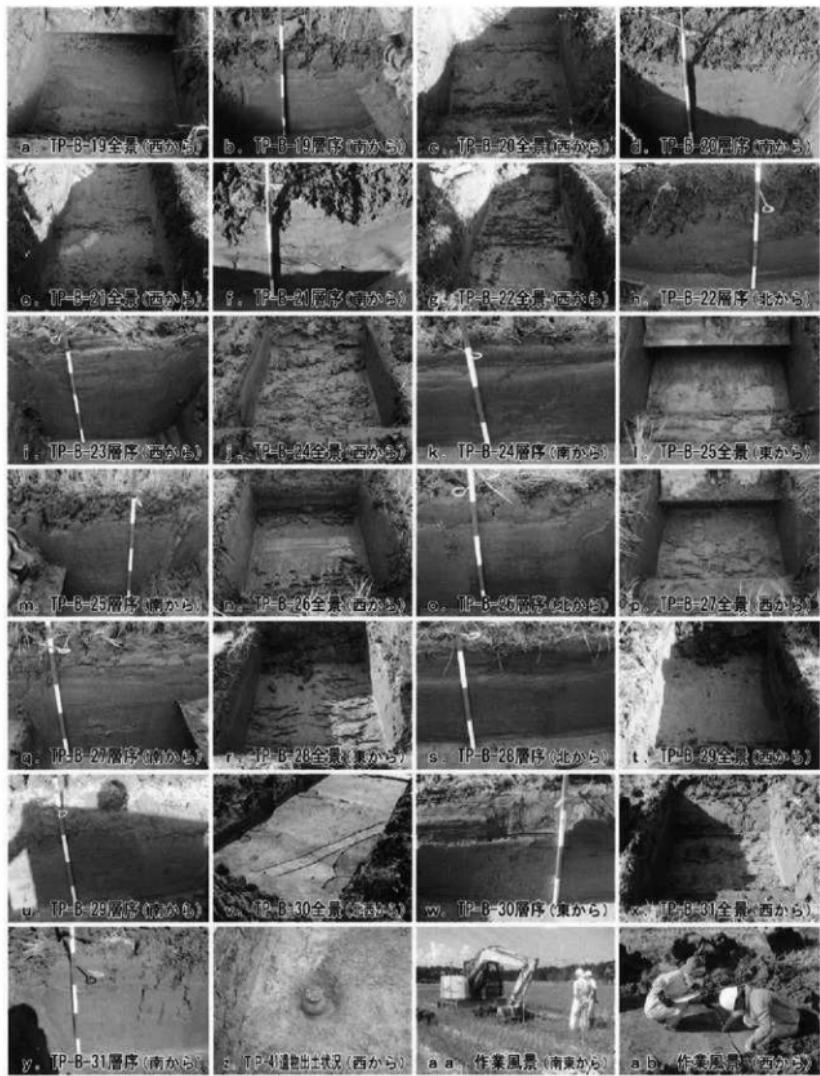


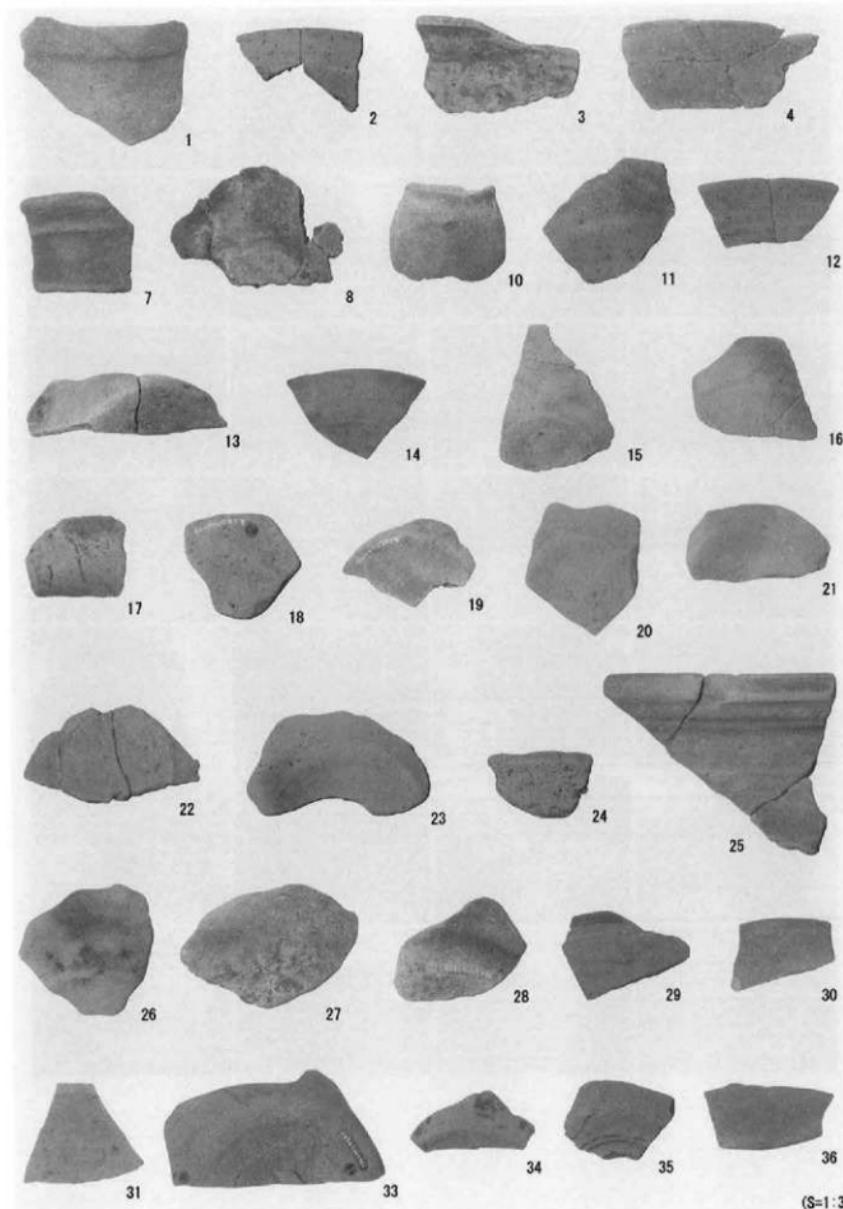


## VII 五日市・内方地区（第2次）5

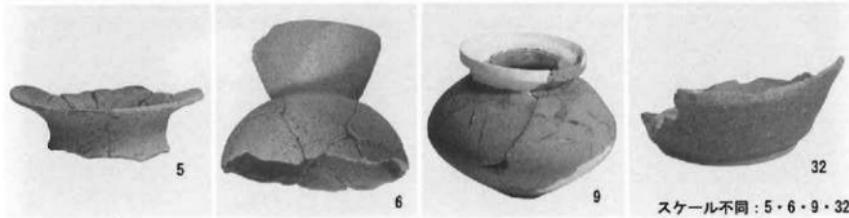
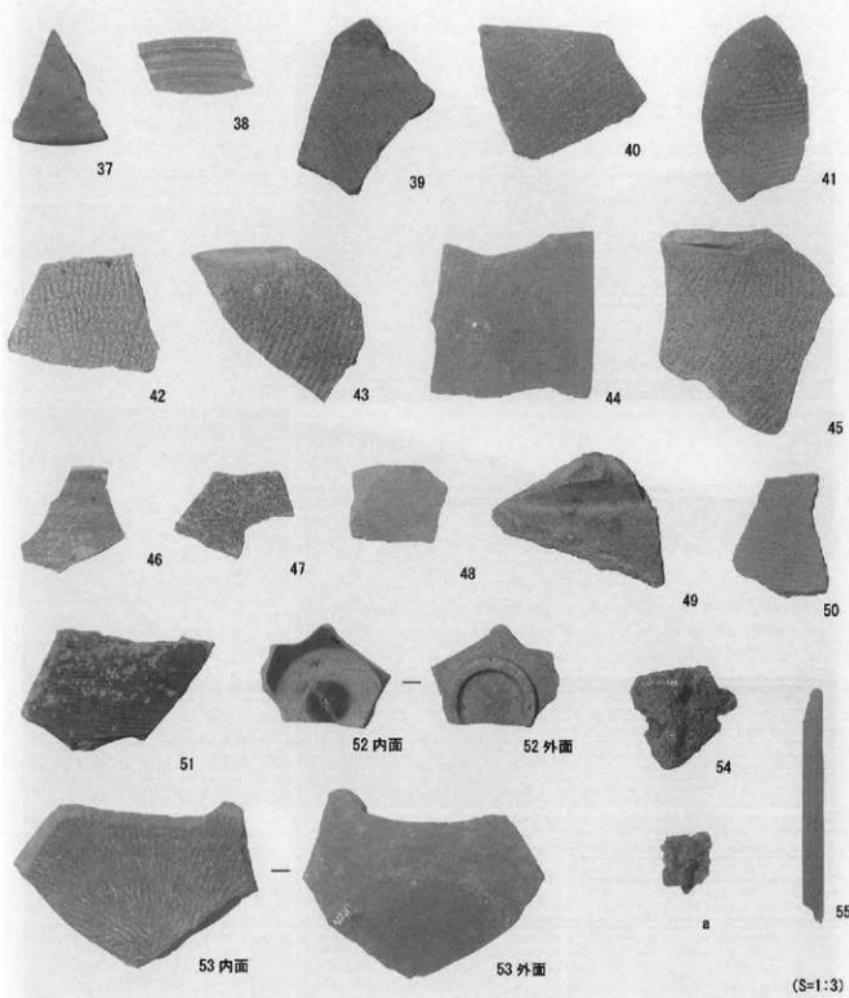




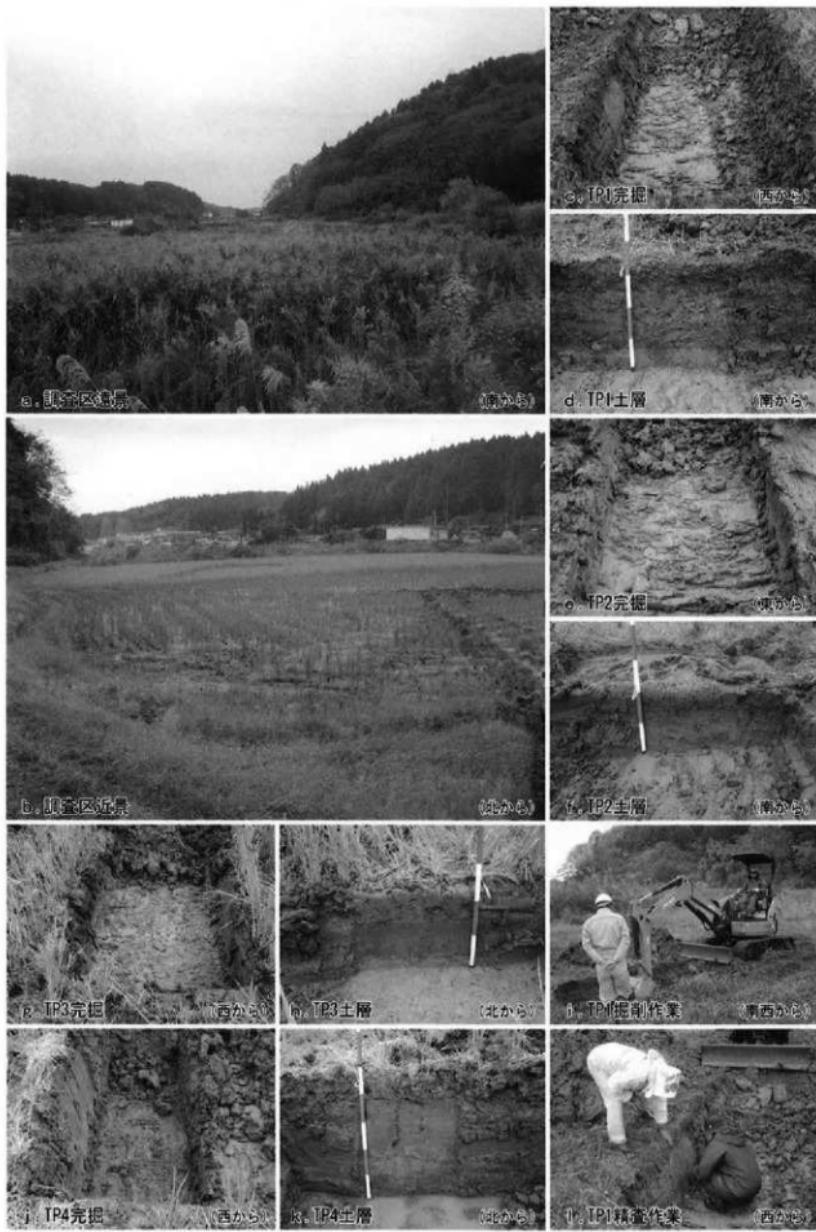




(S=1:3)

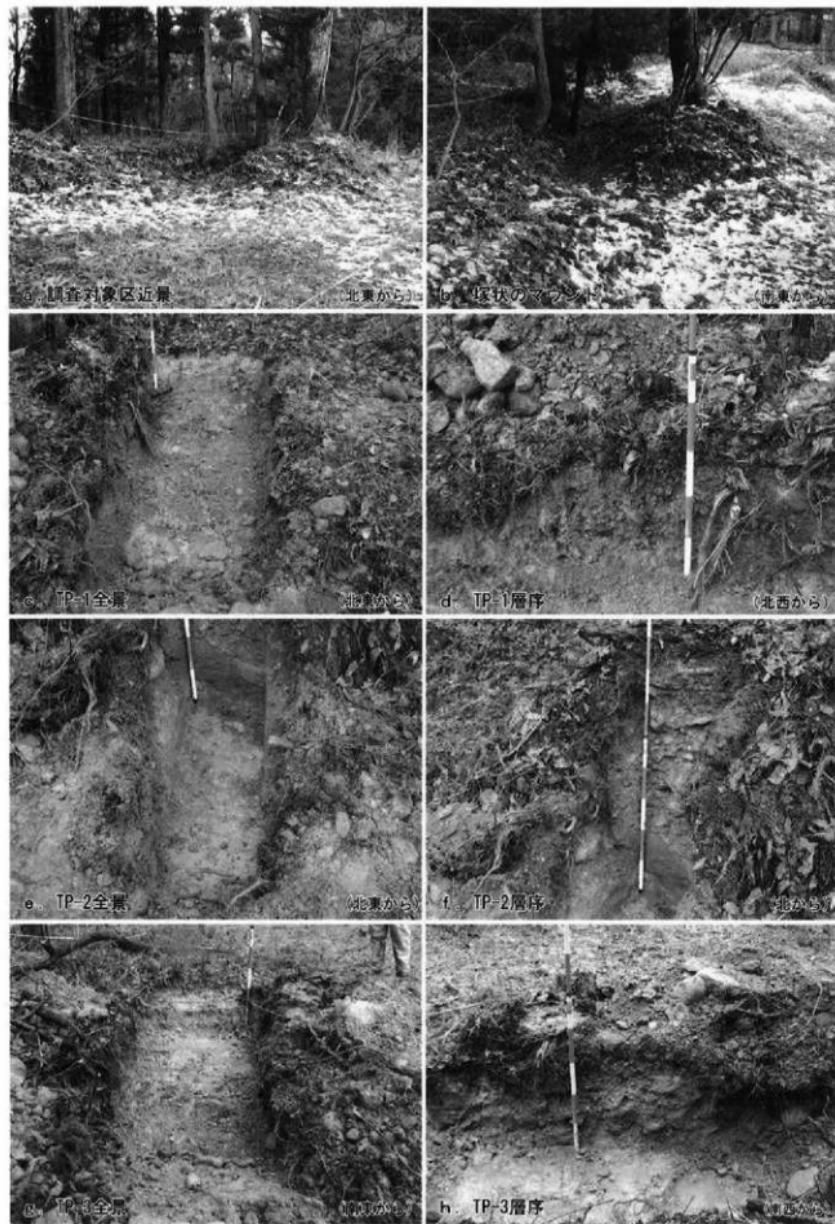


## IX 西山内郷地区（第5次）



X 三ッ子沢遺跡（第2次）

図版29



報告書抄録

ふりがな	かしわざきしのいせき							
書名	柏崎市の遺跡 27							
副書名	新潟県柏崎市内遺跡 平成28年度試掘調査等報告書							
シリーズ名	柏崎市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第91集							
編著者名	平吹 靖(福) 中島義人 池田孝博							
編集機関	柏崎市教育委員会							
所在地	945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号 TEL 0257-23-5111							
発行年月日	2017年12月15日							
ふりがな 所轄遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間 西暦年月日	発掘 面積 m <sup>2</sup>	発掘 原因
なみねらく 長瀬地区 (第1次)	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 にしやまもながみ村 西山 町長瀬	15205		37° 27° 06°	138° 38° 34°	20160413	7.6	試掘調査
いづからく 五日市・内方地区 (第1次)	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 にしやまもながみ村 西山町 五日市	15205		37° 26° 07°	138° 38° 30°	20160413	3.91	試掘調査
みのないせき 実輸道路 (第8次)	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 ほんじいともよのか 半田一丁目	15205	347	37° 18°	138° 34° 10°	20160427	32.3	確認調査
つるぎしがわらいせき 剣下川原遺跡 (第3次)	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 おねあざつぎ 大字 鶴	15205	345	37° 08°	138° 36° 16°	20160512	17.1	確認調査
にいがたけんかしわざき 西岩野遺跡	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 おねあざわらと 大字 山本	15205	313	37° 46°	138° 35° 43°	20160607 ~ 20160908	19.88	確認調査
なみねらく 長瀬地区 (第2次)	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 にしやまもながみ村 西山 町長瀬	15205		37° 27° 14°	138° 38° 50°	20161018	420.96	試掘調査
いづからく 五日市・内方地区 (第2次)	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 にしやまもながみ村 西山町 五日市	15205		37° 26° 03°	138° 38° 25°	20161020 ~ 20161109	487	試掘調査
にしやまないごうちく 西山 内郷地区 (第5次)	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 にしやまもながみ村 西山町 上山田	15205		37° 28° 42°	138° 40° 53°	20161031	17.33	試掘調査
みこせまいせき 三ッ子沢遺跡 (第2次)	にいがたけんかしわざきし 新潟県柏崎市 おねあざくみ村 大字 久米	15205	332	37° 17° 26°	138° 36° 07°	20161214	6.6	確認調査

所 収 遺 路 名	種別	主な 時代	主な 遺構	主な 遺物	特記事項
長瀬地区（第1次）			なし	土師器・須恵器	長瀬川田遺跡が新たに発見された。
五日市・内方地区（第1次）			なし	なし	
箕輪道路（第8次）			なし	近世鉄道器・土師器	
剣下川原遺跡（第3次）			なし	なし	
西岩野遺跡		弥生時代後期	ピット・溝・土坑	土器群	弥生時代後期の可能性がある大型の窓が発見された。
長瀬地区（第2次）			ピット・溝・土坑	土師器・須恵器・磁器	長瀬口新遺跡・長瀬川田北遺跡が新たに発見され、長瀬前田遺跡の範囲が縮小した。
五日市・内方地区（第2次）			ピット・溝・土坑	土師器・須恵器・珠玉鏡・磁器・鐵鋤・木製品	五日市前田遺跡・番ヶ表遺跡・城ヶ崎遺跡・大割遺跡が新たに発見され、畠道遺跡の範囲が拡大した。
西山内部地区（第5次）			なし	なし	
三ッ子沢遺跡（第2次）			なし	なし	
要 約					<p>本調査は、国県の補助金事業である市内遺跡発掘調査等事業で作成した第27号の報告書である。平成28年度に実施した試掘調査等の7遺跡等9件の報告を収録した。</p> <p>9件の調査では、5件の調査で遺跡の痕跡を確認し、7遺跡が新たに発見され、1遺跡の範囲が拡大した。他の4件の調査では遺跡の痕跡を確認することはできなかったが、関連するデータを多く集めることができた。</p> <p>試掘調査等で得られる資料は、埋蔵文化財の保護に欠かせないものであり、本事業が果たす役割は大きいといえよう。</p>

柏崎市埋蔵文化財調査報告書第91集

## 柏崎市の遺跡27

—新潟県柏崎市内遺跡 平成28年度試掘調査等報告書—

平成29年 12月 8日 印刷

平成29年 12月15日 発行

発行 柏崎市教育委員会

〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号

印刷 株式会社 小田

〒945-1352 新潟県柏崎市安田4153番地1